

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	病院前医療概論 I Introduction to Prehospital Care I	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	古森 喬 ○
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜日 1・2限
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>病院前医療概論では、救急医療体制・災害医療体制・病院前医療体制(プレホスピタル)・消防機関における救急活動について救急救命士の必須のスキルとして学びます。病院前医療概論では、メディカルコントロール(MC)や現場活動・医療機関選定と搬送・通信体制・救急活動の記録・関係機関との連携について理解し、本授業修了時には各々の説明ができるようになります。</p> <p>実務経験: 1995年3月看護師免許取得 1997年4月～2003年11月ICU所属・2003年11月～2010年10月ER所属・2010年11月～2015年2月循環器、外科病棟・2015年3月～形成外科、泌尿器科病棟 現在に至る 福岡県施設病院協会看護学校:2014年～災害看護学・国際看護学 講師 JNTECプロバイダー取得、JPTECプロバイダー取得、徳洲会災害支援ナース登録、AHA ACLSプロバイダー取得、AHA ACLS-EPプロバイダー取得、AHAファーストエイドプロバイダー取得、AHA BLSインストラクター取得 主業務はICUでは術後の管理、集中治療やER初期診療後の全身管理、ERでは救急初期診療・BLS・ICLS活動・災害教育、院内移植コーディネーターを行っていた。</p>							
【到達目標】							
<p>救急・災害・病院前医療体制について学び消防機関における救急活動を熟知し傷病者を安全に救急搬送できるようになる。</p> <p><具体的目標></p> <p>目標①・救急医療体制について説明できる。 目標②・災害医療体制について説明できる。 目標③・病院前医療体制(プレホスピタル)について説明できる。 目標④・消防機関における救急活動について説明できる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	【到達目標】・救急医療体制について説明できる。①・救急搬送における統計・体制・ドクターヘリ・ドクターカー・救急医療システムについて(救急告示病院・初期・第二次・第三次医療体制)・周産期・精神・小児医療体制について						
2回目	【到達目標】・救急医療体制について説明できる。②・救急搬送における統計・体制・ドクターヘリ・ドクターカー・救急医療システムについて(救急告示病院・初期・第二次・第三次医療体制)・周産期・精神・小児医療体制について						
3回目	【到達目標】・災害医療体制について説明できる。①・災害の概念(定義・分類・事例)・多数傷病者対応・トリアージについて・大規模災害における災害医療体制について・特殊災害(CBRNE)について						
4回目	【到達目標】・災害医療体制について説明できる。②・災害の概念(定義・分類・事例)・多数傷病者対応・トリアージについて・大規模災害における災害医療体制について・特殊災害(CBRNE)について						
5回目	【到達目標】・災害医療体制について説明できる。③・災害の概念(定義・分類・事例)・多数傷病者対応・トリアージについて・大規模災害における災害医療体制について・特殊災害(CBRNE)について						
6回目	【到達目標】・災害医療体制について説明できる。④・災害の概念(定義・分類・事例)・多数傷病者対応・トリアージについて・大規模災害における災害医療体制について・特殊災害(CBRNE)について						
7回目	【到達目標】・病院前医療体制(プレホスピタル)について説明できる。①・救命の連鎖(BLS・ACLS・応急手当)・MCについて(直接MC・間接MC・協議会・PDCAサイクル)						
8回目	【到達目標】・病院前医療体制(プレホスピタル)について説明できる。②・救命の連鎖(BLS・ACLS・応急手当)・MCについて(直接MC・間接MC・協議会・PDCAサイクル)						
9回目	【到達目標】・病院前医療体制(プレホスピタル)について説明できる。③・救命の連鎖(BLS・ACLS・応急手当)・MCについて(直接MC・間接MC・協議会・PDCAサイクル)						
10回目	【到達目標】・病院前医療体制(プレホスピタル)について説明できる。④・救命の連鎖(BLS・ACLS・応急手当)・MCについて(直接MC・間接MC・協議会・PDCAサイクル)						
11回目	【到達目標】・消防機関における救急活動について説明できる。①・119番受信と通信体制・出勤・現場活動・医療機関選定と搬送・通信体制・救急活動の記録・関係機関との連携						
12回目	【到達目標】・消防機関における救急活動について説明できる。②・119番受信と通信体制・出勤・現場活動・医療機関選定と搬送・通信体制・救急活動の記録・関係機関との連携						
13回目	【到達目標】・消防機関における救急活動について説明できる。③・119番受信と通信体制・出勤・現場活動・医療機関選定と搬送・通信体制・救急活動の記録・関係機関との連携						
14回目	終講試験対策						
15回目	終講試験						
準備学習 時間外学習	(目標①)救急救命士としての救急医療体制について理解し迅速な救急搬送ができるためにも復習が必要です。 (目標②)救急救命士として災害時の概念を理解し多数傷病者対応を行い適切で迅速な搬送が出来るためにも復習が必要です。 (目標③)救急救命士として病院前医療体制(プレホスピタル)を迅速に実施するためにも復習が必要です。 (目標④)救急救命士として医療機関選定と搬送・通信体制・救急活動の記録・関係機関とを理解して実施していくためにも復習が必要です。						
評価方法	最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、救急医療体制・災害医療体制・病院前医療体制・消防機関における救急活動の習熟度を測るため、筆記試験を行う。 ●出席率 ●小テスト ●定期テスト(終講試験) 上記にて成績評価判定を行う。						
受講生への メッセージ	魅力: 救急救命士として医療体制を理解することで、いかに迅速に目的の病院へ搬送することは患者やその家族の不安を和らげます。 授業計画: 看護師として今までの経験を活かし皆さんが興味をもてる授業内容で進めていきたいと思っています。 救急救命士は専門性で難しいイメージがあると思いますが授業の中で少しずつ過去の国家試験問題を解き学んでいきたいと思っています。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書: 改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	病院前医療概論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	深梅 亜紀子
	Introduction to Prehospital Care Ⅱ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日 1・2限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 「救急医療」は突発的に発生し緊急に適切な処置を行わないと症状が悪化する。生命そのものが危険な状態にある傷病者の診療である。傷病者の救命率の向上と予後の改善は病院前救護活動に大きく左右される。
 救急救命士の専門性である病院前救護活動の役割や責任について「整合性がとれる」ように繰り返し改善・向上しながら「効果」「効率」「魅力」を高めるインストラクショナルデザインの実践を行い本授業終了時には各々の説明ができるようになる。
 実務経験: 1998年3月看護師免許取得 1998年4月～2011年3月ICU所属・2011年4月～2015年5月までER所属する
 JUNTECプロバイダー取得、JTAS緊急度・重症度判定プロバイダー取得 福岡看護協会災害支援ナース登録、日本救急医学会認定ICLSインストラクター取得
 主業務はICUではROSC後の集中治療やER初期診療後の全身管理、ERでは救急初期診療・BLS・ICLS活動・災害教育を行っていた

【到達目標】
 病院前救護活動における救急救命士の役割と責任について学び、救急救命士として法令及び安全管理を遵守した現場活動ができるようになる。
 <具体的目標>
 ①救急救命士の役割について説明できる
 ②救急救命士と傷病者の関係について説明できる
 ③救急救命士に関する法令について説明できる
 ④救急救命士の養成と生涯教育について説明できる
 ⑤安全管理・感染対策について説明できる
 ⑥ストレスに対するマネージメントについて説明できる

授業計画・内容	
1回目	(目標①)救急医療における救急救命士の役割(傷病者・医療機関とのかかわり・連携)について説明ができる
2回目	(目標①)医療職種としての責任(守秘義務・救急救命処置録・自己研鑽)について説明ができる
3回目	(目標②)ICとコミュニケーション・対象に応じたコミュニケーション(高齢者・小児・関係者・医師・MIST・隊員)が出来る
4回目	(目標②)救急活動におけるコミュニケーション(DNAR)が出来る
5回目	(目標③)・法令について・救急救命士法について説明が出来る(目的・資格・業務・救急救命処置の定義・特定行為)
6回目	(目標③)・法令について・救急救命士法について説明が出来る 医師法・保健師助産師看護師法・消防法(法令による救急業務について)・医療法・その他の法令
7回目	(目標④)救急救命士の養成について説明が出来る
8回目	(目標④)救急救命士の生涯教育・病院実習について説明が出来る
9回目	(目標⑤)・安全管理・リスクマネージメント(インシデント・アクシデント)について説明ができる
10回目	(目標⑤)傷病者の事故について(転倒・転落・チューブ類事故・誤嚥・感染)・救急救命士の事故(感染・活動中の事故・暴言暴力)・活動における事故報告と対応が出来る
11回目	(目標⑤)・感染予防策と感染防御(スタンダードプリコーション・感染経路)・救急活動での感染防御(手洗い・防護具)・洗浄と消毒・感染事故と事故後の対応(感染事故・針刺し事故・結核への対応・インフルエンザへの対応)・感染症法について説明できる
12回目	(目標⑥)救急活動でのストレス(ストレスの概念・ストレス反応・ストレス障害)・救急活動でのストレスへの対応(ストレス耐性・デフュージング・デブリーフィング)について説明ができる
13回目	試験対策
14回目	まとめ
15回目	終講試験

準備学習
 時間外学習
 (目標①)「救急救命士」という専門職であり役割を理解する事で病院前救護活動できるようになるので講義の復習が必要です。
 (目標②)コミュニケーションでは必要なコミュニケーション技法について予習が必要です。
 (目標③)国家資格が必要な職業はそれぞれの法令において義務が明文化されているため講義の復習が必要です。
 (目標④)救急救命士の養成と生涯教育は継続が必要になるので講義の復習が必要です。
 (目標⑤)安全・感染では自己防衛・傷病者を守る観点から講義の復習が必要です。
 (目標⑥)救急救命士のストレスに関する概要の復習が必要です。

評価方法
 最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。
 ●出席率
 ●小テスト
 ●定期テスト(終講試験)
 上記にて成績評価判定を行う。

受講生への
 メッセージ
 魅力:救急救命士の専門性である「病院前救護活動」により傷病者の救命率や予後は大きく改善されます。
 まずは基本である病院前救護活動について学びを深める事が今後の現場活動に活かされます。
 授業計画:看護師として今まで経験した事をみなさんにお話ししながら授業を進めていきたいと思います。
 講義終盤には終講試験対策で国家試験過去問題(選択問題)を行い国家試験に備え少しずつ慣れていきたいと思います。

【使用教科書・教材・参考書】
 教科書:改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版
 参考書:救急救命士標準テキスト追補板 へるす出版 わかりやすい救急救命士法 へるす出版

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急救命処置概論 I Introduction to Emergency Care I	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	深梅 亜紀子 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	開講区分 曜日・時限	後期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>「救急救命処置」とは「その症状が著しく悪化する恐れがあり、又はその生命が危険な状態にある傷病者が病院又は診療所に搬送されるまでの間に、当該傷病者に対して行われる気道の確保、心拍の回復その他の処置であって、当該傷病者の症状の著しい悪化を防止し、又はその生命の危険を回避するために必要なものをいう」と定義されている。救急救命士は「救急救命処置」を反復継続して行うことを業としている。国家資格を受けた医療職であり医事法制の全体の枠組みの中で他の医療職との業務の整合性を保ちながらその業の範囲が定められている。その定められた範囲で行う「救急救命処置活動」や傷病者の適切な観察と迅速な緊急度・重症度の判断は救急救命士の必須のスキルとして「整合性がとれる」ように繰り返し改善・向上しながら「効果」「効率」「魅力」を高めるインストラクショナルデザインの実践を行い本授業終了時には各々の説明ができるようになる。</p> <p>実務経験: 1998年3月看護師免許取得 1998年4月～2011年3月ICU所属・2011年4月～2015年5月までER所属する JNTECプロバイダー取得、JTAS緊急度・重症度判定プロバイダー取得 福岡看護協会災害支援ナース登録、日本救急医学会認定ICLSインストラクター取得 主業務はICUではROSC後の集中治療やER初期診療後の全身管理、ERでは救急初期診療・BLS・ICLS活動・災害教育を行っていた</p> <p>病態・疾病によって全身や局所に認める特徴的な症状について学び、救急現場において傷病者の適切な観察と緊急度・重症度判別ができるようになる。 <具体的目標> ①観察について説明できる。 ②現場活動の基本について説明できる。 ③全身状態の観察について説明できる。 ④局所の観察について説明できる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	(目標①)観察について説明できる。	観察の目的と意義・バイタルサインの正常値・観察の方法 問診、視診、聴診、触診					
2回目	(目標②)現場活動の基本について説明できる。	状況評価・初期評価・全身観察と重点観察・緊急度、重症度、医療機関選定・搬送、車内活動					
3回目	(目標②)現場活動の基本について説明できる。	全身観察と重点観察・緊急度、重症度、医療機関選定・搬送、車内活動					
4回目	(目標③)全身状態の観察について説明できる。	外見の観察体位、顔貌、顔色、表情、嘔吐、喀血、吐血、四肢の変形、外出血					
5回目	(目標③)全身状態の観察について説明できる。	外見の観察皮膚、失禁、痙攣、栄養会話、態度、歩行、行動					
6回目	(目標③)全身状態の観察について説明できる。	気道に関する観察気道開通、気道閉塞呼吸の有無、性状・循環に関する観察脈拍の有無、性状、様式、血圧					
7回目	(目標③)全身状態の観察について説明できる。	神経に関する観察JCS、GCS、特殊型、神経学的所見異常CPSS、KPSS					
8回目	(目標④)局所の観察について説明できる。	皮膚の観察色調、温度、乾燥、発汗、出血班、発疹、浮腫					
9回目	(目標④)局所の観察について説明できる。	頭部・顔面・頸部顔面左右差、瞳孔、眼位、眼球・眼瞼結膜、呼気臭、項部硬直、外頸静脈怒張、気管偏位					
10回目	(目標④)局所の観察について説明できる。	頭部・顔面・頸部皮下気腫、腫脹、変形、髄液漏、視覚、聴覚胸郭運動、呼吸音、心音					
11回目	(目標④)局所の観察について説明できる。	腹部腹部膨隆、腹膜刺激徴候、腸蠕動音、腹壁静脈怒張、腹部腫瘤腹部動脈拍動					
12回目	(目標④)局所の観察について説明できる。	鼠頭部・会陰部・骨盤・四肢運動障害、知覚障害、浮腫、腫脹、変形、短縮、動脈拍動関節可動域					
13回目	(目標④)局所の観察について説明できる。	手指、足趾、爪変形、腫脹、色調、潰瘍、爪床圧迫テスト・各種アルゴリズム・緊急度と重症度・判別の基準					
14回目	終講試験対策						
15回目	終講試験						
準備学習 時間外学習	(目標①)観察の目的と意義について理解を深める事で傷病者の状況や病気に気付く事ができるので復習が必要です。 (目標②)救急救命士の活動内容について予習が必要です。 救急救命士の専門性である「病院前救護活動」での適切な観察や重症度・緊急度判断の学びを深め、適切な迅速な病院搬送ができるため復習が必要です。 (目標③)目標②を達成させるために全身観察の重点をしっかり押さえるために復習が必要です。 (目標④)目標③を達成するために全身観察について復習・予習が必要です。目標③を踏まえ局所観察について理解を深めるため復習が必要です						
評価方法	最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。 ●出席率 ●小テスト ●定期テスト(終講試験) 上記にて成績評価判定を行う。						
受講生への メッセージ	魅力:救急救命士の専門性である「病院前救護活動」での救命率の向上や予後の改善には観察能力、緊急度・重症度判断は非常に大きな役割となります。観察するスキルを持つ事で迅速・適切な緊急度・重症度を判断する事に繋がります。今後の現場活動に活かされます。 授業計画:看護師として今まで経験した事をみなさんにお話ししながら授業を進めていきたいと思っています。 講義終盤には終講試験対策で国家試験過去問題(選択問題)を行い国家試験に備え少しずつ慣れていきたいと思っています。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書:改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版 参考書:救急救命士標準テキスト追補版 へるす出版 わかりやすい救急救命士法 へるす出版 アセスメント力を高めるバイタルサイン 医学書院 日野原重明編集 フィジカルアセスメント 医学書院							

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	救急救命処置概論Ⅱ Introduction to Emergency Care II	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	古森 喬
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3単位)	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	火曜1,2限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命処置概論は救急救命士と活動する上で基礎となる資機材・外傷処置・一時救命処置・在宅医療を網羅し適切かつ迅速に実施しなければなりません。救急救命処置を実施するに当たり気管挿管や一時救命処置を実施し院内でどのような止血法など行っているかなど病院内の活動も学び本授業修了時には各々の説明ができるようになる。</p> <p>実務経験：1995年3月看護師免許取得 1997年4月～2003年11月ICU所属・2003年11月～2010年10月ER所属・2010年11月～2015年2月循環器、外科病棟・2015年3月～形成外科、泌尿器科病棟 現在に至る 福岡県施設病院協会看護学校：2014年～災害看護学・国際看護学 講師 JNTECプロバイダー取得、JPTECプロバイダー取得、徳洲会災害支援ナース登録、AHA ACLSプロバイダー取得、AHA ACLS-EPプロバイダー取得、AHAファーストエイドプロバイダー取得、AHA BLSインストラクター取得</p> <p>主業務はICUでは術後の管理、集中治療やER初期診療後の全身管理、ERでは救急初期診療・BLS・ICLS活動・災害教育、院内移植コーディネーターを行っていた。</p>							
<p>病院前救護活動における救急救命士の基礎となる資機材や外傷処置を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①資機材による観察、目的について説明できる。</p> <p>目標②外傷処置に対する観察、目的について説明できる。</p> <p>目標③1次救命処置の目的について説明できる。</p> <p>目標④在宅医療の目的について説明できる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。①観察の目的と意義・酸素投与方法とその意義・酸素投与時の注意点・SPO2測定とその意義						
2回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。①観察の目的と意義・酸素投与方法とその意義・酸素投与時の注意点・SPO2測定とその意義						
3回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。②観察の目的と意義・血圧測定とその意義・血圧測定の注意点・聴診器の使い方とその意義						
4回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。②観察の目的と意義・血圧測定とその意義・血圧測定の注意点・聴診器の使い方とその意義						
5回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。③・気管内挿管とは・気管内挿管の適応・気管内挿管の手順・気管内挿管の合併症						
6回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。③・気管内挿管とは・気管内挿管の適応・気管内挿管の手順・気管内挿管の合併症						
7回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。③・気管内挿管とは・気管内挿管の適応・気管内挿管の手順・気管内挿管の合併症						
8回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。③・気管内挿管とは・気管内挿管の適応・気管内挿管の手順・気管内挿管の合併症						
9回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。④・閉鎖式エアウェイの気道確保器具について・ラリゲルマスク・アイジェル・ラリゲルチューブ・コンビチューブ						
10回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。④・閉鎖式エアウェイの気道確保器具について・ラリゲルマスク・アイジェル・ラリゲルチューブ・コンビチューブ						
11回目	【到達目標】外傷処置に対する観察、目的について説明できる。①・止血方の目的と適応・止血点止血法・SBチューブ・永久止血法・内視鏡による止血法						
12回目	【到達目標】外傷処置に対する観察、目的について説明できる。①・止血方の目的と適応・止血点止血法・SBチューブ・永久止血法・内視鏡による止血法						
13回目	【到達目標】外傷処置に対する観察、目的について説明できる。②・固定処置の目的とその意義・ネックラー、バックボード・包帯、三角巾・シーネ・陰圧ギプス						
14回目	【到達目標】外傷処置に対する観察、目的について説明できる。②・固定処置の目的とその意義・ネックラー、バックボード・包帯、三角巾・シーネ・陰圧ギプス						
15回目	【到達目標】1次救命処置の目的について説明できる。・1次救命処置の目的とその意義・除細動器とその意義・除細動器使用時の合併症						
準備学習 時間外学習	(目標①)救急救命士としての資機材による観察、目的について復習が必要です。 (目標②)救急救命士として外傷処置に対する観察、目的について予習が必要です。 (目標③)救急救命士として1次救命処置の目的について復習が必要です。 (目標④)救急救命士として在宅医療の目的について復習が必要です。						
評価方法	最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、資機材・外傷処置・一時救命処置・在宅医療における救急活動の習熟度を測るため、筆記試験を行う。 ●出席率 ●小テスト ●定期テスト(終講試験) 上記にて成績評価判定を行う。						
受講生への メッセージ	魅力：救急救命士として基礎的処置を習得することは救命率の向上に繋がります。 授業計画：看護師としてこれまでの経験を活かし皆さんが興味をもてる授業内容で進めていきたいと思います。 救急救命士は専門性で難しいイメージがあると思いますが授業の中で少しずつ過去の国家試験問題を解き学んでいきたいと思います。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書：改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急救命処置概論Ⅱ Introduction to Emergency Care Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	古森 喬 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3単位)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜1.2限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>実務経験: 1995年3月看護師免許取得 1997年4月～2003年11月ICU所属・2003年11月～2010年10月ER所属・2010年11月～2015年2月循環器、 外科病棟・2015年3月～形成外科、泌尿器科病棟 現在に至る 福岡県施設病院協会看護学校: 2014年～災害看護学・国際看護学 講師 JNTECプロバイダー取得、JPTECプロバイダー取得、徳洲会災害支援ナース登録、AHA ACLSプロバイダー取得、AHA ACLS-EPプロバイダー取得、 AHAファーストエイドプロバイダー取得、AHA BLSインストラクター取得 主業務はICUでは術後の管理、集中治療やER初期診療後の全身管理、ERでは救急初期診療・BLS・ICLS活動・災害教育、院内移植コーディネーターを行っていた。</p>							
<p><具体的な目標></p> <p>目標① 目標② 目標③</p>							
授業計画・内容							
16回目	【到達目標】1次救命処置の目的について説明できる。・1次救命処置の目的とその意義・除細動器とその意義・除細動器使用時の合併症						
17回目	【到達目標】1次救命処置の目的について説明できる。・1次救命処置の目的とその意義・除細動器とその意義・除細動器使用時の合併症						
18回目	【到達目標】1次救命処置の目的について説明できる。・1次救命処置の目的とその意義・除細動器とその意義・除細動器使用時の合併症						
19回目	【到達目標】在宅医療の目的について説明できる。・在宅療養とは・在宅療法の種類・酸素療法、自己注射、経管栄養、気管切開、自己導尿など						
20回目	【到達目標】在宅医療の目的について説明できる。・在宅療養とは・在宅療法の種類・酸素療法、自己注射、経管栄養、気管切開、自己導尿など						
21回目	試験対策						
22回目	まとめ						
23回目	終講試験						
準備学習 時間外学習							
評価方法							
受講生への メッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書: 改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版							

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	救急病態生理学Ⅱ Emergency Pathophysiology II	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	河野 寛幸
						実務経験	○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 3単位	開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日 1,2限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急病態生理学Ⅰで習得した内容からさらに各症候・病態生理を深める事で救命の連鎖である「二次救命処置と自己心拍再開後の集中治療」について説明できるようになる。救急救命士は一次救命処置(BLS)と平行して「救急救命処置」の「特定行為」である薬剤投与や気道確保器具などを利用した二次救命処置を行う事で多くの傷病者の救命率の向上と予後の改善に繋がります。最終的にAHA-ACLSプロバイダー受講取得をする事で本授業修了時には各々の説明ができるようになる。</p> <p>※実務者経験: 1986年6月～現在 福岡徳洲会病院、函館共愛会病院、聖マリア病院、福岡和白病院等で救急業務に携わっている。 福岡博多トレーニングセンター 代表理事 (AHA-BLS AHA-ACLS)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>神経系に関わる疾患の症候・病態生理を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①重症脳障害について説明できる 目標②意識障害について説明できる 目標③頭痛について説明できる 目標④痙攣について説明できる 目標⑤運動麻痺について説明できる</p>							
授業計画・内容							
1回目	(目標①)重症脳障害について説明できる ・概念・発生機序						
2回目	(目標①)重症脳障害について説明できる ・一次性脳病変、二次性脳病変						
3回目	(目標①)重症脳障害について説明できる ・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア						
4回目	(目標①)重症脳障害について説明できる ・特殊な意識障害						
5回目	(目標①)重症脳障害について説明できる ・脳障害まとめ・脳障害振り返り						
6回目	(目標②)意識障害について説明できる ・原因1. 一次性脳病変2. 二次性脳病変・随伴症状						
7回目	(目標②)意識障害について説明できる ・随伴症状 1. バイタル異常2. 一般症候3. 神経所見						
8回目	(目標②)意識障害について説明できる ・判別を要する病態						
9回目	(目標②)意識障害について説明できる ・緊急度、重症度判別・現場活動						
10回目	(目標③)頭痛について説明できる ・発症機序・分類1. 一次性頭痛2. 二次性頭痛						
11回目	(目標③)頭痛について説明できる ・原因疾患						
12回目	(目標③)頭痛について説明できる ・発症の状況・性状						
13回目	(目標③)頭痛について説明できる ・随伴症状・緊急度重症度の判断・現場活動						
14回目	(目標④)痙攣について説明できる ・定義、概念・病態						
15回目	(目標④)痙攣について説明できる 種類1. 局所性2. 全身性						
準備学習 時間外学習	前提: この授業を受けるには、臨床医学脳神経疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、脳神経・血液生理学、運動学について予習が必要です。 (目標①～⑥)各症候の振り返りと復習が必要です 最終的にAHA-BLSプロバイダー受講するので事前学習が必要です。						
評価方法	最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。 ●出席率 ●小テスト ●定期テスト(終講試験) 上記にて成績評価判定を行う。						
受講生への メッセージ	魅力: 二次救命処置は「特定行為」であり医師との連携が必須で特定行為指示要請が必要となります。傷病者の状態を迅速に的確に伝えるためには各症候に関する知識が必要です。また具体的な指示を得るためには日常から自己研鑽が必要です。AHA-ACLSプロバイダー受講する事で実際に活動内容を体験・学ぶ事で理解が深まり今後の現場活動に活かされます。 授業計画: 最終的にAHA-ACLSプロバイダー受講します。その必要な理論(知識)は、前半の授業で行いますので体調管理には、気をつけて欠席をしない様にしてください。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書: 改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版 Erで役立つ救急症候学 河野 寛幸							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急病態生理学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	河野 寛幸
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 3単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日 1,2限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 救急病態生理学Ⅰで習得した内容からさらに各症候・病態生理を深める事で救命の連鎖である「二次救命処置と自己心拍再開後の集中治療」について説明できるようになる。救急救命士は一次救命処置(BLS)と平行して薬剤投与や気道確保器具などを利用した二次救命処置を行う事で多くの傷病者の救命率の向上と予後の改善に繋がります。
 最終的にAHA-ACLSプロバイダー受講取得をする事で本授業修了時には各々の説明ができるようになる。

【到達目標】
 神経系に関わる疾患の症候・病態生理を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。
 <具体的な目標>
 目標①重症脳障害について説明できる
 目標②意識障害について説明できる
 目標③頭痛について説明できる
 目標④痙攣について説明できる
 目標⑤運動麻痺について説明できる
 目標⑥めまいについて説明できる
 目標⑥失神について説明できる

授業計画・内容	
16回目	(目標④)痙攣について説明できる ・原因疾患・随伴症状
17回目	(目標④)痙攣について説明できる ・判別を要する病態・緊急度、重症度の判断・現場活動
18回目	(目標⑤)運動麻痺について説明できる ・定義、概念・発症機序
19回目	(目標⑤)運動麻痺について説明できる ・分類1. 単麻痺 2. 片麻痺3. 対麻痺4. 四肢麻痺 5. 交叉性片麻痺
20回目	(目標⑤)運動麻痺について説明できる ・原因疾患・随伴症状
21回目	(目標⑤)運動麻痺について説明できる ・判別を要する病態・緊急度、重症度の判断・現場活動
22回目	・各症候についてまとめ、振り返りを行う (試験対策含む)
23回目	終講試験
準備学習 時間外学習	前提:この授業を受けるには、臨床医学脳神経疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、脳神経・血液生理学、運動学について予習が必要です。 (目標①～⑥)各症候の振り返りと復習が必要です 最終的にAHA-BLSプロバイダー受講するので事前学習が必要です。
評価方法	最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。 ●出席率 ●小テスト ●定期テスト(終講試験) 上記にて成績評価判定を行う。
受講生への メッセージ	力:二次救命処置は「特定行為」であり医師との連携が必須で特定行為指示要請が必要となります。傷病者の状態を迅速に的確に伝えるためには各症候に関する知識が必要です。また具体的な指示を得るためには日常から自己研鑽が必要です。AHA-ACLSプロバイダー受講する事で実際に活動内容を体験・学ぶ事で理解が深まり今後の現場活動に活かされます。 授業計画:最終的にAHA-ACLSプロバイダー受講します。その必要な理論(知識)は、前半の授業で行いますので体調管理には、気をつけて欠席をしない様にご協力ください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版 Eで役立つ救急症候学 河野 寛幸	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	疾病救急医学 I Emergency Medicine I	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員 実務経験	深梅 亜紀子 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 3単位	開講区分 曜日・時限	前期 水曜日1, 2, 3限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

神経系疾患: 脳血管疾患は日本人の死因第4位を占めるものであり、後遺症もきたす疾患である。急性期はもとより慢性的な障害を患う傷病者もいるため、救急現場では適切な判断や処置を必要とする。

呼吸系疾患: 呼吸系は生体に必要な酸素需要に関与する重要な器官である。緊急性を有する病態が多く、また高齢社会の進展により、肺炎等の呼吸系疾患で死亡する傷病者も増加傾向にあるため、疾患の理解が必要となる。

循環系疾患: 心疾患は近年増加にあり、急激に病態が変化し、致命的となる。突然死の原因でもあり、死因第2位と救急救命士に求められる迅速な対応が必要となり、特定行為(静脈路確保・薬剤投与)の判断を含め、医療機関との連携も大切となる疾患群である。

上記3疾患の症状、病態、処置・対応をしっかりと理解し、授業修了時には説明できるようになる。

実務経験: 1998年3月看護師免許取得 1998年4月～2011年3月ICU所属・2011年4月～2015年5月までER所属する
JNTECプロバイダー取得、JTAS緊急度・重症度判定プロバイダー取得 福岡看護協会災害支援ナース登録、日本救急医学会認定ICLSインストラクター取得
主業務はICUではROSC後の集中治療やER初期診療後の全身管理、ERでは救急初期診療・BLS・ICLS活動・災害教育を行っていた

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

神経・呼吸・循環系の主な疾患の発生機序、症状、救急処置等について理解することができるようになる。

<具体的な目標>

目標①神経系疾患の症状、病態、処置・対応について説明できる。

目標②呼吸系疾患の症状、病態、処置・対応について説明できる。

目標③循環系疾患の症状、病態、処置・対応について説明できる。

授業計画・内容

1回目	(目標①)脳梗塞について説明できる。
2回目	(目標①)脳梗塞、一過性脳虚血発作について説明できる。
3回目	(目標①)くも膜下出血について説明できる。
4回目	(目標①)脳動静脈奇形、もやもや病について説明できる。
5回目	(目標①)脳出血について説明できる。
6回目	(目標①)髄膜炎、脳炎・脳症、脳膿瘍について説明できる。
7回目	(目標①)ギラン・バレー症候群、糖尿病性ニューロパチーてんかん、脳腫瘍、変性疾患について説明できる。
8回目	(目標②)呼吸系疾患の主要症候、基本的対応について説明できる。
9回目	(目標②)呼吸不全、急性喉頭蓋炎について説明できる。
10回目	(目標②)扁桃周囲膿瘍、気管支喘息について説明できる。
11回目	(目標②)慢性閉塞性肺疾患、無気肺、気管支拡張について説明できる。
12回目	(目標②)肺炎、肺結核について説明できる。
13回目	(目標②)急性上気道炎、気胸、胸膜炎について説明できる。
14回目	(目標②)肺血栓塞栓症、過換気症候群について説明できる。
15回目	(目標②)肺癌、急性呼吸促進症候群、間質性肺炎について説明できる。
準備学習 時間外学習	(目標①)神経系の解剖生理の予習、救急救命処置、神経系疾患に使用する薬剤等の事前学習が必要です。 (目標②)呼吸系の解剖生理の予習、救急救命処置、神経系疾患に使用する薬剤等の事前学習が必要です。 (目標③)循環系の解剖生理の予習、救急救命処置、神経系疾患に使用する薬剤等の事前学習が必要です。
評価方法	終講試験100%で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	神経系疾患(死因第4位)、呼吸系疾患(死因第3位)、循環系疾患(死因第2位)と日本人の死因の上位を占める病態のため、救急救命士となり現場で即戦力となるためには不可欠な分野である。しっかりと知識と緊急性の高い疾患への判断力を身につけるために、予習・復習をし、理解を深めてください。

【使用教科書・教材・参考書】

救急救命士 標準テキスト 改訂第10版

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	疾病救急医学 I	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	深梅 亜紀子
	Emergency Medicine I	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 3単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	水曜日1, 2, 3限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

神経系疾患: 脳血管疾患は日本人の死因第4位を占めるものであり、後遺症もきたす疾患である。急性期はもとより慢性的な障害を患う傷病者もいるため、救急現場では適切な判断や処置を必要とする。

呼吸系疾患: 呼吸系は生体に必要な酸素需要に関与する重要な器官である。緊急性を有する病態が多く、また高齢社会の進展により、肺炎等の呼吸系疾患で死亡する傷病者も増加傾向にあるため、疾患の理解が必要となる。

循環系疾患: 心疾患は近年増加にあり、急激に病態が変化し、致命的となる。突然死の原因でもあり、死因第2位と救急救命士に求められる迅速な対応が必要となり、特定行為(静脈路確保・薬剤投与)の判断を含め、医療機関との連携も大切となる疾患群である。

上記3疾患の症状、病態、処置・対応をしっかりと理解し、授業終了時には説明できるようになる。

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

神経・呼吸・循環器系の主な疾患の発生機序、症状、救急処置等について理解することができるようになる。

- <具体的な目標>
- 目標①神経系疾患の症状、病態、処置・対応について説明できる。
 - 目標②呼吸系疾患の症状、病態、処置・対応について説明できる。
 - 目標③循環系疾患の症状、病態、処置・対応について説明できる。

授業計画・内容	
16回目	(目標③)循環系疾患の主要症候、基本的対応について説明できる。
17回目	(目標③)動脈硬化、うっ血性心不全、急性心筋梗塞について説明できる。
18回目	(目標③)不安定狭心症、安定狭心症について説明できる。
19回目	(目標③)心筋症、心筋炎、心タンポナーデ、急性心膜炎について説明できる。
20回目	(目標③)心臓弁膜症、感染性心内膜炎、先天性心疾患について説明できる。
21回目	(目標③)急性大動脈、大動脈瘤について説明できる。
22回目	(目標③)急性四肢動脈閉塞症、閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、高血圧症、高血圧緊急症について説明できる。
23回目	終講試験
準備学習 時間外学習	(目標①)神経系の解剖生理の予習、救急救命処置、神経系疾患に使用する薬剤等の事前学習が必要です。 (目標②)呼吸系の解剖生理の予習、救急救命処置、神経系疾患に使用する薬剤等の事前学習が必要です。 (目標③)循環系の解剖生理の予習、救急救命処置、神経系疾患に使用する薬剤等の事前学習が必要です。
評価方法	終講試験100%で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	神経系疾患(死因第4位)、呼吸系疾患(死因第3位)、循環系疾患(死因第2位)と日本人の死因の上位を占める病態のため、救急救命士となり現場で即戦力となるためには不可欠な分野である。しっかりと知識と緊急性の高い疾患への判断力を身につけるために、予習・復習をし、理解を深めてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
救急救命士 標準テキスト 改訂第10版	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	急性中毒学 Acute Poisoning	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員 実務経験	灘辺 正信 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1単位)	開講区分 曜日・時限	後期
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 中毒物質による急性中毒患者は中毒物質の把握、状況評価、傷病者の観察が重要になります。また、近年では乱用薬物の多様化となっており、それに 応じた対応や観察も必要となっています。中毒物質については一般的に使用される薬物及び医療薬品として扱われている薬品の種類や効果について、 家庭用品での問い合わせ・誤飲等の発生した場合での対応も含めて講義を通じて理解する必要があります。また、中毒患者の対応では様々な関係者 (警察や保健所)と関わる事例が多い為、連携の手法としてどのような情報が必要かをディスカッションします。本講義終了後、中毒物質についての種類 、特性、症状、処置等が説明できるようになる。							
※実務者経験: 宗像地区消防組合消防本部にて、救急隊員(救急救命士)として勤務経験・消防署長歴任							
【到達目標】 中毒物質による障害について発生機序、病態、症状、予後などを学び、中毒物質が原因となる救急活動において観察、評価、処置及び搬送方法について適切な対 応ができるようになる。 <具体的な目標> 目標① 目標② 目標③							

授業計画・内容	
1回目	問題となる・問い合わせの多い中毒物質の種類、小児と高齢者に多い中毒の特徴、ADMEの特徴について説明できる。
2回目	中毒物質に特有な臭気と随伴症状、中毒傷病者の観察・処置の要点について説明できる。
3回目	急性中毒を起こしやすい医薬品の中毒症状と処置・観察の概要を説明できる。
4回目	農薬中毒・工業用品中毒の症状と処置・観察の概要を説明できる。
5回目	ガス中毒・アルコール中毒の症状と処置・観察の概要を説明できる。
6回目	自然毒中毒・家庭用品中毒の症状と処置・観察の概要を説明できる。
7回目	乱用薬物中毒の症状と処置・観察の概要を説明できる。
8回目	終講試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	中毒を学習するにあたり、薬物の代謝経路を復習する必要があります。また、代謝に関わる臓器についても機能を含めて再確認が必要です。 さらに、中毒については近年、特殊な中毒物質も増えている為、ネットやニュース等にも関心を持つことが大事です。講義内のノートの振り返りや各中 毒物質ごとにまとめると理解ができやすいと思います。 ●薬理学 代謝経路 ●解剖学 ●ノート振り返り
評価方法	終講試験にて中毒について知識習熟度を筆記試験にて評価を行う。 ●出席率 ●終講試験 で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	ネットやニュースで近年、中毒物質による関心が高まっています。また、救急救命士としても一般的な中毒物質の種類や薬理作用、急性中毒による 徴候等も含めてしっかり理解することが重要です。また、傷病者に対する対応や他の機関と連携して対応する活動も含めて理解が必要です。救急救命 士として中毒による傷病者を適切に観察し、医療機関に判定できるようになっていきたいです。
【使用教科書・教材・参考書】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト	

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	情報科学 Information Science	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	井口 恵美里
コース		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 2単位	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日 2限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 社会人として、また、企業において必要とされる人材となるためにはコンピュータの基本操作や実践に役立つ書類作成能力・データ処理能力・プレゼンテーション能力が求められます。 この授業ではコンピュータの基本的な操作やWord・PowerPoint・Excelの基本的な文書作成及び編集・データ処理ができるスキルを習得していきます。</p> <p>※実務者経験：1996年4月～2023年現在まで企業及び専門学校等にてIT関連の講義を行う。 指導ソフト：Word・Excel・Power Point・Illustrator・Photoshop 他</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>目標①コンピュータの基本操作ができる。 目標②Wordで基本文書作成ができる。 目標③PowerPointでスライド作成や基本的なプレゼンテーション資料の作成ができる。 目標④Excelの基本的なデータ処理ができる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	Windowsの基本操作・日本語入力の基本操作(Fキー・記号・手書き・変換修正)・フォルダ作成・USBの名前変更・データのコピー・データの保存ができる。						
2回目	Wordの基本操作・文書の入力及び編集ができる。						
3回目	定型文書の作成及び編集ができる。①						
4回目	簡単な表作成ができる。						
5回目	表を含む定型文書作成ができる。						
6回目	Wordテスト						
7回目	PowerPointの基本操作及びスライドの作成ができる。						
8回目	PowerPointにクリップアート・表・グラフ・図形の挿入・修正ができる。						
9回目	テーマ・アニメーション・画面切り替え等のスキルを習得し、プレゼンテーションに向けてのスライドの修飾ができる。①						
10回目	Excelの基本操作ができる。						
11回目	基本的な関数を使用した表作成ができる。①						
12回目	基本的な関数を使用した表作成ができる。②						
13回目	簡単なグラフ作成ができる。①						
14回目	簡単なグラフ作成ができる。②						
15回目	Excelテスト						
準備学習 時間外学習	授業進度は初心者でも理解できるように進めて行きますので特に準備学習は必要ありませんが、テキスト・USBメモリ等を忘れると授業進度に遅れが生じますので忘れ物が無い様にご協力ください。						
評価方法	実技試験による評価 90% 授業内評価(理解度・授業内作成課題・理解度・授業態度等) 10% 割合で成績評価を行う。						
受講生へのメッセージ	卒業後、どのような業界に進んでも社会人としてPCスキルは必要とされます。 在学中にPCスキルを身に付け、将来皆さんが望む業界へ進んだ時に身に付けた技能を役立ててください。 演習の授業形式になりますので、欠席をしないようにしてください。						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>滋慶学園指定テキスト使用 【COMPUTER BASIC Word】</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	英会話・医学英語 English Conversation・Medical English	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	ILC
コース		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜日 1限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) グローバル化している現代社会において、患者の多様化に対し、医療従事者として適切な対応を行う為、一般的な医学英語を習得する必要がある。 一般的かつ日常的医療英語習得の為、リスニングやコミュニケーション、プリント等を使用した授業により単語や文法を理解し、本授業終了時には日常的・一般的な英会話を用いてコミュニケーションや対応が出来るようになる。</p> <p>※実務者経験:英語教師資格をもち、英語教育において長年の経験をもつ。</p>							
<p>【到達目標】 医療従事者として必要とされる日常英会話の基礎を学び、グローバル化している現代社会において順応な対応ができる。</p> <p><具体的な目標> 目標①日常英会話の基礎を学び、一般的なコミュニケーションをとることが出来る。 目標②日常英会話の基礎を学び、医療従事者として一般的な医療英語を用いて患者に適切な対応が出来る。</p>							

授業計画・内容	
1回目	Orientation, & Chapter 1 受付で使用する重要単語を理解できる。
2回目	Chapter 1 受付で対象者と基本的な英語対応ができる。
3回目	Chapter 1 受付で対象者とスムーズな英語対応ができる。医療従事者の呼称を英語で表現できる。
4回目	Chapter 2 病院案内において英語で対応できるよう整形外科や小児科、眼科などを英語で表現でき、また案内もできる。
5回目	Chapter 3 基本的な体の部位の名称を英語で理解し、患者の症状や痛みなどを英語で正確に聴取し情報を収集できる。
6回目	Chapter 3 続き
7回目	Chapter 4 様々な患者の症状や痛みなどを英語で正確に聴取し情報を収集できる。
8回目	Chapter 5 問診(既往歴・家族歴)に関する基本的な英語対応ができる。
9回目	Chapter 5 問診(既往歴・家族歴)に関する様々な英語対応がスムーズにできる。
10回目	Chapter 6 問診(アレルギー・生活習慣)に関する基本的な英語対応ができる。
11回目	Chapter 6 問診(アレルギー・生活習慣)に関する様々な英語対応がスムーズにできる。
12回目	Chapter 7 内科1(身体測定・診察時の表現)に関する英語対応ができる。
13回目	Chapter 7 続き
14回目	復習
15回目	定期試験
準備学習 時間外学習	必要に応じて、事前にテキストに目を通して単語を確認しておく、授業後に分からなかった箇所を再確認しておいて下さい。
評価方法	定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。 ●定期試験(100%) 上記にて成績評価を行う。
受講生への メッセージ	受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加してください。 医療英語を楽しみましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:ILC国際語学センター:医療英語コミュニケーション、特定非営利活動法人 医療・福祉英語検定協会	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	生命・医学倫理	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	灘辺 正信
	Life・Medicine Theory	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1単位)	実務経験	
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日 3限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

救急救命士がかかわる対象は、ヒト、すなわち「人間」である。そしてすべての人間が日々営んでいる生活については、自分自身の体験や、家族や友人、あるいは学校や職場といった地域社会で出会う人々との人間関係を通じて、自ずと理解できているが、その多くの部分を、常識化した社会通念として、他者と共有しているものも考える必要がある。

また、救急救命士の業務遂行には、救急医学を中心とした医学全般にわたる知識や、救急医療制度に関する理解、さらには、傷病者の救護や搬送に必要な種々の技術を身につけることが必要であり、これらを科学的アプローチと科学的思考とに基づいて行うことにより、救急救命士の業務の質が担保され、救急医療の進捗がもたらされる。

さらに、救急救命士に許されている医行為は、現状において限定的であり、基本的に医師の指示の下で行われるが、医療を行う医療従事者であることについては同列であるため、医学的に、かつ、倫理的に正しい医療を行う基本原則を理解する必要がある。集団ディスカッションやグループワーク等の授業により医療の基本概念を理解し、本授業終了時には救急救命士として医療従事者として適切な対応ができるようになる。

【到達目標】

生命の尊さを認識し、人の誕生から死までの間に起こりうる出来事を学び、倫理的基盤を身につけ、医療人として対応することができるようになる。

<具体的な目標>

目標①人間と人間生活について説明できる

目標②生命倫理と医の倫理について説明できる、

授業計画・内容

1回目	(目標①)人間の身体と心、人間の生活と暮らしについて説明できる
2回目	(目標①)「科学的思考」をもって業務を遂行するための知識を習得し、自然科学の基盤となる「客観性」について説明できる
3回目	(目標①)「仮説」とその「実証」から「事実」を導く手法を学び、自然科学における「再現性」と「普遍性」の重要性について説明できる
4回目	(目標②)救急隊員としての社会的な具体的責務や日常的な業務について倫理的な意義について列挙できる
5回目	(目標②)傷病者が自ら判断する能力を評価し、判断できないときに支援できる
6回目	(目標②)業務の内容について傷病者・家族らにわかりやすい説明ができ、同意を得ることができる
7回目	(目標②)傷病者が搬送の業務などを拒否した場合の対応方法を説明でき、傷病者が終末期にある場合に、対応策を選択できる
8回目	定期試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習
時間外学習

特に事前学習は必要ありません。しかし、講義内容の復習はしっかり行いましょう。
●復習・見直し

評価方法

最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。
●出席率
●定期テスト(終講試験)
上記にて成績評価判定を行う。

受講生への
メッセージ

医療人として救急救命士を志す者として必要な原則的知識となります。基本的原則を理解した上で医療人として患者を対応してください。

【使用教科書・教材・参考書】

改訂第10版 救急救命士標準テキスト

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	臨床心理学 Clinical Psychology	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	池田 桂子
	コース	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1単位)	実務経験	
						開講区分	前期
						曜日・時限	金曜日 1,2限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

人間は何らかの外的な要因で身体が傷つくと同時に、精神的にも様々な傷を負う可能性がある。大災害や悲惨な災害現場、犯罪などの要因により、とくに精神的に大きなダメージを受けやすい。悲惨な災害現場では、救助・救急活動に従事する消防職員も被災者と同様な体験を受け、また職業的責任から精神的影響が大きく、ストレスを受けやすいため心理学的な基礎的知識や様々なストレス反応について理解する必要がある。集団ディスカッションやグループワーク等の授業により心理学的な基礎知識と臨床的心理学を理解し、本授業終了時には救急救命士としてストレスに対するマネジメントや救急現場での適切な対応ができるようになる。

※実務者経験: 財団法人メンタルケア協会認定精神対話士、日本メンタルヘルス協会公認心理カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントⅡ種

【到達目標】

心理学の基礎的知識や臨床的知識を学び、救急救命士として現場で適切な対応ができるようになる。
 <具体的な目標>

授業計画・内容

1回目	心の問題と現代社会(ストレス社会)について説明できる
2回目	急性ストレス反応の概要(心身関連の生理と病気)について説明できる
3回目	救急救命士に業務上発生するストレス(救急活動でのストレス)の種類を列挙できる
4回目	心的外傷後ストレス障害の疫学、症候、対応について説明できる
5回目	惨事ストレスによる障害発生防止の方法について説明できる
6回目	不安状態の患者カウンセリング的対応や救急活動でのストレス対応について説明できる
7回目	ストレス耐性を高めるための職場の工夫(セルフコントロールの大切さ)について説明できる
8回目	定期試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	
評価方法	最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。 ●出席率 ●定期テスト(終講試験) 上記にて成績評価判定を行う。
受講生への メッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

改訂第10版 救急救命士標準テキスト

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	解剖学・生理学 Anatomy Physiology	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	川野 剛 / 岡 優作 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 6単位	開講区分 曜日・時限	前期 木曜日 3.4限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 医療従事者として最も重要な分野である。人体の正常を理解しないとその変化である病態、外傷における対応、傷病者の観察、救急救命処置、全てにおいて必要不可欠な知識として必要です。 解剖学・生理学については構造や各臓器の働き、部位、生命維持、生体反応を説明できるようになることが重要です。</p> <p>実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務) その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務</p>							
<p>【到達目標】 人体を構成する要素や人体の各器官の構造と、その機能について系統的に理解できるようになる。 <具体的な目標> 目標①人体の構造、機能、部位を理解し説明できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(目標①)人体を構成する要素について説明できる。
2回目	(目標①)人体を構成する要素について説明できる。
3回目	(目標①)体表からみる人体の構造
4回目	(目標①)体表からみる人体の構造
5回目	(目標①)体表からみる人体の構造
6回目	(目標①)呼吸系について説明ができる。
7回目	(目標①)呼吸系について説明ができる。
8回目	(目標①)呼吸系について説明ができる。
9回目	(目標①)呼吸系について説明ができる。
10回目	(目標①)循環系について説明ができる。
11回目	(目標①)循環系について説明ができる。
12回目	(目標①)循環系について説明ができる。
13回目	(目標①)循環系について説明ができる。
14回目	(目標①)消化系について説明ができる。
15回目	(目標①)消化系について説明ができる。
準備学習 時間外学習	(目標①)準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
評価方法	定期試験50% 終講試験50% で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	解剖学では難しい漢字を使用し、内容や範囲が広いいため、理解をするまでに非常に時間を必要とする。医療従事者として共通する知識で、この分野を理解しておかなければ救急救命士として人命に携わることができない。自分の目標を叶えるために挫折せずに、少しずつでも構わないので、予習・復習をするようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
改訂10版 救急救命士 標準テキスト からだの地図帳	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	解剖学・生理学	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	川野 剛 / 岡 優作
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 6単位	実務経験	○
						開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日 3,4限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 医療従事者として最も重要な分野である。人体の正常を理解しないとその変化である病態、外傷における対応、傷病者の観察、救急救命処置、全てにおいて必要不可欠な知識として必要です。 解剖学・生理学については構造や各臓器の働き、部位、生命維持、生体反応を説明できるようになることが重要です。</p> <p>実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務) その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務</p>							
<p>【到達目標】 人体を構成する要素や人体の各器官の構造と、その機能について系統的に理解できるようになる。 <具体的な目標> 目標①人体の構造、機能、部位を理解し説明できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
16回目	(目標①)消化系について説明ができる。
17回目	(目標①)消化系について説明ができる。
18回目	(目標①)泌尿系について説明ができる。
19回目	(目標①)生殖系について説明ができる。
20回目	定期試験 (人体の構造から生殖系まで)
21回目	(目標①)内分泌系について説明ができる。
22回目	(目標①)内分泌系について説明ができる。
23回目	(目標①)内分泌系について説明ができる。
24回目	(目標①)内分泌系について説明ができる。
25回目	(目標①)血液・免疫系について説明ができる。
26回目	(目標①)血液・免疫系について説明ができる。
27回目	(目標①)血液・免疫系について説明ができる。
28回目	(目標①)血液・免疫系について説明ができる。
29回目	(目標①)筋・骨格系について説明ができる。
30回目	(目標①)筋・骨格系について説明ができる。
準備学習 時間外学習	(目標①)準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
評価方法	定期試験50% 終講試験50% で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	解剖学では難しい漢字を使用し、内容や範囲が広いいため、理解をするまでに非常に時間を必要とする。医療従事者として共通する知識で、この分野を理解しておかなければ救急救命士として人命に携わることができない。自分の目標を叶えるために挫折せずに、少しずつでも構わないので、予習・復習をするようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
改訂10版 救急救命士 標準テキスト からだの地図帳	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	解剖学・生理学	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	川野 剛 / 岡 優作
						実務経験	○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 6単位	開講区分	前期
						曜日・時限	木曜日 3,4限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 医療従事者として最も重要な分野である。人体の正常を理解しないとその変化である病態、外傷における対応、傷病者の観察、救急救命処置、全てにおいて必要不可欠な知識として必要です。 解剖学・生理学については構造や各臓器の働き、部位、生命維持、生体反応を説明できるようになることが重要です。</p> <p>実務経験 岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務) その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務</p>							
<p>【到達目標】 人体を構成する要素や人体の各器官の構造と、その機能について系統的に理解できるようになる。 <具体的な目標> 目標①人体の構造、機能、部位を理解し説明できるようになる。 目標②人体の構造における神経系の構造と機能が説明できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
31回目	(目標①)皮膚系について説明ができる。
32回目	(目標①)生命の維持について説明ができる。
33回目	(目標①)生命の維持について説明ができる。
34回目	(目標②)神経について説明ができる。(神経系の構成、神経系の役割)
35回目	(目標②)神経について説明ができる。(大脳、間脳、小脳)
36回目	(目標②)神経について説明ができる。(脳幹、脊髄、脳室、脳脊髄液)
37回目	(目標②)神経について説明ができる。(脳神経)
38回目	(目標②)神経について説明ができる。(脳神経、脊髄神経【デルマトーム】)
39回目	(目標②)神経について説明ができる。(運動の伝導路【錐体路・錐体外路 知覚の伝導路【脊髄視床路・後索】)
40回目	(目標②)神経について説明ができる。(自律神経【交感神経・副交感神経】)
41回目	(目標②)神経について説明ができる。(脳循環【内頸動脈系・椎骨脳底動脈系・ウイリス動脈輪】)
42回目	(目標②)神経について説明ができる。(脳循環【代謝・頭蓋内圧・脳血流】)
43回目	(目標②)神経について説明ができる。(意識【意識の意味・意識の中枢】)
44回目	(目標②)神経について説明ができる。(反射【角膜反射・咽頭反射・膝蓋腱反射】)
45回目	終講試験
準備学習 時間外学習	(目標①②)準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。
評価方法	定期試験50% 終講試験50% で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	解剖学では難しい漢字を使用し、内容や範囲が広いので、理解をするまでに非常に時間を必要とする。医療従事者として共通する知識で、この分野を理解しておけば救急救命士として人命に携わることができない。自分の目標を叶えるために挫折せずに、少しずつでも構わないので、予習・復習をするようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
改訂10版 救急救命士 標準テキスト からだの地図帳	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	病理学 Pathology	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	川野 剛
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2単位)	開講区分 曜日・時限	後期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>病理学では、疾患についての基礎的な知識から疾患や病態における所見、医療で用いる用語、細胞レベルでの変化や損傷の種類、また死についてまで幅の広い内容を学ぶ。資料やスライドを用いて各分野の理解度を高めていく。病理学を修了するときには各分野の内容を説明できるようになる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>疾病の病因病理学や微生物と感染・免疫との相互関係について基礎的内容を理解することができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①疾患について説明できる。 目標②炎症と感染について説明できる。 目標③循環障害について説明できる。 目標④退行性病変と進行性病変について説明できる。 目標⑤腫瘍について説明できる。 目標⑥先天異常について説明できる。 目標⑦損傷について説明できる。 目標⑧死について説明できる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	(目標①)原因、発症と経過について説明できる。						
2回目	(目標①)回復に必要な要素、疾患の予防について説明できる。						
3回目	(目標②)炎症について説明できる。						
4回目	(目標②)感染症について説明できる。						
5回目	(目標③)虚血、うっ血について説明できる。						
6回目	(目標③)出血、血栓と塞栓について説明できる。						
7回目	(目標③)梗塞、浮腫について説明できる。						
8回目	(目標④)退行性病変、進行性病変の違いや種類について説明できる。						
9回目	(目標⑤)腫瘍について説明できる。						
10回目	(目標⑤)良性腫瘍と悪性腫瘍の違いや特徴について説明できる。						
11回目	(目標⑥)内因性先天異常、外因性先天異常について説明できる。						
12回目	(目標⑦)損傷、創傷治癒について説明できる。						
13回目	(目標⑧)死の概念、死体現象について説明できる。						
14回目	(目標⑧)死にかかわる手続きと検査、死体の尊厳について説明できる。						
15回目	終講試験						
準備学習 時間外学習	(目標①～⑧)について予習として使用教科書を熟読し、解剖学・生理学の復習が必要です。						
評価方法	終講試験100%で成績評価を行う。						
受講生への メッセージ	解剖学・生理学の内容を理解していることが前提となる科目で、病理学を修了するところには医療従事者として必要な基礎知識を網羅していなければならない。授業を終えた後も身につけた知識を失わないように、継続的に復習をするようにしてください。						
【使用教科書・教材・参考書】							
改訂10版 救急救命士 標準テキスト							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	薬理学 Pharmacology	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	川野 剛
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2単位)	開講区分 曜日・時限	後期
コース							
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
平成26年1月救急救命処置の内容改訂に伴い処置範囲拡大された。救急救命士による「救急救命処置」の中でも特定行為である「薬剤投与」に関しては安全性と有効性の確認が必要である。それは処置拡大に伴い救命率の向上やショック状態の傷病者に処置を行う事で重篤化を防ぐ事が出来るが反面かえって慎重な適応の判断能力が求められるからである。また傷病者の高齢化や治療の高度化に伴い傷病者の使用薬剤も多く適切な観察・重症度緊急度の判断するために傷病者の有用な情報源として判断出来るは必要なスキルである。検査については医療機関での初期診療・緊急検査を加える事で確定診断に至る。救急救命士として判断した内容が妥当であったのかを知るためにも理解する必要がある。これらの内容に関して「整合性がとれる」ように繰り返し改善・向上しながら「効果」「効率」「魅力」を高めるインストラクショナルデザインの実践を行い本授業修了時には各々の説明ができるようになる。							
【到達目標】							
各種薬剤の薬理作用や適応、生体に及ぼす影響について学び、救急現場において、傷病者の有用な情報源として判断し、適切な現場活動ができるようになる。							
<具体的目標>							
目標①薬剤の作用効果、使用方法などを説明できる							
目標②傷病者の使用頻度の高い薬剤を説明できる							
目標③検査の方法、正常値などについて説明できる							
授業計画・内容							
1回目	(目標①) 薬物の概念 薬物の分類 医薬品の種類 薬物の代謝を説明できる						
2回目	(目標①) 薬物の代謝(投与経路)薬物の有害作用 薬物アレルギーを説明できる						
3回目	(目標①)救急救命士が用いる薬剤(アドレナリン・乳酸リンゲル液・ブドウ糖)を説明できる						
4回目	(目標①)救急救命士が用いる薬剤(アドレナリン・乳酸リンゲル液・ブドウ糖)を説明できる						
5回目	(目標②)使用頻度の高い薬剤(経口糖尿病薬・インスリン・亜硝酸薬)を説明できる						
6回目	(目標②)使用頻度の高い薬剤(降圧剤・気管支拡張薬・利尿薬)を説明できる						
7回目	(目標②)使用頻度の高い薬剤(向精神薬・ワルファリン・アスピリン・シルденаフィル)の説明ができる						
8回目	(目標①)輸液、輸血製剤について 保存方法、管理について説明できる						
9回目	薬理学まとめ・試験対策						
10回目	(目標③)検査について 基準値 カットオフ値 パニック値について説明できる						
11回目	(目標③)緊急検査、生化学検査、基準値(血液検査、動脈血液検査、尿検査、心電図検査)						
12回目	(目標③)緊急検査、生化学検査、基準値(単純X検査、CT検査、超音波検査、MRI検査)						
13回目	(目標③)緊急検査、生化学検査、基準値(血管造影検査、内視鏡検査)各検査画像検証						
14回目	試験対策						
15回目	終講試験						
準備学習 時間外学習	(目標①)(目標②)を達成させるために基本である薬剤の作用効果、使用方法などを説明できる事で重要であるため復習が必要です。 (目標②)使用頻度の高い薬剤を理解する事で傷病者の有効な情報源として判断できるため復習が必要です。 (目標③)検査の内容・正常値について説明出来る事によって「病院前救護活動」での適切な観察・緊急度重症度判断に繋がるため復習が必要です。						
評価方法	最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。 ●出席率 ●小テスト ●定期テスト(終講試験) 上記にて成績評価判定を行う。						
受講生への メッセージ	魅力:特定行為である「薬剤投与」により救命率の向上や予後の改善に大きく関与するため処置拡大されました。しかし、「薬剤投与」に伴うアナフィラキシー・副作用などの有害作用や血管外漏出という合併症があるため救急救命士の高度な技術や知識・判断能力が求められます。 検査に関しても救急救命士の専門性である「検査等環境が整っていない中での緊急度・重症度の判断」ができるスキルを上げるためにも緊急検査について理解を深める事で今後の現場活動に活かされます。 授業計画:看護師として今まで経験した事をみなさんにお話ししながら授業を進めていきたいと思ひます。 講義終盤には終講試験対策で国家試験過去問題(選択問題)を行い国家試験に備え少しずつ慣れていきたいと思ひます。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書:改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	公衆衛生学 Public Health	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	岡 優作 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1単位)	開講区分 曜日・時限	後期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

「日本国憲法」第25条には「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と謳われている。この憲法に基づいて法律の規定や各種施設が実施される。救急医療体制、救急救命士制度も健康の維持・増進のための1つである。また、医師、歯科医師、薬剤師、看護師などの保健医療従事者は疾病の予防、治療、リハビリテーションを通じて国民の健康を維持・増進する職種であり、救急救命士は病院前医療を通じて国民の健康の維持・増進に寄与する保健従事者である。「公衆衛生」とは「環境衛生、感染症の対策、個々人の衛生教育、疾病の早期発見・早期治療のための保健医療サービスやすべての人が健康の保持に適した生活を送れるような社会機構の形成に対する組織的な地域の取り組みを通じて疾病の予防・長寿を目指し、精神と身体の保持・増進を図る科学技術である」と定義されている。この内容を「整合性がとれる」ように繰り返し改善・向上しながら「効果」「効率」「魅力」を高めるインストラクショナルデザインの実践を行い本授業終了時には各々の説明ができるようになる。

※実務者経験:
小学校教員免許、中学・高校国語 I 教員免許を取得しており、小学校3年勤務、中学校1年勤務した経験がある。いずれも担任業務を行っている。また、10年間福岡市消防局で勤務しており、消防隊・救急隊を経験。救急救命士所得後、約4年間救急隊として勤務経験あり。

【到達目標】
近年の少子高齢化や保健所の役割、学校・母子保健、精神保健福祉等について学び、保健医療制度の仕組みと現状について説明できる。
<具体的な目標>
目標①公衆衛生の仕組みを説明できる
目標②医療を取り巻く環境を説明できる
目標③環境保健を説明できる
目標④公衆衛生を支える仕組みを説明できる

授業計画・内容	
1回目	(目標①)公衆衛生の仕組みを説明できる 1. 健康とは 2. 公衆衛生の定義 3. 健康指標 4. 公衆衛生に関係する行政組織
2回目	(目標②)医療を取り巻く環境を説明できる 1. 人口構造の変化 2. 疾病構造の変化 3. 受療状況の変化
3回目	(目標②)医療供給体制を説明できる 1. 保健医療従事者 2. 医療機関 3. 「医療法」と医療計画4. 在宅医療と地域包括ケア (目標③)環境保健を説明できる 1. 食品衛生 2. 公害と環境
4回目	(目標④)公衆衛生を支える仕組みを説明できる 労働衛生を支える仕組み 1. 「労働者災害補償保険法」と労働災害 2. 労働衛生3. 作業関連疾患 4. トータルヘルスプロモーションプラン5. 産業医
5回目	(目標④)学校・母子保健・地域保健を支える仕組みを説明できる 1. 母子保健指標 2. 母子保健 地域保険を支える仕組みを説明できる 1. 「地域保健法」と保健所(市町村保健センター)2. 健康増進
6回目	(目標④)高齢者を支える仕組みを説明できる 精神保健福祉を支える仕組み1. 入院形態2. 人権擁護3. 関連施設
7回目	終講試験対策
8回目	終講試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習
時間外学習 (目標①)公衆衛生の仕組みを知り保健指標を学ぶ事で組織的社会的活動の重要性を深める事ができるので復習が必要です。
(目標②)医療を取り巻く環境を知る事で人口構造・疾病構造の変化を学び保健医療従事者の役割に対する理解が深まるため復習が必要です。
(目標③)環境保健を知る事で、食中毒・環境汚染・産業廃棄物について理解でき適切な傷病者対応ができるので復習が必要です。
(目標④)これから労働者となるため「労働者の疾病」や保障制度を知る。児童・母子・高齢者・精神保健施設について学ぶ事で傷病者に寄り添った対応ができるため復習が必要です。

評価方法 最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。
●出席率
●小テスト
●定期テスト(終講試験)
上記にて成績評価判定を行う。

受講生へのメッセージ 魅力:人口減少・少子高齢化が進んでいる現在、2035年には4人に1人が高齢者となる事が推測されます。医療技術の進歩により平均寿命は延びる一方、支援や介護を必要とする期間も長くなります。加えて病院受療率も高くなり病院医療体制は圧迫され傷病者の医療は傷病者の自宅や介護施設で行うのが主となります。さらに精神疾患傷病者も増加しており救急搬送件数も増加していることから救急医療体制の整備がこれまでに以上に必要になります。このような保健医療制度について知っておく事が今度の現場活動に活かされます。
授業計画:看護師として今まで経験した事をみなさんにお話ししながら授業を進めていきたいと思います。
講義終盤には終講試験対策で国家試験過去問題(選択問題)を行い国家試験に備え少しづつ慣れていきたいと思います。

【使用教科書・教材・参考書】
教科書:改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	社会保障・社会福祉 Social Security Social Welfare	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	岡 優作 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1単位)	開講区分 曜日・時限	後期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

「社会保障」とは年をとり、失業するなど、個人の努力だけでは対応に限界がある。国民同士の助け合い、国や地方公共団体による施策により生存権を保障する仕組みである。また「疾病、負傷、分娩、廃疾、死亡、老齢、失業、多子、その他困窮の原因に対し、保険的な方法または直接公の責任において経済保障の途を講じ、生活困窮に陥った者に対しては国家扶助によって最低限度の生活を保障するとともに、公衆衛生および社会福祉の向上を図り、もってすべての国民が文化的社会の成員たるに値する生活を営むことができるようにすることである」と定義している。救急救命士は保険医療従事者としてこのような傷病者に関わる機会是非常に多くいため、これらの内容に関して「整合性がとれる」ように繰り返し改善・向上しながら「効果」「効率」「魅力」を高めるインストラクショナルデザインの実践を行い本授業終了時には各々の説明ができるようになる。

※実務者経験:

小学校教員免許、中学・高校国語 I 教員免許を取得しており、小学校3年勤務、中学校1年勤務した経験がある。いずれも担任業務を行っている。また、10年間福岡市消防局で勤務しており、消防隊・救急隊を経験。救急救命士所得後、約4年間救急隊として勤務経験あり。

【到達目標】

社会保障と社会福祉の理念や医療・介護・年金保険制度、生活保護等について学び、現在の社会保障と社会福祉を支える仕組みについて説明できる。

<具体的な目標>

目標①社会保障と社会福祉を支える仕組みを説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)社会保障と社会福祉を支える仕組みを説明できる 社会保障、社会福祉の仕組み 1. 社会保障、社会福祉の理念 2. 社会保障、社会福祉を担当する行政組織
2回目	(目標①)社会保障と社会福祉を支える仕組みを説明できる 社会保障、社会福祉の仕組み 1. 関連施設 2. 社会保障の費用
3回目	(目標①)社会保障と社会福祉を支える仕組みを説明できる 社会保険と制度 1. 社会保険制度の理解 2. 医療保険制度
4回目	(目標①)社会保障と社会福祉を支える仕組みを説明できる 社会保険と制度 1. 介護保険制度 2. 年金保険制度
5回目	(目標①)社会保障と社会福祉を支える仕組みを説明できる 社会福祉と制度 1. 生活保護 2. 児童福祉 3. 高齢者福祉
6回目	(目標①)社会保障と社会福祉を支える仕組みを説明できる 社会福祉と制度 1. 高齢者福祉 2. 母子および寡婦福祉 3. 障害者福祉
7回目	終講試験対策
8回目	終講試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習
時間外学習 (目標①)社会保障:4つの柱である「社会保険」「公的扶助」「社会福祉」「公衆衛生」は国民の保障制度であり理解しておく内容なので復習が必要です。社会福祉:社会的に保護や援助を必要とするものに対し各種の福祉法に基づいて施設を整えたりサービスを提供する事であり、高齢者・児童・身体障害者・知的障害者・母子などが対象であり保健医療従事者として関わりが深いため内容の復習が必要です。

評価方法 最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。
●出席率
●小テスト
●定期テスト(終講試験)
上記にて成績評価判定を行う。

受講生へのメッセージ これから社会人として社会保険制度や年金制度は理解しておくべき内容であり、保健医療従事者として公的扶助や医療保険制度、介護保険制度、社会福祉、公衆衛生などの仕組みを説明できる事で傷病者に寄り添った対応ができ現場活動に活かされます。
授業計画:看護師として今まで経験した事をみなさんにお話ししながら授業を進めていきたいと思ひます。
講義終盤には終講試験対策で国家試験過去問題(選択問題)を行い国家試験に備え少しずつ慣れていきたいと思ひます。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急病態生理学 I Emergency Pathophysiology I	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	河野 寛幸
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 2単位	実務経験	○
						開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日 1.2限目

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

救急救命士の専門職である「救急救命処置」の中でも「包括的指示」であるBLS(Basic Life Support)は自己研鑽が必須であり、「救命の連鎖」として一般市民への指導や普及活動を行う事で傷病者の予後に大きく左右する。「心停止の予防」や「心停止の早期認識」に関して迅速で的確な判断が必要とされる。そのため救急病態生理学を学び病態に関する知識を深める事が重要である。最終的にはAHA-BLSプロバイダー取得をする事で本授業修了時には各々の説明ができるようになる。

※実務者経験:1986年6月～現在

福岡徳洲会病院、函館共愛会病院、聖マリア病院、福岡和白病院等で救急業務に携わっている。

福岡博多トレーニングセンター 代表理事(AHA-BLS AHA-ACLS)

【到達目標】

呼吸不全・循環不全(心不全・ショック)・心肺停止の症候・病態生理学を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。

<具体的な目標>

目標①呼吸不全について説明できる

目標②心不全について説明できる

目標③ショックについて説明できる

目標④心肺停止について説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標④)心肺停止について説明できる ・定義と概念・疫学・ウツタイン様式
2回目	目標④)心肺停止について説明できる ・心肺停止に至る病態と原因(不整脈、低心拍出量、呼吸不全、その他)
3回目	目標④)心肺停止について説明できる ・生体酸素状況(不整脈、低心拍出量、呼吸不全、その他)
4回目	(目標④)心肺停止について説明できる ・主な原因疾患(5H5T)・心電図分類
5回目	(目標④)心肺停止について説明できる ・心肺蘇生中の生理学的動態・心拍再開後(ROSC)の生理学的動態
6回目	(目標④)心肺停止について説明できる ・心肺停止についてまとめ・振り返り
7回目	(目標①)呼吸不全について説明できる ・定義と概念・基本的病態
8回目	(目標①)呼吸不全について説明できる ・閉塞性、拘束性、混合性換気障害・低酸素血症、高二酸化炭素血症・緊急度、重症度判別
9回目	(目標①)呼吸不全について説明できる ・呼吸運動障害(発生機序・病態・対応)・気道の障害(発生機序・病態・対応)
10回目	(目標①)呼吸不全について説明できる ・肺胞の障害(発生機序・病態・対応)・肺間質の障害(発生機序・病態・対応)
11回目	(目標②)心不全について説明できる ・定義と概念・原因疾患・病態生理学(心機能曲線、神経・内分泌反応、循環の変化)
12回目	(目標③)ショックについて説明できる ・循環血液量減少性ショック・心原性ショック・心外閉塞・拘束性ショック・血液分布異常性ショック
13回目	(目標③)ショックについて説明できる ・定義と概念・ショックの判断と判別・種類と分類・緊急度、重症度判別・病態
14回目	(目標②)心不全について説明できる ・慢性心不全の急性増悪・現場活動・症候(低心拍出量、肺うっ血、体循環うっ血、循環系)・種類(急性・慢性・左心・右心・うっ血)
15回目	終講義試験

準備学習
時間外学習
目標①呼吸不全について臨床医学呼吸器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、呼吸・血液生理学、運動学について予習が必要です。
目標②心不全について臨床医学循環器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、循環・血液生理学、運動学について予習が必要です
目標③ショックについて目標①②の復習が必要です。
目標④心肺停止について臨床医学循環器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、循環・血液生理学、運動学について予習が必要です。
最終的にAHA-BLSプロバイダー受講するので事前学習が必要です。

評価方法
最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。
●出席率
●小テスト
●定期テスト(終講試験)
上記にて成績評価判定を行う。

受講生への
メッセージ
魅力:一般市民へ指導の立場でもある救急救命士は最終目標のAHA-BLSプロバイダー受講する事で実際に活動内容を体験でき本授業の概要の理解が深まります。さらに自己研鑽する事で「包括的指示」の中でも迅速に的確に判断・処置することができ今後の現場活動に活かされます。
授業計画:最終的にAHA-BLSプロバイダー受講します。その必要な理論(知識)は、前半の授業で行いますので体調管理には、気をつけて欠席をしない様にしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版

Erで役立つ救急症候学 河野 寛幸

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急症候学 Emergency Symptomatology	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	河野 寛幸
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 3単位	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	火曜日 1,2限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

救急病態生理学 I で習得した内容からさらに各症候・病態生理を深める事で救命の連鎖である「二次救命処置と自己心拍再開後の集中治療」について説明できるようになる。救急救命士は一次救命処置(BLS)と平行して「救急救命処置」の「特定行為」である薬剤投与や気道確保器具などを利用した二次救命処置を行う事でより多くの傷病者の救命率の向上と予後の改善に繋がります。最終的にAHA-ACLSプロバイダー受講取得をする事で本授業修了時には各々の説明ができるようになる。

※実務者経験:1986年6月~現在

福岡徳洲会病院、函館共愛会病院、聖マリア病院、福岡和白病院等で救急業務に携わっている。

福岡博多トレーニングセンター 代表理事(AHA-BLS AHA-ACLS)

【到達目標】

循環系、呼吸系、消化系、泌尿器系に関わる疾患の症候・病態生理を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。その他各種疾患の症候・病態生理を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。

<具体的な目標>

- | | |
|------------------|------------------|
| 目標①めまいについて説明できる | ⑦腹痛について説明できる |
| 目標②呼吸困難について説明できる | ⑧吐血・下血について説明できる |
| 目標③喀血について説明できる | ⑨腰痛・背部痛について説明できる |
| 目標④失神について説明できる | ⑩体温上昇について説明できる |
| 目標⑤胸痛について説明できる | |
| 目標⑥動悸について説明できる | |

授業計画・内容

1回目	(目標①)めまいについて説明できる ・定義、概念・発症機序
2回目	(目標①)めまいについて説明できる ・分類1.末梢性2.中枢性3.失神性
3回目	(目標①)めまいについて説明できる ・原因疾患末梢性、中枢性、失神性の鑑別
4回目	(目標①)めまいについて説明できる ・随伴症状・緊急度、重症度の判別・現場活動
5回目	(目標②)呼吸困難について説明できる ・定義、概念・分類1.吸気性呼吸困難2.呼気性呼吸困難3.混合性呼吸困難
6回目	(目標②)呼吸困難について説明できる ・原因疾患1.呼吸系2.循環系3.外因系、随伴症状・緊急度、重症度の判断・現場活動
7回目	(目標③)喀血について説明できる ・定義・分類・喀血による影響
8回目	(目標③)喀血について説明できる ・原因疾患・判別を要する病態・緊急度、重症度の判断・現場活動
9回目	(目標④)失神について説明できる ・定義、概念・原因疾患
10回目	(目標④)失神について説明できる ・判別を要する病態・緊急度、重症度の判別・現場活動
11回目	(目標⑤)胸痛について説明できる ・定義、概念・発症機序
12回目	(目標⑤)胸痛について説明できる ・原因疾患・緊急度、重症度の判断・現場活動
13回目	(目標⑥)動悸について説明できる ・定義、概念・発症機序
14回目	(目標⑥)動悸について説明できる ・原因疾患・随伴症状・緊急度、重症度の判断・現場活動
15回目	(目標⑦)腹痛について説明できる ・発生機序1.内臓痛2.体性痛3.関連痛、原因疾患1.内臓痛2.体性痛3.関連痛

準備学習
時間外学習
前提:この授業を受けるには、臨床医学脳神経・呼吸器・循環器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、脳神経・循環器・呼吸器・血液生理学、運動学について予習が必要です。
(目標①~⑥)各症候の振り返りと復習が必要です
最終的にAHA-BLSプロバイダー受講するので事前学習が必要です。

評価方法
最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。
●出席率
●小テスト
●定期テスト(終講試験)
上記にて成績評価判定を行う。

受講生への
メッセージ
魅力:二次救命処置は「特定行為」であり医師との連携が必須で特定行為指示要請が必要となります。傷病者の状態を迅速に的確に伝えるためには各症候に関する知識が必要です。また具体的な指示を得るためには日常から自己研鑽が必要です。AHA-ACLSプロバイダー受講する事で実際に活動内容を体験・学ぶ事で理解が深まり今後の現場活動に活かされます。
授業計画:最終的にAHA-ACLSプロバイダー受講します。その必要な理論(知識)は、前半の授業で行いますので体調管理には、気をつけて欠席をしない様にしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	疾病救急医学Ⅱ Emergency Medicine Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員 実務経験	濱崎 大稀
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 3単位	開講区分 曜日・時限	前期 火曜日 3.4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

平成25年に急病で救急搬送された傷病者の疾病分類別で消化器疾患は10.3%を占め呼吸系・心疾患など脳疾患を抑えて首位である。急性腹症とは「急激な発症で激しい腹痛を主とし、緊急に治療を要する腹部疾患群」である。そのため迅速で的確な判断と治療が可能である医療機関への搬送が必要となる。また、内分泌疾患は呼吸・循環と併せて生命維持のための代謝に関する知識は救急救命士に必要である。さらに血液疾患や骨格・皮膚・感覚疾患は緊急度・重症度の判断は難しくそれぞれの基礎知識は必要とされます。これらの内容に関する理解を深め本授業終了時には各々の説明ができるようになる。

【到達目標】

消化・泌尿・内分泌・血液・骨格・皮膚・感覚系の主な疾患の発生機序や症状を学び、救急現場において必要な救急処置や適切な対応ができるようになる。

<具体的な目標>

- 目標①消化器疾患について、主な発生機序や症状、対応を説明できる
- 目標②泌尿器疾患について、主な発生機序や症状、対応を説明できる
- 目標③内分泌疾患について、主な発生機序や症状、対応を説明できる
- 目標④血液疾患について、主な発生機序や症状、対応を説明できる
- 目標⑤骨格・皮膚・感覚(眼・耳・鼻)疾患について、主な発生機序や症状、対応を説明できる

授業計画・内容

1回目	(目標①)総論(疫学と救急医療における意義 消化器疾患の主要症候 基本的対応)
2回目	(目標①)歯・口腔の疾患 食道疾患(食道静脈瘤破裂 マロリー・ワイス症候群 特発性食道破裂)
3回目	(目標①)胃・十二指腸疾患(胃・十二指腸潰瘍 AGML 急性胃腸炎 アニサキス症 胃癌)
4回目	(目標①)腸疾患(イレウス 上腸間膜動脈閉塞症 ヘルニア嵌頓 急性虫垂炎)
5回目	(目標①)腸疾患(大腸穿孔大腸憩室炎 虚血性大腸炎 大腸癌 炎症性腸疾患 痔核 急性腹膜炎)
6回目	(目標①)肝臓、胆道、膵臓の疾患(急性肝炎 肝硬変 肝不全 肝癌 胆石症 急性胆道感染症 急性降炎)
7回目	(目標②)総論(疫学と救急医療における意義 泌尿・生殖系疾患の主要症候 基本的対応)
8回目	(目標②)腎臓疾患(急性腎不全 急性腎障害 慢性腎不全 慢性腎臓病 糸球体腎炎 ネフローゼ症候群)
9回目	(目標②)尿路疾患(尿路結石症 急性腎盂腎炎 急性細菌性前立腺炎 急性膀胱炎 前立腺肥大 神経因性膀胱)
10回目	(目標②)女性生殖器疾患(骨盤内感染症 卵巣嚢腫捻転 子宮筋腫 子宮内膜症 卵巣出血)
11回目	(目標②)男性生殖器疾患(精索捻転症 精巣上体炎 精巣炎)
12回目	(目標③)総論(救急医療における意義 代謝・内分泌・栄養系疾患の主要症候 基本的対応)
13回目	(目標③)糖尿病と合併症(糖尿病 低血糖 糖尿病性ケトアシドーシス 高浸透圧高血糖症候群)
14回目	(目標③)その他の代謝異常(脱水 水電解質異常)栄養疾患(肥満 るいそう ビタミン欠乏症)
15回目	(目標③)内分泌疾患(甲状腺機能亢進症 甲状腺機能低下症 副腎機能異常)

準備学習 時間外学習
 前提:この授業を受けるには、臨床医消化器・泌尿器・内分泌・血液・骨格・皮膚・感覚系疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、呼吸・血液生理学、運動学について予習が必要です。
 目標①②消化器・泌尿器系疾患の知識を深める事で迅速で適切な重症度・緊急度の判断ができるため復習が必要です。
 目標③内分泌疾患の理解を深める事が代謝に関する知識に繋がるため復習が必要です。
 目標④血液疾患は病態不明な場合が多く観察や処置を実施するためには基本的な理解が必要であるため復習が必要です。
 目標⑤骨格・皮膚・感覚(眼・耳・鼻)疾患は緊急度は比較的低い場合が多いが歩行困難な場合は救急搬送頻度は多いため復習が必要です。

評価方法
 最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。
 ●出席率
 ●小テスト
 ●定期テスト(終講試験)
 上記にて成績評価判定を行う。

受講生へのメッセージ
 魅力:「急性腹症」は救急搬送件数が多く、緊急度が高い場合は呼吸・循環系疾患に並ぶ病態を呈する場合があります。その他生命維持に関する代謝や血液疾患に対する知識も救急救命士は必須であり、感覚器の疾患である骨格・皮膚・感覚(眼・耳・鼻)疾患では疾患の知識と併せて柔軟な対応やコミュニケーションが必要です。これらのスキルを身につける事で迅速・適切な緊急度・重症度を判断する事に繋がります。授業計画:授業内容が多く授業で身に付ける能力として試験を随時行います。必要な理論(知識)は、前半の授業で行いますので体調管理には、気をつけて欠席をしない様にしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	疾病救急医学Ⅱ Emergency Medicine Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	濱崎 大稀
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 3単位	実務経験	
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日 3,4限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>平成25年に急病で救急搬送された傷病者の疾病分類別で消化器疾患は10.3%を占め呼吸系・心疾患など脳疾患を抑えて首位である。急性腹症とは「急激な発症で激しい腹痛を主とし、緊急に治療を要する腹部疾患群」である。そのため迅速で的確な判断と治療が可能である医療機関への搬送が必要となる。また、内分泌疾患は呼吸・循環と併せて生命維持のための代謝に関する知識は救急救命士に必要である。さらに血液疾患や骨格・皮膚・感覚疾患は緊急度・重症度の判断は難しくそれぞれの基礎知識は必要とされます。これらの内容に関する理解を深め本授業修了時には各々の説明ができるようになる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>消化・泌尿・内分泌・血液・骨格・皮膚・感覚系の主な疾患の発生機序や症状を学び、救急現場において必要な救急処置や適切な対応ができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①消化器疾患について、主な発生機序や症状、対応を説明できる 目標②泌尿器疾患について、主な発生機序や症状、対応を説明できる 目標③内分泌疾患について、主な発生機序や症状、対応を説明できる 目標④血液疾患について、主な発生機序や症状、対応を説明できる 目標⑤骨格・皮膚・感覚(眼・耳・鼻)疾患について、主な発生機序や症状、対応を説明できる</p>							
授業計画・内容							
16回目	(目標④)総論(救急医療における意義 血液・免疫系疾患の主要症候 基本的対応)						
17回目	(目標④)血液疾患(貧血 血小板減少症 白血病 血友病 紫斑病 播種性血管内凝固症候群(DIC)顆粒球減少症 止血に影響を与える薬剤)						
18回目	(目標⑤)総論 救急医療における意義 骨格・皮膚・感覚系(眼・耳・鼻)系疾患の主要症候 基本的対応						
19回目	(目標⑤)筋・骨格系疾患 脊椎(急性腰痛症 椎間板ヘルニア 後縦靭帯硬化症 脊柱管狭窄)・関節(化膿性関節炎 結晶誘発性関節炎 肘内障 肩関節周囲炎 肩腱板損傷 変形性関節症 関節リウマチ)・筋疾患(進行性筋ジストロフィー 重症筋無力症 周期性四肢麻痺 横紋筋融解症)						
20回目	(目標⑤)皮膚・軟部組織の感染症(壊死性筋膜炎 蜂巣炎(蜂窩織炎) 伝染性膿痂疹 ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群(SSSS) 丹毒)						
21回目	(目標⑤)アレルギー性疾患(蕁麻疹 スティーブンス・ジョンソン症候群(粘膜皮膚眼症候群) 中毒性表皮壊死融解症(TEN) アトピー性皮膚炎)						
22回目	(目標⑤)眼・耳・鼻疾患 眼(急性緑内障発作 網膜中心動脈閉塞症 網膜剥離 結膜炎 白内障) 耳(良性頭位めまい症 メニエール病 前庭神経炎 突発性難聴) 耳(中耳炎 鼓膜穿孔) 鼻(鼻出血 急性副鼻腔炎)						
23回目	終講試験						
準備学習 時間外学習	<p>前提:この授業を受けるには、臨床医消化器・泌尿器・内分泌・血液・骨格・皮膚・感覚系疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、呼吸・血液生理学、運動学について予習が必要です。</p> <p>目標①②消化器・泌尿器系疾患の知識を深める事で迅速で適切な重症度・緊急度の判断ができるため復習が必要です。</p> <p>目標③内分泌疾患の理解を深める事が代謝に関する知識に繋がるため復習が必要です。</p> <p>目標④血液疾患は病態不明な場合が多く観察や処置を実施するためには基本的な理解が必要であるため復習が必要です。</p> <p>目標⑤骨格・皮膚・感覚(眼・耳・鼻)疾患は緊急度は比較的低い場合が多いが歩行困難な場合は救急搬送頻度は多いため復習が必要です。</p>						
評価方法	<p>最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率 ●小テスト ●定期テスト(終講試験) <p>上記にて成績評価判定を行う。</p>						
受講生への メッセージ	<p>魅力:「急性腹症」は救急搬送件数が多く、緊急度が高い場合は呼吸・循環系疾患に並ぶ病態を呈する場合があります。その他生命維持に関する代謝や血液疾患に対する知識も救急救命士は必須であり、感覚器の疾患である骨格・皮膚・感覚(眼・耳・鼻)疾患では疾患の知識と併せて柔軟な対応やコミュニケーションが必要です。これらのスキルを身につける事で迅速・適切な緊急度・重症度を判断する事に繋がります。授業計画:授業内容が多く授業で身に付ける能力として試験を随時行います。必要な理論(知識)は、前半の授業で行いますので体調管理には、気をつけて欠席をしない様にしてください。</p>						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書:改訂第10版救急救命士テキスト へるす出版							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	疾病救急医学Ⅲ Emergency Medicine Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員 実務経験	岡 優作 ○
コース		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 2単位	開講区分 曜日・時限	後期
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
筋・骨格系疾患:本疾患は外傷により生じるもの、内因性疾患が原因で生じるものがある。緊急度はおおむね低く、救命にかかわる疾患は少ないが、傷病者のADL(日常生活動作)に影響を与える。緊急度の高い疾患との鑑別を求められるため、病態の理解が必要となる。							
感染症:感染症には感冒症状から敗血症、感染力の弱いものから強いもの、頻度の高いものから低いものまで多岐にわたり存在する。傷病者の救命はもちろんのこと、救助者の危機管理も重要不可欠の知識となる。各種の感染症を理解し、説明できるようになることが必要。							
※実務者経験: 小学校教員免許、中学・高校国語Ⅰ教員免許を取得しており、小学校3年勤務、中学校1年勤務した経験がある。いずれも担任業務を行っている。また、10年間福岡市消防局で勤務しており、消防隊・救急隊を経験。救急救命士所得後、約4年間救急隊として勤務経験あり。							
【到達目標】							
筋・骨格系、感染症の主な疾患の発生機序、症状、救急処置等について理解することができるようになる。							
<具体的な目標>							
目標①筋・骨格系疾患の症候、対応、病態について説明できる。							
目標②感染症についての法律、種類、徴候、対応、病態について説明できる。							

授業計画・内容	
1回目	(目標①)疫学と救急医療における意義、主要症候、基本的対応について説明できる。
2回目	(目標①)急性腰痛症、椎間板ヘルニアについて説明できる。
3回目	(目標①)後縦靭帯骨化症、脊椎狭窄症について説明できる。
4回目	(目標①)化膿性関節炎、結晶誘発性関節炎、肘内障について説明できる。
5回目	(目標①)肩関節周囲炎、肩腱板損傷について説明できる。
6回目	(目標①)変形性関節症、関節リウマチについて説明できる。
7回目	(目標①)進行性筋ジストロフィー、重症筋無力症について説明できる。
8回目	(目標①)周期性四肢麻痺、横紋筋融解症について説明できる。
9回目	(目標②)疫学と救急医療における意義、感染症法、予防接種、感染症の徴候、基本的対応について説明できる。
10回目	(目標②)敗血症、結核について説明できる。
11回目	(目標②)インフルエンザ、食中毒について説明できる。
12回目	(目標②)輸入感染症、発疹性感染症①について説明できる。
13回目	(目標②)発疹性感染症②について説明できる。
14回目	(目標②)性感染症、その他の感染症について説明できる。
15回目	終講試験
準備学習 時間外学習	(目標①)筋・骨格系疾患を理解するために、予習として解剖生理、年齢・性別による生体変化等の知識が必要である。 (目標②)感染症の分類、予防接種の種類、感染経路、感染防御に用いる資機材についての予習が必要である。
評価方法	終講試験100%で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	筋・骨格系疾患は様々な要因で発症し、病態を理解しないと救急現場で緊急度の高い疾患との鑑別ができない。年齢や性別により生じる病態の特徴を学び、傷病者の訴えに沿える対応をできるようになってください。 感染症については、小児から高齢者まで発症する。海外からの渡航者も含め、さまざまな種類が存在するため、各種感染症の特徴を理解する必要があります。また、感染症が拡大しないための対応も求められる。傷病者だけではなく、身の安全を守るための知識を習得してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
改訂10版 救急救命士 標準テキスト	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	疾病救急医学Ⅳ	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	川野 剛
	Emergency Medicine Ⅳ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3単位)	実務経験	
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>小児・高齢者・周産期の傷病者は災害弱者(災害時要配慮者)であり災害時のみならず「病院前救護活動」ではそれぞれの特徴を考慮した対応が必要である。それは、それぞれが通常よりも自分の身に危険が差し迫った時、それを察知しても適切な行動をとることができない、または困難な者であるからである。加えて重要な症状を見逃す危険性が高い。そのため救急救命士が「病院前救護活動」行中でそれぞれの傷病者とのコミュニケーション・IC・観察・柔軟な対応を行う事や緊急度・重症度判断・迅速な病院搬送ができる事が重要である。これらの内容に関して「整合性がとれる」ように繰り返し改善・向上しながら「効果」「効率」「魅力」を高めるインストラクショナルデザインの実践を行い本授業修了時には各々の説明ができるようになる。</p>							
【到達目標】							
<p>小児・高齢者・周産期の特殊性とその発生機序、症状を学び、救急現場において必要な救急処置や適切な対応ができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①小児救急疾患(発生機序、症状、救急処置法)について説明できる</p> <p>目標②高齢者救急(発生機序、症状、救急処置法)について説明できる</p> <p>目標③周産期救急疾患(その発生機序、症状、救急処置法)について説明できる</p>							
授業計画・内容							
16回目	(目標③)非妊娠時の不正出血について説明できる ・器質的疾患がある場合 子宮癌 子宮内膜症 子宮筋腫 卵巣嚢腫茎捻転・器質的疾患が無い場合 機能性子宮出血						
17回目	(目標①)精神障害の分類、疫学、主要症候について説明できる。						
18回目	(目標②)精神症状への基本的対応について説明できる。						
19回目	(目標③)統合失調症、気分障害、器質性精神疾患、中毒性障害について説明できる。						
20回目	(目標③)パニック障害、心的外傷後ストレス障害(PTSD)、解離性(転換性)障害、摂食障害について説明できる。						
21回目	(目標③)パーソナリティ障害、精神遅滞、広汎性発達障害について説明できる。						
22回目	(目標③)悪性症候群、セロトニン症候群について説明できる。						
23回目	終講試験						
準備学習 時間外学習	<p>前提:講義日数が少ないのでこの授業を受けるには、臨床医学小児・高齢者・周産期の理解が不可欠です。さらにそれぞれの解剖学、特徴について予習が必要です。目標①小児救急疾患の発生機序、症状、救急処置法について復習が必要です</p> <p>目標②高齢者救急の発生機序、症状、救急処置法について復習が必要です</p> <p>目標③周産期救急疾患その発生機序、症状、救急処置法について復習が必要です</p> <p>それぞれの復習をしっかり行う事が「病院前救護活動」での適切な観察・緊急度・重症度判断、迅速な病院搬送に繋がります。</p>						
評価方法	<p>最終講義にて定期テスト(終講試験)を行い、生命・医学倫理の習熟度を測るため、筆記試験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率 ●小テスト ●定期テスト(終講試験) <p>上記にて成績評価判定を行う。</p>						
受講生への メッセージ	<p>「救急医療」の中でも小児・高齢者・周産期の傷病者は通常とは違う症状や病態を呈する事が多くまた、症状のカギとなるコミュニケーションも苦渋する事が特徴的です。さらに症状の進行は速いため迅速な対応が必要とされます。救急救命士の専門性である「病院前救護活動」ではこれらの学びを深める事で適切な観察・迅速・適切な緊急度・重症度を判断する事に繋がり今後の現場活動に活かされます。</p> <p>授業計画:看護師として今まで経験した事をみなさんにお話ししながら授業を進めていきたいと思ひます。講義終盤には終講試験対策で国家試験過去問題(選択問題)を行い国家試験に備え少しずつ慣れていきたいと思ひます。</p>						
【使用教科書・教材・参考書】							
改訂10版 救急救命士 標準テキスト							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	外傷総論	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	灘辺 正信
	General Introduction to Trauma	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1単位)	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 交通事故などによる外傷傷病者は、近年減少傾向にあるが、若年者における死亡原因の上位を占めている事実は変わりません。外傷の救命率を改善することで防ぎえた外傷死(PTD)を減らすことが外傷診療の大きな目的です。ロードアンドゴーとトラウマバイパスの概念と受傷機転による高エネルギー外傷の要件、それぞれの外傷による損傷を理解する必要があります。ロードアンドゴーとトラウマバイパスについては外傷システムを、受傷機転による高エネルギー外傷の要件については総務省消防庁による報告書を、それぞれの外傷による損傷は標準テキストの説明を理解する。本講義終了後、外傷システムと受傷機転による高エネルギー外傷の要件、それぞれの外傷による損傷について説明できるようになる。
 実務経験
 元宗像地区消防組合消防本部 消防署長歴任

【到達目標】
 外傷についての傷病者の評価や受傷機転、発生機序、ショックを学び、外傷時の現場活動において必要な救急処置や適切な対応ができるようになる。
 <具体的な目標>
 目標①
 目標②
 目標③

授業計画・内容	
1回目	死亡統計における外傷の位置づけ、外傷傷病者の予測生存率・予測外死亡率・防ぎ得た外傷死、外傷による死亡時期について説明できる。
2回目	外傷システム・トラウマバイパス・ロードアンドゴーについて説明できる。
3回目	力学的エネルギーと損傷との関係を説明できる。
4回目	直達損傷と介達損傷とは何かを説明できる。
5回目	介達損傷の原因となる外力を4種類列挙し、それぞれについて説明できる。
6回目	外力による損傷を、成傷器・損傷部位・損傷の数・それぞれの観点から分類できる。
7回目	四輪車の事故・自動二輪車の事故・墜落・転落などの主な受傷形態について、特徴的な受傷機転や病態について説明できる。
8回目	終講試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	準備学習として各解剖学的部位の場所、機能をしっかり把握したうえで授業に参加することで、より理解が深まる。また、講義の範囲をしっかり復習することが必要となります。講義で利用した資料やノート、講義内確認小テストの見直しが必要となります。 <ul style="list-style-type: none"> ●解剖生理学復習 ●講義振り返り
評価方法	終講試験にて外傷各論についての知識習熟度を筆記試験にて評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ●出席率 ●筆記試験 で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	救急救命士として外傷傷病者、外傷対応については必ず遭遇する事案であり、適確かつ迅速に対応が求められます。また、大規模災害等では多数傷病者が発生する可能性があり、複数の対応者や傷病者がいるなかで連携して活動することも考えられます。傷病者を「防ぎ得た外傷死」から一人でも多く救い、適切な判断の下、医療機関選定を行える救急救命士として現場で活躍して頂きたいです。
【使用教科書・教材・参考書】	
改訂第10版 救急救命士標準テキスト 改訂第2版 補訂版 JPTECガイドブック	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	外傷各論	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	川野 剛
	Trauma	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4単位)	実務経験	
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日 3,4限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>交通事故などによる外傷傷病者は、近年減少傾向にあるが、若年者における死亡原因の上位を占めている事実は変わりません。防ぎえた外傷死(PTD)を減らすことは外傷診療の大きな目的です。最近では、消防と医療の連携が注目されているが、高エネルギー外傷による傷病者の救命には搬送と医療の連携が大切です。この連携が上手く機能するためには、搬送途上での適切な処置が重要であり、そのためには的確な判断ができる各外傷の知識が必要です。病院前における外傷初期診療には「JPTEC」にて標準化されたプロトコルを理解し、各外傷や特殊な外傷について標準テキストにてしっかりと知識を構築し、本講義終了時には病院前における外傷初期診療が実践でき、各外傷や特殊な外傷について説明できるようになる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>各部位における外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等を学び、外傷時の現場活動において必要な救急処置や適切な対応ができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①</p> <p>目標②</p> <p>目標③</p>							

授業計画・内容	
1回目	外傷に伴う生体の反応(循環動態・炎症性メディエータ)、生体反応の破綻と「致死的外傷3徴候」について説明できる。
2回目	外傷に伴う出血性ショックの病態とショックに対する輸液効果を説明でき、その他の外傷性ショックについて列挙できる。
3回目	状況評価で行うべきことを列挙でき、初期評価・全身観察の目的、評価項目及びそれぞれの評価時の段階で行う処置を説明できる。
4回目	重点観察を行うべき状況を説明でき、ロードアンドゴーか否かを適切に判定し、傷病者の緊急度・重症度に応じて適切な搬送先医療機関を選定できる。
5回目	搬送中の体位管理と体温管理の注意点が説明でき、外傷によるショックに対する静脈路確保と輸液の考え方を説明できる。
6回目	詳細観察や継続観察の目的を説明し、観察項目を列挙できる。
7回目	外傷全体及び外傷死亡における頭部外傷の位置づけ、頭部外傷の特徴的な受傷機転について説明できる。
8回目	開放性損傷と閉鎖性損傷の違い、一次性脳損傷と二次性脳損傷の違い、頭蓋外及び頭蓋内の主な損傷の病態について説明できる。
9回目	頭部外傷の続発性・後遺症について説明でき、受傷機転、生理学的評価、解剖学的評価の概要を説明できる。
10回目	意識状態と重症度の関係を説明でき、重症度を高めに見積もるべき特殊な状況を列挙できる。
11回目	顔面外傷と頭部外傷の発生状況、特殊な事情、主な損傷形態とその問題点、バイタルサインの評価と処置概要を説明できる。
12回目	外傷に占める頸椎損傷の割合、好発部位、頭部・顔面外傷との関連性と、主な受傷機転による損傷形態について説明できる。
13回目	脊髄損傷の分類と代表的な損傷形態、脊髄ショックと神経原性ショック、損傷レベルと主な徴候、バイタルサイン評価と処置概要について説明できる。
14回目	外傷全体及び外傷死亡における胸部外傷の位置づけ、主な受傷状況と損傷しやすい臓器、胸部の典型的損傷及び外傷性窒息の病態を説明できる。
15回目	受傷機転、生理学的評価、解剖学的評価の概要、主な胸部外傷に対する処置、気胸に対する陽圧換気と輸液、緊急度が高い胸部外傷を説明できる。
準備学習 時間外学習	<p>準備学習として各解剖学的部位の場所、機能をしっかり把握したうえで授業に参加することで、より理解が深まる。また、観察におけるバイタルサインの正常値をしっかりと理解した上で異常値か正常値を判別できる。また、講義の範囲をしっかりと復習することが必要となります。講義で利用した資料やノート、講義内確認小テストの見直しが必要になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●解剖生理学復習 ●バイタルサイン正常値復習 ●講義振り返り
評価方法	<p>終講試験にて外傷各論についての知識習熟度を筆記試験にて評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率 ●筆記試験 <p>で成績評価を行う。</p>
受講生への メッセージ	<p>救急救命士として外傷傷病者、外傷対応については必ず遭遇する事案であり、適確かつ迅速に対応が求められます。また、大規模災害等では多数傷病者が発生する可能性があり、複数の対応者や傷病者がいるなかで連携して活動することも考えられます。傷病者を「防ぎ得た外傷死」から一人でも多く救い、適切な判断の下、医療機関選定を行える救急救命士として現場で活躍して頂きたいです。</p>
【使用教科書・教材・参考書】	
<p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト 改訂第2版 補訂版 JPTECガイドブック</p>	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	外傷各論	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	川野 剛
	Trauma	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (4単位)	実務経験	
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	火曜日 3.4限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>交通事故などによる外傷傷病者は、近年減少傾向にあるが、若年者における死亡原因の上位を占めている事実は変わりません。防ぎえた外傷死(PTD)を減らすことは外傷診療の大きな目的です。最近では、消防と医療の連携が注目されているが、高エネルギー外傷による傷病者の救命には搬送と医療の連携が大切です。この連携が上手く機能するためには、搬送途上での適切な処置が重要であり、そのためには的確な判断ができる各外傷の知識が必要です。病院前における外傷初期診療には「JPTEC」にて標準化されたプロトコルを理解し、各外傷や特殊な外傷について標準テキストにてしっかりと知識を構築し、本講義終了時には病院前における外傷初期診療が実践でき、各外傷や特殊な外傷について説明できるようになる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>各部位における外傷の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等を学び、外傷時の現場活動において必要な救急処置や適切な対応ができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①</p> <p>目標②</p> <p>目標③</p>							

授業計画・内容	
16回目	外傷に占める腹部外傷の割合と損傷しやすい臓器、鋭的損傷及び鈍的損傷の主な受傷機転とそれぞれ損傷しやすい臓器について説明できる。
17回目	腹部外傷で問題となる重要な病態、腹部臓器の損傷形態、受傷機転、生理学的評価、解剖学的評価の概要を説明できる。
18回目	腹膜刺激徴候や腹部膨満の意義、主な処置の概要、ダメージコントロール手術、外傷死の三徴、コンパートメント症候群について説明できる。
19回目	外傷に占める骨盤骨折の割合、死因、分類、受傷機転、生理学的評価、解剖学的評価の要点、触診法の意義と注意点、固定について説明できる。
20回目	四肢外傷の発生状況と外傷死亡における位置づけ、筋肉・腱・捻挫・脱臼について、病的・疲労骨折、開放性と閉鎖性の違いについて説明できる。
21回目	骨折の合併症、筋区画症候群、阻血の5P、大腿骨と各関節の損傷形態、四肢外傷の評価と適切な処置について説明できる。
22回目	皮膚・軟部組織損傷の分類と損傷形態の違い、デグロービング損傷とデコルマン損傷、圧座症候群、主な外傷に対する処置について説明できる。
23回目	小児の特徴、乳幼児揺さぶられ症候群、特徴的外傷、外傷時の観察(コミュニケーション)と各評価について説明できる。
24回目	高齢者の特徴、主な外傷、外傷時の観察(コミュニケーションと注意点)と各評価について説明できる。
25回目	妊婦の特徴、妊娠外傷の評価・処置の注意点について説明できる。
26回目	熱傷の病態、初期評価と全身観察の要点、合併しやすい病態、気道熱傷、熱傷面積、熱傷指数・熱傷予後指数・アルツの基準について説明できる。
27回目	化学損傷の特徴、症状、フッ化水素酸による化学損傷の特徴、化学性肺炎を引き起こす原因化学物質、観察と処置の要点について説明できる。
28回目	電撃症と雷撃症の定義、症状・病態・観察と処置、雷撃症におけるトリアージ(多数傷病者)の特徴を説明できる。
29回目	総頸と絞頸、扼頸の違い、発生機序、観察と処置の要点を説明できる。それぞれの咬傷による特徴と観察、処置の要点について説明できる。
30回目	終講試験
準備学習 時間外学習	<p>準備学習として各解剖学的部位の場所、機能をしっかりと把握したうえで授業に参加することで、より理解が深まる。また、観察におけるバイタルサインの正常値をしっかりと理解した上で異常値か正常値を判別できる。また、講義の範囲をしっかりと復習することが必要となります。講義で利用した資料やノート、講義内確認小テストの見直しが必要となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●解剖生理学復習 ●バイタルサイン正常値復習 ●講義振り返り
評価方法	<p>終講試験にて外傷各論についての知識習熟度を筆記試験にて評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率 ●筆記試験 <p>で成績評価を行う。</p>
受講生への メッセージ	<p>救急救命士として外傷傷病者、外傷対応については必ず遭遇する事案であり、適確かつ迅速に対応が求められます。また、大規模災害等では多数傷病者が発生する可能性があり、複数の対応者や傷病者がいるなかで連携して活動することも考えられます。傷病者を「防ぎ得た外傷死」から一人でも多く救い、適切な判断の下、医療機関選定を行える救急救命士として現場で活躍して頂きたいです。</p>
【使用教科書・教材・参考書】	
<p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト 改訂第2版 補訂版 JPTECガイドブック</p>	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	環境障害	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	灘辺 正信
	Environmental Insults	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1単位)	実務経験	○
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 気候の変化(温暖化)による熱中症患者の増加や高齢化社会による高齢者の異物による窒息、レジャー等による環境因子が生体に与える障害について講義を通じて理解する必要があります。また、環境因子による患者の対応では様々な関係者と関わる事例が多い為、連携の手法としてどのような情報が必要かをディスカッションします。本講義終了後、環境因子による障害についての概要、発症原因・分類、症状、処置等が説明できるようになる。

※実務者経験:元 宗像地区消防組合消防本部 消防署長

【到達目標】
 環境因子による障害について発生機序、病態、症状、予後などを学び、環境因子が原因となる救急活動において観察、評価、処置及び搬送方法について適切な対応ができるようになる。
 <具体的な目標>
 目標①
 目標②
 目標③

授業計画・内容

1回目	気道異物の種類と特徴、気道の不完全閉塞と完全閉塞の症状と処置について説明できる。
2回目	消化管異物・鼻・耳・眼・性器異物の種類と症状、溺水の危険因子・過程・予後、溺水傷病者の観察と処置について説明できる。
3回目	熱中症の疫学・原因と発生の特徴・発生機序・分類と症状、熱中症傷病者に対する観察と処置について説明できる。
4回目	偶発性低体温の発生機序と病態生理、偶発性低体温傷病者に対する観察、処置の要点についてを説明できる。
5回目	放射線の概要、放射線による急性障害と晩発障害、確定的影響と確率的影響、急性放射線症候群について説明できる。
6回目	放射線被ばく防護法、区域管理とスクリーニング及び除染、傷病者の観察と処置の要点、被ばく医療体制について説明できる。
7回目	急性高山病の判断基準と観察・処置の要点、減圧障害・酸素欠乏症の症状と観察・処置の要点について説明できる。
8回目	終講試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習
 時間外学習
 環境障害を学習するにあたり、解剖生理学の復習が必要です。
 さらに、熱中症については近年、気温の上昇に伴い患者数も増えていることから、環境による救急患者も増えていることを認識する必要がある。
 また、環境障害についてそれぞれの特徴についてまとめると理解ができやすいと思います。
 ●解剖学
 ●ノート振り返り

評価方法
 終講試験にて中毒について知識習熟度を筆記試験にて評価を行う。
 ●出席率
 ●終講試験
 で成績評価を行う。

受講生への
 メッセージ
 気候の変化に伴い熱中症の増加、小児の海や川でのレジャー中の溺水事故、東日本大震災での放射線物質による障害、その他環境障害による概要や原因、症状をしっかり理解することが重要です。また、傷病者に対する対応や他の機関と連携して対応する活動も含めて理解が必要です。救急救命士として傷病者を適切に観察し、医療機関に判定できるようになって頂きたいです。

【使用教科書・教材・参考書】

改訂第10版 救急救命士標準テキスト

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	岡 優作(川野 剛)
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	実務経験	○
						開講区分	前期/後期
						曜日・時限	不定期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>消防官及び救急救命士としてまず基本を身につけることが重要です。集団行動で必要となる規律訓練やロープ結索、一次救命処置(AED&CPR)等の基本手技を身につけることが必要となります。個人手技や班、グループとして実習を行い、規律訓練やそれぞれの手技の意味、目的、内容を理解し本授業修了時には習得した基本手技が実施できるようになる。</p> <p>実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務) その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標① 目標② 目標③</p>							

授業計画・内容	
1回目	(実習前オリエンテーション) 救急処置の重要性を理解し救急救命士としての使命を説明できる。
2回目	(規律訓練) 節度を持った行動ができる。
3回目	(規律訓練) 節度を持った行動ができる。
4回目	(規律訓練) 節度を持った行動ができる。
5回目	(規律訓練) 節度を持った行動ができる。
6回目	(規律訓練) 節度を持った行動ができる。
7回目	(規律訓練) 節度を持った行動ができる。
8回目	(規律訓練) 節度を持った行動ができる。
9回目	(ロープ結索訓練) 各種結びができる。
10回目	(ロープ結索訓練) 各種結びができる。
11回目	(ロープ結索訓練) 各種結びができる。
12回目	(ロープ結索訓練) 各種結びができる。
13回目	(ロープ結索訓練) 各種結びができる。
14回目	(ロープ結索訓練) 各種結びができる。
15回目	(ロープ結索訓練) 各種結びができる。
準備学習 時間外学習	事前学習は必要ありませんが、実習で習った項目については時間外復習が必要となります。実技や手技については難しいものもありますが、時間外に反復して復習・練習することで必ず出来るようになります。 ●復習 ●反復練習
評価方法	出席状況及び授業態度、前期末試験および学年末試験を総合的に評価 ●出席率(67%以上) ●実技・手技試験 ●筆記試験
受講生への メッセージ	消防官及び救急救命士として必要となる基本動作・基本手技については必ず必要になります。また、初めて習う内容なので難しいかもしれませんが、1つ1つ確実に練習し、繰り返し行うことで出来るようになります。また、習うことに興味を持ち、取り組むことが大事となります。しっかりと1年次に基礎を身につけましょう。
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>救急救命士標準テキスト 上下巻 (へるす出版)</p>	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	岡 優作(川野 剛)
	Emergency Care Practical Training(Basic Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	実務経験	○
コース						開講区分	前期/後期
						曜日・時限	不定期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>消防官及び救急救命士としてまず基本を身につけることが重要です。集団行動で必要となる規律訓練やロープ結索、一次救命処置(AED & CPR)等の基本手技を身につけることが必要となります。個人手技や班、グループとして実習を行い、規律訓練やそれぞれの手技の意味、目的、内容を理解し本授業修了時には習得した基本手技が実施できるようになる。</p> <p>実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務) その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標① 目標② 目標③</p>							

授業計画・内容	
16回目	(救命手当・止血法他) 大出血の止血方法を理解し処置できる。
17回目	(救命手当・止血法他) 大出血の止血方法を理解し処置できる。
18回目	(救命手当・止血法他) 大出血の止血方法を理解し処置できる。
19回目	(救命手当・止血法他) 大出血の止血方法を理解し処置できる。
20回目	(救命手当・止血法他) 大出血の止血方法を理解し処置できる。
21回目	(体位管理と保温) 傷病者の主訴や症状による体位管理・保温ができる。
22回目	(体位管理と保温) 傷病者の主訴や症状による体位管理・保温ができる。
23回目	(体位管理と保温) 傷病者の主訴や症状による体位管理・保温ができる。
24回目	(体位管理と保温) 傷病者の主訴や症状による体位管理・保温ができる。
25回目	(体位管理と保温) 傷病者の主訴や症状による体位管理・保温ができる。
26回目	(体位管理と保温) 傷病者の主訴や症状による体位管理・保温ができる。
27回目	(搬送法・各種担架取扱い) 徒手及び各種担架での搬送ができる。
28回目	(搬送法・各種担架取扱い) 徒手及び各種担架での搬送ができる。
29回目	(搬送法・各種担架取扱い) 徒手及び各種担架での搬送ができる。
30回目	(搬送法・各種担架取扱い) 徒手及び各種担架での搬送ができる。
準備学習 時間外学習	<p>事前学習は必要ありませんが、実習で習った項目については時間外復習が必要となります。実技や手技については難しいものもありますが、時間外に反復して復習・練習することで必ず出来るようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●復習 ●反復練習
評価方法	<p>出席状況及び授業態度、前期期末試験および学年末試験を総合的に評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率(67%以上) ●実技・手技試験 ●筆記試験
受講生への メッセージ	<p>消防官及び救急救命士として必要となる基本動作・基本手技については必ず必要になります。また、初めて習う内容なので難しいかもしれませんが、1つ1つ確実に練習し、繰り返し行うことで出来るようになります。また、習うことに興味を持ち、取り組むことが大事となります。しっかりと1年次に基礎を身につけましょう。</p>
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	岡 優作(川野 剛) ○
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	開講区分 曜日・時限	前期/後期 不定期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>消防官及び救急救命士としてまず基本を身につけることが重要です。集団行動で必要となる規律訓練やロープ結索、一次救命処置(AED&CPR)等の基本手技を身につけることが必要となります。個人手技や班、グループとして実習を行い、規律訓練やそれぞれの手技の意味、目的、内容を理解し本授業修了時には習得した基本手技が実施できるようになる。</p> <p>実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務) その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標① 目標② 目標③</p>							

授業計画・内容	
31回目	(バイタル測定) 意識を確認し意識レベルを評価できる。
32回目	(バイタル測定) 意識を確認し意識レベルを評価できる。
33回目	(バイタル測定) 呼吸(回数・様式)を確認し評価できる。
34回目	(バイタル測定) 呼吸(回数・様式)を確認し評価できる。
35回目	(バイタル測定) 循環(脈拍)を確認し評価できる。
36回目	(バイタル測定) 循環(脈拍)を確認し評価できる。
37回目	(バイタル測定) 聴診器を使用し呼吸音・心音を聴取できる。
38回目	(バイタル測定) 聴診器を使用し呼吸音・心音を聴取できる。
39回目	(バイタル測定) 血圧計で血圧測定ができる。
40回目	(バイタル測定) 血圧計で血圧測定ができる。
41回目	(バイタル測定) SP02モニターで酸素飽和度を測定できる。
42回目	(バイタル測定) SP03モニターで酸素飽和度を測定できる。
43回目	(気道確保) 手動的気道確保法(頭部後屈あご先拳上法・下顎拳上法)が実施できる。
44回目	(気道確保) 手動的気道確保法(頭部後屈あご先拳上法・下顎拳上法)が実施できる。
45回目	(気道確保) 手動的気道確保法(頭部後屈あご先拳上法・下顎拳上法)が実施できる。
準備学習 時間外学習	事前学習は必要ありませんが、実習で習った項目については時間外復習が必要となります。実技や手技については難しいものもありますが、時間外に反復して復習・練習することで必ず出来るようになります。 ●復習 ●反復練習
評価方法	出席状況及び授業態度、前期期末試験および学年末試験を総合的に評価 ●出席率(67%以上) ●実技・手技試験 ●筆記試験
受講生への メッセージ	消防官及び救急救命士として必要となる基本動作・基本手技については必ず必要になります。また、初めて習う内容なので難しいかもしれませんが、1つ1つ確実に練習し、繰り返し行うことで出来るようになります。また、習うことに興味を持ち、取り組むことが大事となります。しっかりと1年次に基礎を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	岡 優作(川野 剛) ○
	コース	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	開講区分 曜日・時限	前期/後期 不定期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消防官及び救急救命士としてまず基本を身につけることが重要です。集団行動で必要となる規律訓練やロープ結索、一次救命処置(AED & CPR)等の基本手技を身につけることが必要となります。個人手技や班、グループとして実習を行い、規律訓練やそれぞれの手技の意味、目的、内容を理解し本授業終了時には習得した基本手技が実施できるようになる。

実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務)
 その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務

【到達目標】
 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①
 目標②
 目標③

授業計画・内容	
46回目	(気道確保) 用手的気道確保法(頭部後屈あご先拳上法・下顎拳上法)が実施できる。
47回目	(気道確保) エアウェイを用いた気道確保法(経口・経鼻エアウェイ)が実施できる。
48回目	(気道確保) エアウェイを用いた気道確保法(経口・経鼻エアウェイ)が実施できる。
49回目	(気道確保) エアウェイを用いた気道確保法(経口・経鼻エアウェイ)が実施できる。
50回目	(気道確保) エアウェイを用いた気道確保法(経口・経鼻エアウェイ)が実施できる。
51回目	(気道確保) エアウェイを用いた気道確保法(経口・経鼻エアウェイ)が実施できる。
52回目	(気道確保) エアウェイを用いた気道確保法(経口・経鼻エアウェイ)が実施できる。
53回目	(気道確保・補助呼吸) BVM(バッグ・バルブ・マスク)を用いた気道確保法が実施できる。
54回目	(気道確保・補助呼吸) BVM(バッグ・バルブ・マスク)を用いた気道確保法が実施できる。
55回目	(気道確保・補助呼吸) BVM(バッグ・バルブ・マスク)を用いた気道確保法が実施できる。
56回目	(気道確保・補助呼吸) BVM(バッグ・バルブ・マスク)を用いた気道確保法が実施できる。
57回目	(気道確保・補助呼吸) BVM(バッグ・バルブ・マスク)を用いた気道確保法が実施できる。
58回目	(気道確保・補助呼吸) BVM(バッグ・バルブ・マスク)を用いた気道確保法が実施できる。
59回目	(胸骨圧迫) 胸骨圧迫(BLS)が実施できる。
60回目	(胸骨圧迫) 胸骨圧迫(BLS)が実施できる。
準備学習 時間外学習	事前学習は必要ありませんが、実習で習った項目については時間外復習が必要となります。実技や手技については難しいものもありますが、時間外に反復して復習・練習することで必ず出来るようになります。 ●復習 ●反復練習
評価方法	出席状況及び授業態度、前期期末試験および学年末試験を総合的に評価 ●出席率(67%以上) ●実技・手技試験 ●筆記試験
受講生への メッセージ	消防官及び救急救命士として必要となる基本動作・基本手技については必ず必要になります。また、初めて習う内容なので難しいかもしれませんが、1つ1つ確実に練習し、繰り返し行うことで出来るようになります。また、習うことに興味を持ち、取り組むことが大事となります。しっかりと1年次に基礎を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	岡 優作(川野 剛)
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	実務経験	○
						開講区分	前期/後期
						曜日・時限	不定期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消防官及び救急救命士としてまず基本を身につけることが重要です。集団行動で必要となる規律訓練やロープ結索、一次救命処置(AED&CPR)等の基本手技を身につけることが必要となります。個人手技や班、グループとして実習を行い、規律訓練やそれぞれの手技の意味、目的、内容を理解し本授業修了時には習得した基本手技が実施できるようになる。

実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務)
 その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務

【到達目標】
 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①
 目標②
 目標③

授業計画・内容	
61回目	(胸骨圧迫) 胸骨圧迫(BLS)が実施できる。
62回目	(胸骨圧迫) 胸骨圧迫(BLS)が実施できる。
63回目	(胸骨圧迫) 胸骨圧迫(BLS)が実施できる。
64回目	(胸骨圧迫) 胸骨圧迫(BLS)が実施できる。
65回目	(AED) AEDが実施できる。
66回目	(AED) AEDが実施できる。
67回目	(AED) AEDが実施できる。
68回目	(AED) AEDが実施できる。
69回目	胸骨圧迫とAEDの一連の動作ができる。
70回目	胸骨圧迫とAEDの一連の動作ができる。
71回目	胸骨圧迫とAEDの一連の動作ができる。
72回目	胸骨圧迫とAEDの一連の動作ができる。
73回目	胸骨圧迫とAEDの一連の動作ができる。
74回目	(心肺蘇生法とAED) 初期対応からAEDまで一連の行動ができる。
75回目	(心肺蘇生法とAED) 初期対応からAEDまで一連の行動ができる。
準備学習 時間外学習	事前学習は必要ありませんが、実習で習った項目については時間外復習が必要となります。実技や手技については難しいものもありますが、時間外に反復して復習・練習することで必ず出来るようになります。 ●復習 ●反復練習
評価方法	出席状況及び授業態度、前期期末試験および学年末試験を総合的に評価 ●出席率(67%以上) ●実技・手技試験 ●筆記試験
受講生への メッセージ	消防官及び救急救命士として必要となる基本動作・基本手技については必ず必要になります。また、初めて習う内容なので難しいかもしれませんが、1つ1つ確実に練習し、繰り返し行うことで出来るようになります。また、習うことに興味を持ち、取り組むことが大事となります。しっかりと1年次に基礎を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	岡 優作(川野 剛)
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	実務経験	○
						開講区分	前期/後期
						曜日・時限	不定期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 消防官及び救急救命士としてまず基本を身につけることが重要です。集団行動で必要となる規律訓練やロープ結索、一次救命処置(AED&CPR)等の基本手技を身につけることが必要となります。個人手技や班、グループとして実習を行い、規律訓練やそれぞれの手技の意味、目的、内容を理解し本授業修了時には習得した基本手技が実施できるようになる。</p> <p>実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務) その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務</p>							
<p>【到達目標】 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。 <具体的な目標> 目標① 目標② 目標③</p>							

授業計画・内容	
76回目	(心肺蘇生法とAED) 初期対応からAEDまで一連の行動ができる。
77回目	(心肺蘇生法とAED) 初期対応からAEDまで一連の行動ができる。
78回目	(心肺蘇生法とAED) 初期対応からAEDまで一連の行動ができる。
79回目	(心肺蘇生法とAED) 初期対応からAEDまで一連の行動ができる。
80回目	(心肺蘇生法とAED) 初期対応からAEDまで一連の行動ができる。
81回目	(心肺蘇生法とAED) 初期対応からAEDまで一連の行動ができる。
82回目	(心肺蘇生法とAED) 初期対応からAEDまで一連の行動ができる。
83回目	(心肺蘇生法とAED) 初期対応からAEDまで一連の行動ができる。
84回目	(心肺蘇生法とAED) 初期対応からAEDまで一連の行動ができる。
85回目	前期確認試験対策・振り返り
86回目	前期確認試験対策・振り返り
87回目	前期確認試験
88回目	前期確認試験
89回目	前期確認試験
90回目	前期確認試験
準備学習 時間外学習	事前学習は必要ありませんが、実習で習った項目については時間外復習が必要となります。実技や手技については難しいものもありますが、時間外に反復して復習・練習することで必ず出来るようになります。 ●復習 ●反復練習
評価方法	出席状況及び授業態度、前期期末試験および学年末試験を総合的に評価 ●出席率(67%以上) ●実技・手技試験 ●筆記試験
受講生への メッセージ	消防官及び救急救命士として必要となる基本動作・基本手技については必ず必要になります。また、初めて習う内容なので難しいかもしれませんが、1つ1つ確実に練習し、繰り返し行うことで出来るようになります。また、習うことに興味を持ち、取り組むことが大事となります。しっかりと1年次に基礎を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	岡 優作(川野 剛) ○
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	開講区分 曜日・時限	前期/後期 不定期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
消防官及び救急救命士としてまず基本を身につけることが重要です。集団行動で必要となる規律訓練やロープ結索、一次救命処置(AED&CPR)等の基本手技を身につけることが必要となります。個人手技や班、グループとして実習を行い、規律訓練やそれぞれの手技の意味、目的、内容を理解し本授業修了時には習得した基本手技が実施できるようになる。

実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務)
その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務

【到達目標】
実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。
<具体的な目標>
目標①
目標②
目標③

授業計画・内容	
91回目	(除細動器) 心電図モニター波形を理解し、除細動が実施できる。
92回目	(除細動器) 心電図モニター波形を理解し、除細動が実施できる。
93回目	(除細動器) 心電図モニター波形を理解し、除細動が実施できる。
94回目	(除細動器) 心電図モニター波形を理解し、除細動が実施できる。
95回目	(除細動器) 心電図モニター波形を理解し、除細動が実施できる。
96回目	(除細動器) 心電図モニター波形を理解し、除細動が実施できる。
97回目	(除細動器) 心電図モニター波形を理解し、除細動が実施できる。
98回目	(除細動器) 心電図モニター波形を理解し、除細動が実施できる。
99回目	(用手的気道異物除去法) 対象に応じたハイムリック法が実施できる。
100回目	(用手的気道異物除去法) 対象に応じたハイムリック法が実施できる。
101回目	(用手的気道異物除去法) 対象に応じたハイムリック法が実施できる。
102回目	(用手的気道異物除去法) 対象に応じたハイムリック法が実施できる。
103回目	(器具による気道異物除去法) 喉頭鏡・マギール鉗子が実施できる。
104回目	(器具による気道異物除去法) 喉頭鏡・マギール鉗子が実施できる。
105回目	(器具による気道異物除去法) 喉頭鏡・マギール鉗子が実施できる。
準備学習 時間外学習	事前学習は必要ありませんが、実習で習った項目については時間外復習が必要となります。実技や手技については難しいものもありますが、時間外に反復して復習・練習することで必ず出来るようになります。 ●復習 ●反復練習
評価方法	出席状況及び授業態度、前期期末試験および学年末試験を総合的に評価 ●出席率(67%以上) ●実技・手技試験 ●筆記試験
受講生への メッセージ	消防官及び救急救命士として必要となる基本動作・基本手技については必ず必要になります。また、初めて習う内容なので難しいかもしれませんが、1つ1つ確実に練習し、繰り返し行うことで出来るようになります。また、習うことに興味を持ち、取り組むことが大事となります。しっかりと1年次に基礎を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	岡 優作(川野 剛)
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	実務経験	○
						開講区分	前期/後期
						曜日・時限	不定期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>消防官及び救急救命士としてまず基本を身につけることが重要です。集団行動で必要となる規律訓練やロープ結索、一次救命処置(AED & CPR)等の基本手技を身につけることが必要となります。個人手技や班、グループとして実習を行い、規律訓練やそれぞれの手技の意味、目的、内容を理解し本授業修了時には習得した基本手技が実施できるようになる。</p> <p>実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務) その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標① 目標② 目標③</p>							

授業計画・内容	
106回目	(器具による気道異物除去法) 喉頭鏡・マギール鉗子が実施できる。
107回目	(器具による気道異物除去法) 喉頭鏡・マギール鉗子が実施できる。
108回目	(器具による気道異物除去法) 喉頭鏡・マギール鉗子が実施できる。
109回目	(口腔内吸引) 目的に応じた吸引器が実施できる。
110回目	(口腔内吸引) 目的に応じた吸引器が実施できる。
111回目	(口腔内吸引) 目的に応じた吸引器が実施できる。
112回目	(口腔内吸引) 目的に応じた吸引器が実施できる。
113回目	(声门上デバイス) ラリングアルマスクが実施できる。
114回目	(声门上デバイス) ラリングアルマスクが実施できる。
115回目	(声门上デバイス) ラリングアルマスクが実施できる。
116回目	(声门上デバイス) ラリングアルマスクが実施できる。
117回目	(声门上デバイス) ラリングアルチューブが実施できる。
118回目	(声门上デバイス) ラリングアルチューブが実施できる。
119回目	(声门上デバイス) ラリングアルチューブが実施できる。
120回目	(声门上デバイス) ラリングアルチューブが実施できる。
準備学習 時間外学習	事前学習は必要ありませんが、実習で習った項目については時間外復習が必要となります。実技や手技については難しいものもありますが、時間外に反復して復習・練習することで必ず出来るようになります。 ●復習 ●反復練習
評価方法	出席状況及び授業態度、前期期末試験および学年末試験を総合的に評価 ●出席率(67%以上) ●実技・手技試験 ●筆記試験
受講生への メッセージ	消防官及び救急救命士として必要となる基本動作・基本手技については必ず必要になります。また、初めて習う内容なので難しいかもしれませんが、1つ1つ確実に練習し、繰り返し行うことで出来るようになります。また、習うことに興味を持ち、取り組むことが大事となります。しっかりと1年次に基礎を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	岡 優作(川野 剛) ○
	コース	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	開講区分 曜日・時限	前期/後期 不定期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消防官及び救急救命士としてまず基本を身につけることが重要です。集団行動で必要となる規律訓練やロープ結索、一次救命処置(AED&CPR)等の基本手技を身につけることが必要となります。個人手技や班、グループとして実習を行い、規律訓練やそれぞれの手技の意味、目的、内容を理解し本授業修了時には習得した基本手技が実施できるようになる。

実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務)
 その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務

【到達目標】
 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①
 目標②
 目標③

授業計画・内容	
121回目	(声門上デバイス) ラリングアルチューブが実施できる。
122回目	(声門上デバイス) ラリングアルチューブが実施できる。
123回目	(酸素投与) 目的・状態の応じた酸素投与が実施できる。
124回目	(酸素投与) 目的・状態の応じた酸素投与が実施できる。
125回目	(酸素投与) 目的・状態の応じた酸素投与が実施できる。
126回目	(酸素投与) 目的・状態の応じた酸素投与が実施できる。
127回目	(酸素投与) 目的・状態の応じた酸素投与が実施できる。
128回目	(酸素投与) 目的・状態の応じた酸素投与が実施できる。
129回目	(気管内挿管) プロトコールに応じた気管内挿管が実施できる。
130回目	(気管内挿管) プロトコールに応じた気管内挿管が実施できる。
131回目	(気管内挿管) プロトコールに応じた気管内挿管が実施できる。
132回目	(気管内挿管) プロトコールに応じた気管内挿管が実施できる。
133回目	(気管内挿管) プロトコールに応じた気管内挿管が実施できる。
134回目	(気管内挿管) プロトコールに応じた気管内挿管が実施できる。
135回目	(気管内挿管) プロトコールに応じた気管内挿管が実施できる。
準備学習 時間外学習	事前学習は必要ありませんが、実習で習った項目については時間外復習が必要となります。実技や手技については難しいものもありますが、時間外に反復して復習・練習することで必ず出来るようになります。 ●復習 ●反復練習
評価方法	出席状況及び授業態度、前期期末試験および学年末試験を総合的に評価 ●出席率(67%以上) ●実技・手技試験 ●筆記試験
受講生への メッセージ	消防官及び救急救命士として必要となる基本動作・基本手技については必ず必要になります。また、初めて習う内容なので難しいかもしれませんが、1つ1つ確実に練習し、繰り返して行うことで出来るようになります。また、習うことに興味を持ち、取り組むことが大事となります。しっかりと1年次に基礎を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	岡 優作(川野 剛)
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	実務経験	○
						開講区分	前期/後期
						曜日・時限	不定期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 消防官及び救急救命士としてまず基本を身につけることが重要です。集団行動で必要となる規律訓練やロープ結索、一次救命処置(AED&CPR)等の基本手技を身につけることが必要となります。個人手技や班、グループとして実習を行い、規律訓練やそれぞれの手技の意味、目的、内容を理解し本授業修了時には習得した基本手技が実施できるようになる。</p> <p>実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務) その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務</p>							
<p>【到達目標】 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。 <具体的な目標> 目標① 目標② 目標③</p>							

授業計画・内容	
136回目	(気管内挿管) プロトコールに応じた気管内挿管が実施できる。
137回目	(MCLS) 多数傷病者発生時のトリアージ (START変法) が実施できる。
138回目	(MCLS) 多数傷病者発生時のトリアージ (START変法) が実施できる。
139回目	(MCLS) 多数傷病者発生時のトリアージ (START変法) が実施できる。
140回目	(MCLS) 多数傷病者発生時のトリアージ (START変法) が実施できる。
141回目	(MCLS) 多数傷病者発生時のトリアージ (START変法) が実施できる。
142回目	(MCLS) 多数傷病者発生時のトリアージ (START変法) が実施できる。
143回目	(MCLS) 多数傷病者発生時のトリアージ (START変法) が実施できる。
144回目	(MCLS) 多数傷病者発生時のトリアージ (START変法) が実施できる。
145回目	(MCLS) 多数傷病者発生時のトリアージ (START変法) が実施できる。
146回目	(MCLS) 多数傷病者発生時のトリアージ (START変法) が実施できる。
147回目	(MCLS) 多数傷病者発生時のトリアージ (START変法) が実施できる。
148回目	(MCLS) 多数傷病者発生時のトリアージ (START変法) が実施できる。
149回目	(静脈路確保) プロトコールに応じた静脈路確保が実施できる。
150回目	(静脈路確保) プロトコールに応じた静脈路確保が実施できる。
準備学習 時間外学習	<p>事前学習は必要ありませんが、実習で習った項目については時間外復習が必要となります。実技や手技については難しいものもありますが、時間外に反復して復習・練習することで必ず出来るようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●復習 ●反復練習
評価方法	<p>出席状況及び授業態度、前期期末試験および学年末試験を総合的に評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率(67%以上) ●実技・手技試験 ●筆記試験
受講生への メッセージ	<p>消防官及び救急救命士として必要となる基本動作・基本手技については必ず必要になります。また、初めて習う内容なので難しいかもしれませんが、1つ1つ確実に練習し、繰り返し行うことで出来るようになります。また、習うことに興味を持ち、取り組むことが大事となります。しっかりと1年次に基礎を身につけましょう。</p>
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	岡 優作(川野 剛)
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	実務経験	○
						開講区分	前期/後期
						曜日・時限	不定期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 消防官及び救急救命士としてまず基本を身につけることが重要です。集団行動で必要となる規律訓練やロープ結索、一次救命処置(AED&CPR)等の基本手技を身につけることが必要となります。個人手技や班、グループとして実習を行い、規律訓練やそれぞれの手技の意味、目的、内容を理解し本授業修了時には習得した基本手技が実施できるようになる。</p> <p>実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務) その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務</p>							
<p>【到達目標】 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。 <具体的な目標> 目標① 目標② 目標③</p>							

授業計画・内容	
151回目	(静脈路確保) プロトコールに応じた静脈路確保が実施できる。
152回目	(静脈路確保) プロトコールに応じた静脈路確保が実施できる。
153回目	(静脈路確保) プロトコールに応じた静脈路確保が実施できる。
154回目	(静脈路確保) プロトコールに応じた静脈路確保が実施できる。
155回目	(静脈路確保) プロトコールに応じた静脈路確保が実施できる。
156回目	(静脈路確保) プロトコールに応じた静脈路確保が実施できる。
157回目	(静脈路確保) プロトコールに応じた静脈路確保が実施できる。
158回目	(静脈路確保) プロトコールに応じた静脈路確保が実施できる。
159回目	(静脈路確保) プロトコールに応じた静脈路確保が実施できる。
160回目	(静脈路確保) プロトコールに応じた静脈路確保が実施できる。
161回目	各種振り返り・復習(前期・後期)
162回目	各種振り返り・復習(前期・後期)
163回目	各種振り返り・復習(前期・後期)
164回目	各種振り返り・復習(前期・後期)
165回目	各種振り返り・復習(前期・後期)
準備学習 時間外学習	事前学習は必要ありませんが、実習で習った項目については時間外復習が必要となります。実技や手技については難しいものもありますが、時間外に反復して復習・練習することで必ず出来るようになります。 ●復習 ●反復練習
評価方法	出席状況及び授業態度、前期末試験および学年末試験を総合的に評価 ●出席率(67%以上) ●実技・手技試験 ●筆記試験
受講生への メッセージ	消防官及び救急救命士として必要となる基本動作・基本手技については必ず必要になります。また、初めて習う内容なので難しいかもしれませんが、1つ1つ確実に練習し、繰り返して行うことで出来るようになります。また、習うことに興味を持ち、取り組むことが大事となります。しっかりと1年次に基礎を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習 I (基本手技) Emergency Care Practical Training (Basic Skills)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員 実務経験	岡 優作(川野 剛) ○
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 (8単位)	開講区分 曜日・時限	前期/後期 不定期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消防官及び救急救命士としてまず基本を身につけることが重要です。集団行動で必要となる規律訓練やロープ結索、一次救命処置(AED&CPR)等の基本手技を身につけることが必要となります。個人手技や班、グループとして実習を行い、規律訓練やそれぞれの手技の意味、目的、内容を理解し本授業修了時には習得した基本手技が実施できるようになる。

実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務)
 その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務

【到達目標】
 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①
 目標②
 目標③

授業計画・内容	
166回目	各種振り返り・復習(前期・後期)
167回目	各種振り返り・復習(前期・後期)
168回目	各種振り返り・復習(前期・後期)
169回目	学年末試験(前期・後期で習得したことができる)
170回目	学年末試験(前期・後期で習得したことができる)
171回目	学年末試験(前期・後期で習得したことができる)
172回目	学年末試験(前期・後期で習得したことができる)
173回目	学年末試験(前期・後期で習得したことができる)
174回目	学年末試験(前期・後期で習得したことができる)
175回目	学年末試験(前期・後期で習得したことができる)
176回目	学年末試験(前期・後期で習得したことができる)
177回目	学年末試験(前期・後期で習得したことができる)
178回目	学年末試験(前期・後期で習得したことができる)
179回目	学年末試験(前期・後期で習得したことができる)
180回目	学年末試験(前期・後期で習得したことができる)
準備学習 時間外学習	事前学習は必要ありませんが、実習で習った項目については時間外復習が必要となります。実技や手技については難しいものもありますが、時間外に反復して復習・練習することで必ず出来るようになります。 ●復習 ●反復練習
評価方法	出席状況及び授業態度、前期期末試験および学年末試験を総合的に評価 ●出席率(67%以上) ●実技・手技試験 ●筆記試験
受講生への メッセージ	消防官及び救急救命士として必要となる基本動作・基本手技については必ず必要になります。また、初めて習う内容なので難しいかもしれませんが、1つ1つ確実に練習し、繰り返し行うことで出来るようになります。また、習うことに興味を持ち、取り組むことが大事となります。しっかりと1年次に基礎を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急救命実習Ⅱ(応用手技) Emergency Care Practical Training(Applied Skills)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	古財/灘辺
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 8単位	実務経験	○
						開講区分	前期・後期
						曜日・時限	月曜・木曜
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解する必要があります。また、救急救命処置の目的、適応、手技、評価、合併症及び注意点を理解し、各処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。</p> <p>実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。</p> <p>※実務者経験: 古財 敏行: 北九州市消防局で35年間勤務・救急救命九州研修所5年間勤務 灘辺 正信: 宗像地区消防本部勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標① 目標② 目標③</p>							

授業計画・内容	
1回目	(オリエンテーション) 救急救命の重要性を理解し救急救命士としての使命を説明できる。
2回目	(規律訓練) 節度を持った行動ができる。
3回目	(規律訓練) 節度を持った行動ができる。
4回目	(規律訓練) 節度を持った行動ができる。
5回目	(心肺蘇生法) 適切な心肺蘇生法(BLS)が出来る。～1年次の理解及び習得度確認～
6回目	(心肺蘇生法) 適切な心肺蘇生法(BLS)が出来る。～1年次の理解及び習得度確認～
7回目	(心肺蘇生法) 適切な心肺蘇生法(BLS)が出来る。～1年次の理解及び習得度確認～
8回目	(心肺蘇生法) 適切な心肺蘇生法(BLS)が出来る。～1年次の理解及び習得度確認～
9回目	(心肺蘇生法) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動ができる。(デモ活動DVD)
10回目	(心肺蘇生法) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動ができる。(デモ活動DVD)
11回目	(心肺蘇生法) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動ができる。(デモ活動DVD)
12回目	(心肺蘇生法) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動ができる。(デモ活動DVD)
13回目	(心肺蘇生法) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動ができる。(デモ活動DVD)
14回目	(心肺蘇生法) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動ができる。(デモ活動DVD)
15回目	(心肺蘇生法) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動ができる。(デモ活動DVD)
準備学習 時間外学習	準備学習:1年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、定期実技試験で総合評価を行う。 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●定期実技試験
受講生への メッセージ	救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。2年次は主に救急救命処置を活用した隊活動になります。一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック(へるす出版)	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急救命実習Ⅱ(応用手技)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	古財/灘辺
	Emergency Care Practical Training(Applied Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 8単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期・後期
						曜日・時限	月曜・木曜

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の目的、適応、手技、評価、合併症及び注意点を理解し、各処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】

実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。

<具体的な目標>

- 目標①
- 目標②
- 目標③

授業計画・内容

16回目	(心肺蘇生法) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動ができる。(デモ活動DVD)
17回目	(器具を使用した気道確保) ラリングアルチューブ(LT)が実施できる。(基本手技・DVD)
18回目	(器具を使用した気道確保) ラリングアルチューブ(LT)が実施できる。(基本手技・DVD)
19回目	(器具を使用した気道確保) ラリングアルチューブ(LT)が実施できる。(基本手技・DVD)
20回目	(器具を使用した気道確保) ラリングアルチューブ(LT)が実施できる。(基本手技・DVD)
21回目	(器具を使用した気道確保) ラリングアルチューブ(LT)が実施できる。(基本手技・DVD)
22回目	(器具を使用した気道確保) ラリングアルチューブ(LT)が実施できる。(基本手技・DVD)
23回目	(器具を使用した気道確保) ラリングアルチューブ(LT)が実施できる。(基本手技・DVD)
24回目	(器具を使用した気道確保) ラリングアルチューブ(LT)が実施できる。(基本手技・DVD)
25回目	(器具を使用した気道確保) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動及びラリングアルチューブが実施できる。(デモ活動DVD)
26回目	(器具を使用した気道確保) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動及びラリングアルチューブが実施できる。(デモ活動DVD)
27回目	(器具を使用した気道確保) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動及びラリングアルチューブが実施できる。(デモ活動DVD)
28回目	(器具を使用した気道確保) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動及びラリングアルチューブが実施できる。(デモ活動DVD)
29回目	(器具を使用した気道確保) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動及びラリングアルチューブが実施できる。(デモ活動DVD)
30回目	(器具を使用した気道確保) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動及びラリングアルチューブが実施できる。(デモ活動DVD)
準備学習 時間外学習	準備学習:1年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、定期実技試験で総合評価を行う。 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●定期実技試験
受講生への メッセージ	救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。2年次は主に救急救命処置を活用した隊活動になります。一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック (へるす出版)	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急救命実習Ⅱ(応用手技)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員 実務経験	古財/灘辺 ○
	Emergency Care Practical Training(Applied Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 8単位	開講区分 曜日・時限	前期・後期 月曜・木曜
コース							

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の目的、適応、手技、評価、合併症及び注意点を理解し、各処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】

実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。

<具体的な目標>

- 目標①
- 目標②
- 目標③

授業計画・内容

31回目	(器具を使用した気道確保) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動及びラリングアルチューブが実施できる。(デモ活動DVD)
32回目	(器具を使用した気道確保) 心肺停止患者の対応として救急隊の活動及びラリングアルチューブが実施できる。(デモ活動DVD)
33回目	(器具による気道異物除去) 異物による窒息患者に対して器具を用いた異物除去法が実施できる。(喉頭鏡・マギール鉗子・DVD)
34回目	(器具による気道異物除去) 異物による窒息患者に対して器具を用いた異物除去法が実施できる。(喉頭鏡・マギール鉗子・DVD)
35回目	(器具による気道異物除去) 異物による窒息患者に対して器具を用いた異物除去法が実施できる。(喉頭鏡・マギール鉗子・DVD)
36回目	(器具による気道異物除去) 異物による窒息患者に対して器具を用いた異物除去法が実施できる。(喉頭鏡・マギール鉗子・DVD)
37回目	(器具による気道異物除去) 異物による窒息患者に対して器具を用いた異物除去法が実施できる。(喉頭鏡・マギール鉗子・DVD)
38回目	(器具による気道異物除去) 異物による窒息患者に対して器具を用いた異物除去法が実施できる。(喉頭鏡・マギール鉗子・DVD)
39回目	(器具による気道異物除去) 異物による窒息患者に対して器具を用いた異物除去法が実施できる。(喉頭鏡・マギール鉗子・DVD)
40回目	(器具による気道異物除去) 異物による窒息患者に対して器具を用いた異物除去法が実施できる。(喉頭鏡・マギール鉗子・DVD)
41回目	(気管内挿管) 気管挿管が実施できる。(基本手技・DVD)
42回目	(気管内挿管) 気管挿管が実施できる。(基本手技・DVD)
43回目	(気管内挿管) 気管挿管が実施できる。(基本手技・DVD)
44回目	(気管内挿管) 気管挿管が実施できる。(基本手技・DVD)
45回目	(気管内挿管) 気管挿管が実施できる。(基本手技・DVD)
準備学習 時間外学習	準備学習:1年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、定期実技試験で総合評価を行う。 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●定期実技試験
受講生への メッセージ	救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。2年次は主に救急救命処置を活用した隊活動になります。一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック (へるす出版)	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅱ(応用手技)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	古財/灘辺
	Emergency Care Practical Training(Applied Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 8単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期・後期
						曜日・時限	月曜・木曜

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の目的、適応、手技、評価、合併症及び注意点を理解し、各処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。
 実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】
 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①
 目標②
 目標③

授業計画・内容	
46回目	(気管内挿管) 気管挿管が実施できる。(基本手技・DVD)
47回目	(気管内挿管) 気管挿管が実施できる。(基本手技・DVD)
48回目	(気管内挿管) 気管挿管が実施できる。(基本手技・DVD)
49回目	(気管内挿管) 気管挿管が実施できる。(基本手技・DVD)
50回目	(気管内挿管) 気管挿管が実施できる。(基本手技・DVD)
51回目	(気管内挿管) 気管挿管が実施できる。(基本手技・DVD)
52回目	(気管内挿管) 気管挿管が実施できる。(基本手技・DVD)
53回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
54回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
55回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
56回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
57回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
58回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
59回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
60回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
準備学習 時間外学習	準備学習:1年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、定期実技試験で総合評価を行う。 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●定期実技試験
受講生への メッセージ	救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。2年次は主に救急救命処置を活用した隊活動になります。一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック (へるす出版)	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅱ(応用手技)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	古財/灘辺
	Emergency Care Practical Training(Applied Skills)					実務経験	○
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 8単位	開講区分	前期・後期
						曜日・時限	月曜・木曜

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の目的、適応、手技、評価、合併症及び注意点を理解し、各処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。
 実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】
 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①
 目標②
 目標③

授業計画・内容	
61回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
62回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
63回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
64回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
65回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
66回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
67回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
68回目	(気管内挿管) 異物による窒息で心肺停止患者の対応として救急隊活動、異物除去法、気管挿管が実施できる。(デモ活動DVD)
69回目	(1次病院実習前) 看護科実習室で行うナースングケアができる。(看護科へ依頼)
70回目	(1次病院実習前) 看護科実習室で行うナースングケアができる。(看護科へ依頼)
71回目	(1次病院実習前) 看護科実習室で行うナースングケアができる。(看護科へ依頼)
72回目	(1次病院実習前) 看護科実習室で行うナースングケアができる。(看護科へ依頼)
73回目	(1次病院実習前) 看護科実習室で行うナースングケアができる。(看護科へ依頼)
74回目	(1次病院実習前) 看護科実習室で行うナースングケアができる。(看護科へ依頼)
75回目	(1次病院実習前) 看護科実習室で行うナースングケアができる。(看護科へ依頼)
準備学習 時間外学習	準備学習:1年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、定期実技試験で総合評価を行う。 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●定期実技試験
受講生への メッセージ	救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。2年次は主に救急救命処置を活用した隊活動になります。一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
救急救命士標準テキスト、JPTEOガイドブック (へるす出版)	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅱ(応用手技)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員 実務経験	古財/灘辺 ○
	Emergency Care Practical Training(Applied Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 8単位	開講区分 曜日・時限	前期・後期 月曜・木曜
コース							

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の目的、適応、手技、評価、合併症及び注意点を理解し、各処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。
実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】

実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。

<具体的な目標>

- 目標①
- 目標②
- 目標③

授業計画・内容

76回目	(1次病院実習前) 看護科実習室で行うナースングケアができる。(看護科へ依頼)
77回目	(1次病院実習前) 1次病院実習オリエンテーションを行う。(履歴書・誓約書等記入)
78回目	(1次病院実習前) 1次病院実習オリエンテーションを行う。(履歴書・誓約書等記入)
79回目	(1次病院実習前) 1次病院実習オリエンテーションを行う。(日程表・病院割り振り・タイムスケジュール等)
80回目	(1次病院実習前) 1次病院実習オリエンテーションを行う。(レポート関連)
81回目	中間試験【LT・器具を用いた気道確保・気管挿管】
82回目	中間試験【LT・器具を用いた気道確保・気管挿管】
83回目	中間試験【LT・器具を用いた気道確保・気管挿管】
84回目	中間試験【LT・器具を用いた気道確保・気管挿管】
85回目	(外傷) JPTECプロバイダーコースタスクを実施する。
86回目	(外傷) JPTECプロバイダーコースタスクを実施する。
87回目	(外傷) JPTECプロバイダーコースタスクを実施する。
88回目	(外傷) JPTECプロバイダーコースタスクを実施する。
89回目	(1次病院実習前) 1次病院実習オリエンテーションを行う。(報告会・フィードバック)
90回目	(1次病院実習前) 1次病院実習オリエンテーションを行う。(報告会・フィードバック)
準備学習 時間外学習	準備学習:1年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、定期実技試験で総合評価を行う。 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●定期実技試験
受講生への メッセージ	救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。2年次は主に救急救命処置を活用した隊活動になります。一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック (へるす出版)	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅱ(応用手技)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	古財/灘辺
	Emergency Care Practical Training(Applied Skills)					実務経験	○
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 8単位	開講区分	前期・後期
						曜日・時限	月曜・木曜

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の目的、適応、手技、評価、合併症及び注意点を理解し、各処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。
 実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】

実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。

<具体的な目標>

- 目標①
- 目標②
- 目標③

授業計画・内容

91回目	(静脈路確保) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
92回目	(静脈路確保) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
93回目	(静脈路確保) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
94回目	(静脈路確保) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
95回目	(静脈路確保) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
96回目	(静脈路確保) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
97回目	(静脈路確保) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
98回目	(静脈路確保) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
99回目	(静脈路確保) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
100回目	(静脈路確保) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
101回目	(静脈路確保) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
102回目	(静脈路確保) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
103回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
104回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
105回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)

準備学習:1年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。
 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。
 個人練習できる手技については復習すること。

評価方法
 出席状況及び授業態度、定期実技試験で総合評価を行う。
 ●出席率(67%以上)
 ●授業態度
 ●定期実技試験

受講生へのメッセージ
 救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。2年次は主に救急救命処置を活用した隊活動になります。一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック (へるす出版)

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急救命実習Ⅱ(応用手技) Emergency Care Practical Training(Applied Skills)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員 実務経験	古財/灘辺 ○
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 8単位	開講区分 曜日・時限	前期・後期 月曜・木曜
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の目的、適応、手技、評価、合併症及び注意点を理解し、各処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。</p> <p>実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。</p> <p>※実務者経験:</p> <p>【到達目標】</p> <p>実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標① 目標② 目標③</p>							

授業計画・内容	
106回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
107回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
108回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
109回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
110回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
111回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
112回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
113回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
114回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 静脈路確保が実施できる。(基本手技・DVD)
115回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 心肺停止患者の対応として救急隊活動、静脈路確保、薬剤投与が実施できる。(デモ活動DVD)
116回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 心肺停止患者の対応として救急隊活動、静脈路確保、薬剤投与が実施できる。(デモ活動DVD)
117回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 心肺停止患者の対応として救急隊活動、静脈路確保、薬剤投与が実施できる。(デモ活動DVD)
118回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 心肺停止患者の対応として救急隊活動、静脈路確保、薬剤投与が実施できる。(デモ活動DVD)
119回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 心肺停止患者の対応として救急隊活動、静脈路確保、薬剤投与が実施できる。(デモ活動DVD)
120回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 心肺停止患者の対応として救急隊活動、静脈路確保、薬剤投与が実施できる。(デモ活動DVD)
準備学習 時間外学習	準備学習:1年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、定期実技試験で総合評価を行う。 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●定期実技試験
受講生への メッセージ	救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。2年次は主に救急救命処置を活用した隊活動になります。一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック (へるす出版)	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅱ(応用手技)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	古財/灘辺
	Emergency Care Practical Training(Applied Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 8単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期・後期
						曜日・時限	月曜・木曜

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状況、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の目的、適応、手技、評価、合併症及び注意点を理解し、各処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。
 実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。
 本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】

実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。

<具体的な目標>

- 目標①
- 目標②
- 目標③

授業計画・内容

121回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 心肺停止患者の対応として救急隊活動、静脈路確保、薬剤投与が実施できる。(デモ活動DVD)
122回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 心肺停止患者の対応として救急隊活動、静脈路確保、薬剤投与が実施できる。(デモ活動DVD)
123回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 心肺停止患者の対応として救急隊活動、静脈路確保、薬剤投与が実施できる。(デモ活動DVD)
124回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 心肺停止患者の対応として救急隊活動、静脈路確保、薬剤投与が実施できる。(デモ活動DVD)
125回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 心肺停止患者の対応として救急隊活動、静脈路確保、薬剤投与が実施できる。(デモ活動DVD)
126回目	(静脈路確保及び薬剤投与) 心肺停止患者の対応として救急隊活動、静脈路確保、薬剤投与が実施できる。(デモ活動DVD)
127回目	(血糖測定) 血糖測定が実施できる。(基本手技・DVD)
128回目	(血糖測定) 血糖測定が実施できる。(基本手技・DVD)
129回目	(血糖測定) 血糖測定が実施できる。(基本手技・DVD)
130回目	(血糖測定) 血糖測定が実施できる。(基本手技・DVD)
131回目	(血糖測定及びブドウ糖投与) 血糖測定及びブドウ糖投与が実施できる。(基本手技・DVD)
132回目	(血糖測定及びブドウ糖投与) 血糖測定及びブドウ糖投与が実施できる。(基本手技・DVD)
133回目	(血糖測定及びブドウ糖投与) 血糖測定及びブドウ糖投与が実施できる。(基本手技・DVD)
134回目	(血糖測定及びブドウ糖投与) 血糖測定及びブドウ糖投与が実施できる。(基本手技・DVD)
135回目	(血糖測定及びブドウ糖投与) 血糖測定及びブドウ糖投与が実施できる。(基本手技・DVD)
準備学習 時間外学習	準備学習:1年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、定期実技試験で総合評価を行う。 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●定期実技試験
受講生への メッセージ	救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。2年次は主に救急救命処置を活用した隊活動になります。一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック (へるす出版)

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急救命実習Ⅱ(応用手技)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員 実務経験	古財/灘辺 ○
	Emergency Care Practical Training (Applied Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 8単位	開講区分 曜日・時限	前期・後期 月曜・木曜
コース							

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状況、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の目的、適応、手技、評価、合併症及び注意点を理解し、各処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。
 実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。
 本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】
 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①
 目標②
 目標③

授業計画・内容	
136回目	(血糖測定及びブドウ糖投与) 血糖測定及びブドウ糖投与が実施できる。(基本手技・DVD)
137回目	(血糖測定及びブドウ糖投与) 血糖測定及びブドウ糖投与が実施できる。(基本手技・DVD)
138回目	(血糖測定及びブドウ糖投与) 血糖測定及びブドウ糖投与が実施できる。(基本手技・DVD)
139回目	(血糖測定及び静脈路確保、ブドウ糖投与) 低血糖が疑われる患者の対応として救急隊活動、血糖測定、静脈路確保、ブドウ糖投与が実施できる。(デモ活動DVD)
140回目	(血糖測定及び静脈路確保、ブドウ糖投与) 低血糖が疑われる患者の対応として救急隊活動、血糖測定、静脈路確保、ブドウ糖投与が実施できる。(デモ活動DVD)
141回目	(血糖測定及び静脈路確保、ブドウ糖投与) 低血糖が疑われる患者の対応として救急隊活動、血糖測定、静脈路確保、ブドウ糖投与が実施できる。(デモ活動DVD)
142回目	(血糖測定及び静脈路確保、ブドウ糖投与) 低血糖が疑われる患者の対応として救急隊活動、血糖測定、静脈路確保、ブドウ糖投与が実施できる。(デモ活動DVD)
143回目	(血糖測定及び静脈路確保、ブドウ糖投与) 低血糖が疑われる患者の対応として救急隊活動、血糖測定、静脈路確保、ブドウ糖投与が実施できる。(デモ活動DVD)
144回目	(血糖測定及び静脈路確保、ブドウ糖投与) 低血糖が疑われる患者の対応として救急隊活動、血糖測定、静脈路確保、ブドウ糖投与が実施できる。(デモ活動DVD)
145回目	(血糖測定及び静脈路確保、ブドウ糖投与) 低血糖が疑われる患者の対応として救急隊活動、血糖測定、静脈路確保、ブドウ糖投与が実施できる。(デモ活動DVD)
146回目	(血糖測定及び静脈路確保、ブドウ糖投与) 低血糖が疑われる患者の対応として救急隊活動、血糖測定、静脈路確保、ブドウ糖投与が実施できる。(デモ活動DVD)
147回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷スキル (JPTEC) が実施できる。(基本手技・DVD) 【状況評価・初期評価】
148回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷スキル (JPTEC) が実施できる。(基本手技・DVD) 【状況評価・初期評価】
149回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷スキル (JPTEC) が実施できる。(基本手技・DVD) 【状況評価・初期評価】
150回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷スキル (JPTEC) が実施できる。(基本手技・DVD) 【状況評価・初期評価】
準備学習 時間外学習	準備学習:1年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、定期実技試験で総合評価を行う。 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●定期実技試験
受講生への メッセージ	救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。2年次は主に救急救命処置を活用した隊活動になります。一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック (へるす出版)	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅱ(応用手技)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	古財/灘辺
	Emergency Care Practical Training(Applied Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 8単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期・後期
						曜日・時限	月曜・木曜

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の目的、適応、手技、評価、合併症及び注意点を理解し、各処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。
 実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。
 本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】

実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。

<具体的な目標>

- 目標①
- 目標②
- 目標③

授業計画・内容

151回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷スキル (JPTEC) が実施できる。(基本手技・DVD) 【状況評価・初期評価・全身観察】
152回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷スキル (JPTEC) が実施できる。(基本手技・DVD) 【状況評価・初期評価・全身観察】
153回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷スキル (JPTEC) が実施できる。(基本手技・DVD) 【状況評価・初期評価・全身観察】
154回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷スキル (JPTEC) が実施できる。(基本手技・DVD) 【状況評価・初期評価・全身観察】
155回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷スキル (JPTEC) が実施できる。(基本手技・DVD) 【状況評価・初期評価・全身観察・継続観察・詳細観察・車内活動】
156回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷スキル (JPTEC) が実施できる。(基本手技・DVD) 【状況評価・初期評価・全身観察・継続観察・詳細観察・車内活動】
157回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷スキル (JPTEC) が実施できる。(基本手技・DVD) 【状況評価・初期評価・全身観察・継続観察・詳細観察・車内活動】
158回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷スキル (JPTEC) が実施できる。(基本手技・DVD) 【状況評価・初期評価・全身観察・継続観察・詳細観察・車内活動】
159回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷傷病者に対する救急隊活動、外傷スキル (JPTEC) に基づく活動が実施できる。(デモ活動DVD)
160回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷傷病者に対する救急隊活動、外傷スキル (JPTEC) に基づく活動が実施できる。(デモ活動DVD)
161回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷傷病者に対する救急隊活動、外傷スキル (JPTEC) に基づく活動が実施できる。(デモ活動DVD)
162回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷傷病者に対する救急隊活動、外傷スキル (JPTEC) に基づく活動が実施できる。(デモ活動DVD)
163回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷傷病者に対する救急隊活動、外傷スキル (JPTEC) に基づく活動が実施できる。(デモ活動DVD)
164回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷傷病者に対する救急隊活動、外傷スキル (JPTEC) に基づく活動が実施できる。(デモ活動DVD)
165回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷傷病者に対する救急隊活動、外傷スキル (JPTEC) に基づく活動が実施できる。(デモ活動DVD)

準備学習:1年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。
 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。
 個人練習できる手技については復習すること。

評価方法
 出席状況及び授業態度、定期実技試験で総合評価を行う。
 ●出席率(67%以上)
 ●授業態度
 ●定期実技試験

受講生へのメッセージ
 救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。2年次は主に救急救命処置を活用した隊活動になります。一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック (へるす出版)

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅱ(応用手技)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	古財/灘辺
	Emergency Care Practical Training(Applied Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	360時間 8単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期・後期
						曜日・時限	月曜・木曜

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の目的、適応、手技、評価、合併症及び注意点を理解し、各処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。
 実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】
 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①
 目標②
 目標③

授業計画・内容

166回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷傷病者に対する救急隊活動、外傷スキル (JPTEC) に基づく活動が実施できる。(デモ活動DVD)
167回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷傷病者に対する救急隊活動、外傷スキル (JPTEC) に基づく活動が実施できる。(デモ活動DVD)
168回目	(外傷スキル・JPTEC) 外傷傷病者に対する救急隊活動、外傷スキル (JPTEC) に基づく活動が実施できる。(デモ活動DVD)
169回目	(総合演習) 学年末試験に向けた練習・復習を行う。
170回目	(総合演習) 学年末試験に向けた練習・復習を行う。
171回目	(総合演習) 学年末試験に向けた練習・復習を行う。
172回目	(総合演習) 学年末試験に向けた練習・復習を行う。
173回目	学年末試験①(静脈路確保・薬剤投与)
174回目	学年末試験①(静脈路確保・薬剤投与)
175回目	学年末試験①(静脈路確保・薬剤投与)
176回目	学年末試験①(静脈路確保・薬剤投与)
177回目	学年末試験①(静脈路確保・薬剤投与)
178回目	学年末試験①(静脈路確保・薬剤投与)
179回目	学年末試験①(静脈路確保・薬剤投与)
180回目	学年末試験①(静脈路確保・薬剤投与)

準備学習:1年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。
 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。
 個人練習できる手技については復習すること。

評価方法
 出席状況及び授業態度、定期実技試験で総合評価を行う。
 ●出席率(67%以上)
 ●授業態度
 ●定期実技試験

受講生へのメッセージ
 救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。2年次は主に救急救命処置を活用した隊活動になります。一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック (へるす出版)

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅲ(総合手技) Emergency Care Practical Training(Comprehensive Skills)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	岡(濱崎)
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	225時間 5単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期・後期
						曜日・時限	火曜

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。
 本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

実務経験 ※岡 優作 福岡市消防局に10年間勤務(警防隊4年・救急隊6年のうち救命士として4年間勤務)
 その他公立中学校に3年半(国語教員)、公立小学校に1年半勤務

【到達目標】
 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①
 目標②
 目標③

授業計画・内容	
1回目	(オリエンテーション) 3年次の到達目標を周知し、実習規則を説明し、卒業実技試験の救急隊の隊編成を行う。
2回目	(オリエンテーション) 4年次の到達目標を周知し、実習規則を説明し、卒業実技試験の救急隊の隊編成を行う。
3回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブを使用し、実施できる)
4回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブを使用し、実施できる)
5回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブを使用し、実施できる)
6回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブを使用し、実施できる)
7回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブを使用し、実施できる)
8回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブを使用し、実施できる)
9回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブを使用し、実施できる)
10回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブを使用し、実施できる)
11回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブを使用し、実施できる)
12回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブを使用し、実施できる)
13回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
14回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
15回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
準備学習 時間外学習	準備学習:1.2年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、卒業認定実技試験で外部評価者から総合評価 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●卒業認定実技試験(ラリー形式)
受講生への メッセージ	3年間の集大成を発揮する為に最後まで努力しましょう。救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1.2年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。そして一人でも多くの傷病者、患者を救える救命士を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック (へるす出版)	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅲ(総合手技)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	岡(濱崎)
	Emergency Care Practical Training(Comprehensive Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	225時間 5単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期・後期
						曜日・時限	火曜
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。</p> <p>実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。</p>							
<p>※実務者経験:</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①</p> <p>目標②</p> <p>目標③</p>							

授業計画・内容	
16回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
17回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
18回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
19回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
20回目	(心肺停止状態の患者を想定した活動) 救急隊として心肺停止状態患者の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
21回目	(胸痛患者を想定した活動) 救急隊として胸痛を訴える患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
22回目	(胸痛患者を想定した活動) 救急隊として胸痛を訴える患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
23回目	(胸痛患者を想定した活動) 救急隊として胸痛を訴える患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
24回目	(胸痛患者を想定した活動) 救急隊として胸痛を訴える患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
25回目	(胸痛患者を想定した活動) 救急隊として胸痛を訴える患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
26回目	(胸痛患者を想定した活動) 救急隊として胸痛を訴える患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
27回目	(胸痛患者を想定した活動) 救急隊として胸痛を訴える患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
28回目	(胸痛患者を想定した活動) 救急隊として胸痛を訴える患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
29回目	(胸痛患者を想定した活動) 救急隊として胸痛を訴える患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
30回目	(胸痛患者を想定した活動) 救急隊として胸痛を訴える患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
準備学習 時間外学習	<p>準備学習:12年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。</p> <p>時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。個人練習できる手技については復習すること。</p>
評価方法	<p>出席状況及び授業態度、卒業認定実技試験で外部評価者から総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●卒業認定実技試験(ラリー形式)
受講生への メッセージ	<p>3年間の集大成を発揮する為に最後まで努力しましょう。救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。12年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。そして一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。</p>
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック(へるす出版)</p>	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅲ(総合手技)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員 実務経験	岡(濱崎)
	Emergency Care Practical Training(Comprehensive Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	225時間 5単位	開講区分	○ 前期・後期
コース						曜日・時限	火曜

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】

実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。

<具体的な目標>

- 目標①
- 目標②
- 目標③

授業計画・内容

31回目	(胸痛患者を想定した活動) 救急隊として胸痛を訴える患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
32回目	(胸痛患者を想定した活動) 救急隊として胸痛を訴える患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動を使用し、実施できる)
33回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管を使用し、実施できる)
34回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管を使用し、実施できる)
35回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管を使用し、実施できる)
36回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管を使用し、実施できる)
37回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管を使用し、実施できる)
38回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管を使用し、実施できる)
39回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管を使用し、実施できる)
40回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管を使用し、実施できる)
41回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管を使用し、実施できる)
42回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管を使用し、実施できる)
43回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管を使用し、実施できる)
44回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管を使用し、実施できる)
45回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管・静脈確保を使用し、実施できる)
準備学習 時間外学習	準備学習:1,2年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、卒業認定実技試験で外部評価者から総合評価 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●卒業認定実技試験(ラリー形式)
受講生への メッセージ	3年間の集大成を発揮する為に最後まで努力しましょう。救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1,2年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。そして一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック(へるす出版)

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅲ(総合手技)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	岡(濱崎)
	Emergency Care Practical Training(Comprehensive Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	225時間 5単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期・後期
						曜日・時限	火曜

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。

実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】

実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。

<具体的な目標>

目標①

目標②

目標③

授業計画・内容

46回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管・静脈路確保を使用し、実施できる)
47回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管・静脈路確保を使用し、実施できる)
48回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管・静脈路確保を使用し、実施できる)
49回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管・静脈路確保を使用し、実施できる)
50回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管・静脈路確保を使用し、実施できる)
51回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管・静脈路確保を使用し、実施できる)
52回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管・静脈路確保を使用し、実施できる)
53回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管・静脈路確保を使用し、実施できる)
54回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管・静脈路確保を使用し、実施できる)
55回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管・静脈路確保を使用し、実施できる)
56回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・気管挿管・静脈路確保を使用し、実施できる)
57回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコールが実施できる)
58回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコールが実施できる)
59回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコールが実施できる)
60回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコールが実施できる)
準備学習 時間外学習	準備学習:1.2年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、卒業認定実技試験で外部評価者から総合評価 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●卒業認定実技試験(ラリー形式)
受講生への メッセージ	3年間の集大成を發揮する為に最後まで努力しましょう。救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1.2年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。そして一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック(へるす出版)

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅲ(総合手技)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員 実務経験	岡(濱崎)
	Emergency Care Practical Training(Comprehensive Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	225時間 5単位	開講区分 曜日・時限	○ 前期・後期 火曜
コース							

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。
 実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。
 本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】
 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①
 目標②
 目標③

授業計画・内容	
61回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコルが実施できる)
62回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコルが実施できる)
63回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコルが実施できる)
64回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコルが実施できる)
65回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコルが実施できる)
66回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコルが実施できる)
67回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコルが実施できる)
68回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコルが実施できる)
69回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコル・静脈路確保が実施できる)
70回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコル・静脈路確保が実施できる)
71回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコル・静脈路確保が実施できる)
72回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコル・静脈路確保が実施できる)
73回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコル・静脈路確保が実施できる)
74回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコル・静脈路確保が実施できる)
75回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコル・静脈路確保が実施できる)
準備学習 時間外学習	準備学習:1.2年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、卒業認定実技試験で外部評価者から総合評価 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●卒業認定実技試験(ラリー形式)
受講生への メッセージ	3年間の集大成を発揮する為に最後まで努力しましょう。救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1.2年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。そして一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック(へるす出版)	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅲ(総合手技)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	岡(濱崎)
	Emergency Care Practical Training (Comprehensive Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	225時間 5単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期・後期
						曜日・時限	火曜

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】

実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。

<具体的な目標>

目標①

目標②

目標③

授業計画・内容

76回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・静脈路確保が実施できる)
77回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・静脈路確保が実施できる)
78回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・静脈路確保が実施できる)
79回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・静脈路確保が実施できる)
80回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・静脈路確保が実施できる)
81回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・静脈路確保・薬剤投与を使用し、実施できる)
82回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・静脈路確保・薬剤投与を使用し、実施できる)
83回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・静脈路確保・薬剤投与を使用し、実施できる)
84回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・静脈路確保・薬剤投与を使用し、実施できる)
85回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・静脈路確保・薬剤投与を使用し、実施できる)
86回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・静脈路確保・薬剤投与を使用し、実施できる)
87回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・静脈路確保・薬剤投与を使用し、実施できる)
88回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・静脈路確保・薬剤投与を使用し、実施できる)
89回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・静脈路確保・薬剤投与を使用し、実施できる)
90回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・静脈路確保・薬剤投与を使用し、実施できる)
準備学習 時間外学習	準備学習:1.2年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、卒業認定実技試験で外部評価者から総合評価 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●卒業認定実技試験(ラリー形式)
受講生への メッセージ	3年間の集大成を発揮する為に最後まで努力しましょう。救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1.2年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。そして一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック(へるす出版)

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅲ(総合手技)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	岡(濱崎)
	Emergency Care Practical Training(Comprehensive Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	225時間 5単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期・後期
						曜日・時限	火曜

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解することが必要となります。また、救急救命処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。

本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】

実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。

<具体的な目標>

目標①

目標②

目標③

授業計画・内容

91回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・静脈路確保・薬剤投与を使用し、実施できる)
92回目	(総合) 救急隊として想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(ラリングアルチューブ・除細動・静脈路確保・薬剤投与を使用し、実施できる)
93回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・除細動・ラリングアルチューブ・静脈路確保が実施できる)
94回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・除細動・ラリングアルチューブ・静脈路確保が実施できる)
95回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・除細動・ラリングアルチューブ・静脈路確保が実施できる)
96回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・除細動・ラリングアルチューブ・静脈路確保が実施できる)
97回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・除細動・ラリングアルチューブ・静脈路確保が実施できる)
98回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・除細動・ラリングアルチューブ・静脈路確保が実施できる)
99回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・除細動・ラリングアルチューブ・静脈路確保が実施できる)
100回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・除細動・ラリングアルチューブ・静脈路確保が実施できる)
101回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・除細動・ラリングアルチューブ・静脈路確保が実施できる)
102回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・除細動・ラリングアルチューブ・静脈路確保が実施できる)
103回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・除細動・ラリングアルチューブ・静脈路確保が実施できる)
104回目	(外傷) 救急隊として外傷想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(JPTECプロトコール・除細動・ラリングアルチューブ・静脈路確保が実施できる)
105回目	(総合) 救急隊として内因・外傷想定内容に応じた患者(生体~人形)の救急活動を行う。(各プロトコールが実施できる)
準備学習 時間外学習	準備学習:1.2年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、卒業認定実技試験で外部評価者から総合評価 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●卒業認定実技試験(ラリー形式)
受講生への メッセージ	3年間の集大成を發揮する為に最後まで努力しましょう。救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1.2年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。そして一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック(へるす出版)

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅲ(総合手技)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	岡(濱崎)
	Emergency Care Practical Training(Comprehensive Skills)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	225時間 5単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期・後期
						曜日・時限	火曜

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 消防官及び救急救命士として現場で活動する内容を理解し把握することが重要です。実際の救急活動で必要となる状況評価(発症機序)や傷病者(患者)の状態、情報、適切な対応、処置、適切な医療機関選定等を理解する必要があります。また、救急救命処置の精度を高め、傷病者(患者)の対応力を身につけなければなりません。実際の救急現場を想定した活動を模擬救急隊として訓練し、実施した活動をフィードバックし、隊としてそれぞれの役割を理解し、情報を共有していきます。
 本授業修了時には実際の救急現場を想定した活動を救急救命士として実施できるようになる。

※実務者経験:

【到達目標】
 実習室内外におけるシミュレーション実習により、即戦力となる知識・技術を身に付け、実際の救急現場での対応が出来るようになる。
 <具体的な目標>
 目標①
 目標②
 目標③

授業計画・内容	
106回目	(総合) 救急隊として内因・外傷想定内容に応じた患者(生体～人形)の救急活動を行う。(各プロトコルが実施できる)
107回目	(総合) 救急隊として内因・外傷想定内容に応じた患者(生体～人形)の救急活動を行う。(各プロトコルが実施できる)
108回目	(総合) 救急隊として内因・外傷想定内容に応じた患者(生体～人形)の救急活動を行う。(各プロトコルが実施できる)
109回目	卒業認定実技試験及び徽章授与式
110回目	卒業認定実技試験及び徽章授与式
111回目	卒業認定実技試験及び徽章授与式
112回目	卒業認定実技試験及び徽章授与式
113回目	卒業認定実技試験及び徽章授与式
準備学習 時間外学習	準備学習:1.2年次で習った手技を復習すること。また、隊で情報を共有し連携を高める。 時間外学習:隊活動の練習を反復して練習する。隊活動の練習については基本想定を実施し、フィードバックまで行うこと。 個人練習できる手技については復習すること。
評価方法	出席状況及び授業態度、卒業認定実技試験で外部評価者から総合評価 ●出席率(67%以上) ●授業態度 ●卒業認定実技試験(ラリー形式)
受講生への メッセージ	3年間の集大成を発揮する為に最後まで努力しましょう。救急現場で実際の傷病者に対して適切な対応や処置が出来るようにならなければなりません。1.2年次で身につけたスキルを再確認し、より正確で確実なスキルになるように頑張りましょう。そして一人でも多くの傷病者、患者を救える救急救命士を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
救急救命士標準テキスト、JPTECガイドブック(へるす出版)	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅳ (病院内実習)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	医療機関担当者(指導医)
	Emergency Care Practical Training(Hospital Clinical Placement)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	180 4単位	実務経験	
コース						開講区分	後期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>病院内実習で実際の患者様に対しての対応や接遇が必要です。また、バイタル測定についても実際の数値が患者様の状態を左右します。救急対応では迅速かつ的確な対応をしなければなりません。病院内実習で実際の患者様を対応し、バイタル測定や観察をすることで臨床的な経験や学内で経験できないものを得ることができます。実際の現場を経験する機会として、学内での実技スキルを実践できる場として積極的に行うことで、救急救命士として必要な知識やスキルを身につけることができる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>実際の医療現場を通じて実践的な知識・技術・接遇を学ぶことにより、救急医療機関に救急救命士として対応することができるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	臨牀実習要綱に基づき、医療機関担当者(指導医)に一任したもの
2回目	
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	
評価方法	
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅳ (病院内実習)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	医療機関担当者(指導医)
	Emergency Care Practical Training(Hospital Clinical Placement)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	180 4単位	実務経験	
コース						開講区分	後期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>病院内実習で実際の患者様に対するの対応や接遇が必要です。また、バイタル測定についても実際の数値が患者様の状態を左右します。救急対応では迅速かつ的確な対応をしなければなりません。病院内実習で実際の患者様を対応し、バイタル測定や観察をすることで臨床的な経験や学内で経験できないものを得ることが出来ます。実際の現場を経験する機会として、学内での実技スキルを実践できる場として積極的に行うことで、救急救命士として必要な知識やスキルを身につけることができる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>実際の医療現場を通じて実践的な知識・技術・接遇を学ぶことにより、救急医療機関に救急救命士として対応することができるようになる。</p>							

授業計画・内容	
16回目	
17回目	
18回目	
19回目	
20回目	
21回目	
22回目	
23回目	
24回目	
25回目	
26回目	
27回目	
28回目	
29回目	
30回目	
準備学習 時間外学習	
評価方法	
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅳ (病院内実習)	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	医療機関担当者(指導医)
	Emergency Care Practical Training(Hospital Clinical Placement)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	180 4単位	実務経験	
コース						開講区分	後期
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>病院内実習で実際の患者様に対するの対応や接遇が必要です。また、バイタル測定についても実際の数値が患者様の状態を左右します。救急対応では迅速かつ的確な対応をしなければなりません。病院内実習で実際の患者様を対応し、バイタル測定や観察をすることで臨床的な経験や学内で経験できないものを得ることが出来ます。実際の現場を経験する機会として、学内での実技スキルを実践できる場として積極的に行うことで、救急救命士として必要な知識やスキルを身につけることができる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>実際の医療現場を通じて実践的な知識・技術・接遇を学ぶことにより、救急医療機関に救急救命士として対応することができるようになる。</p>							

授業計画・内容	
31回目	
32回目	
33回目	
34回目	
35回目	
36回目	
37回目	
38回目	
39回目	
40回目	
41回目	
42回目	
43回目	
44回目	
45回目	
準備学習 時間外学習	
評価方法	
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅳ (病院内実習) <small>Emergency Care Practical Training(Hospital Clinical Placement)</small>	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員 実務経験	医療機関担当者(指導医)
コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	180 4単位	開講区分 曜日・時限	前期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>病院内実習で実際の患者様に対する対応や接遇が必要です。また、バイタル測定についても実際の数値が患者様の状態を左右します。救急対応では迅速かつ確かな対応をしなければなりません。病院内実習で実際の患者様に対応し、バイタル測定や観察をすることで臨床的な経験や学内で経験できないものを得ることができます。実際の現場を経験する機会として、学内での実技スキルを実践できる場として積極的に行うことで、救急救命士として必要な知識やスキルを身につけることができる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>実際の医療現場を通じて実践的な知識・技術・接遇を学ぶことにより、救急医療機関に救急救命士として対応することができるようになる。</p>							

授業計画・内容	
46回目	
47回目	
48回目	
49回目	
50回目	
51回目	
52回目	
53回目	
54回目	
55回目	
56回目	
57回目	
58回目	
59回目	
60回目	
準備学習 時間外学習	
評価方法	
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅳ (病院内実習)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員 実務経験	医療機関担当者(指導医)
	Emergency Care Practical Training(Hospital Clinical Placement)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	180 4単位	開講区分 曜日・時限	前期
コース							

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 病院内実習で実際の患者様に対するの対応や接遇が必要です。また、バイタル測定についても実際の数値が患者様の状態を左右します。救急対応では迅速かつ的確な対応をしなければなりません。病院内実習で実際の患者様を対応し、バイタル測定や観察をすることで臨床的な経験や学内で経験できないものを得ることが出来ます。実際の現場を経験する機会として、学内での実技スキルを実践できる場として積極的に行うことで、救急救命士として必要な知識やスキルを身につけることができる。

【到達目標】
 実際の医療現場を通じて実践的な知識・技術・接遇を学ぶことにより、救急医療機関に救急救命士として対応することができるようになる。

授業計画・内容

61回目	
62回目	
63回目	
64回目	
65回目	
66回目	
67回目	
68回目	
69回目	
70回目	
71回目	
72回目	
73回目	
74回目	
75回目	

準備学習
時間外学習

評価方法

受講生への
メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	救急処置実習Ⅳ (病院内実習)	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員 実務経験	医療機関担当者(指導医)
	Emergency Care Practical Training(Hospital Clinical Placement)	授業 形態	実習	総時間 (単位)	180 4単位	開講区分 曜日・時限	前期
コース							

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 病院内実習で実際の患者様に対する対応や接遇が必要です。また、バイタル測定についても実際の数値が患者様の状態を左右します。救急対応では迅速かつ的確な対応をしなければなりません。病院内実習で実際の患者様に対応し、バイタル測定や観察をすることで臨床的な経験や学内で経験できないものを得ることができます。実際の現場を経験する機会として、学内での実技スキルを実践できる場として積極的に行うことで、救急救命士として必要な知識やスキルを身につけることができる。

【到達目標】
 実際の医療現場を通じて実践的な知識・技術・接遇を学ぶことにより、救急医療機関に救急救命士として対応することができるようになる。

授業計画・内容	
76回目	
77回目	
78回目	
79回目	
80回目	
81回目	
82回目	
83回目	
84回目	
85回目	
86回目	
87回目	
88回目	
89回目	
90回目	
準備学習 時間外学習	
評価方法	
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	総合救急医療 Comprehensive Emergency Medicine	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員 実務経験	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	150時間 (10単位)	開講区分 曜日・時限	後期 水・木・金
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 救急救命士国家試験を合格するためには、専門的な医学基礎知識の知識が不可欠となります。また、病院前医療体制や救急救命処置概論、救急病態生理、救急症候、疾病救急医学、外傷救急医学、急性中毒・環境障害の救急救命士として必要な総合的知識が必要となります。 救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。 本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。 ※実務者経験:							
【到達目標】 救急救命士国家試験に必要な知識を総合的に学び、救急救命士国家試験に必要な合格基準を突破できるようになる。 <具体的な目標> 目標①人体の構造と機能が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。 目標②疾患の成り立ちと回復の過程が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。 目標③薬物と検査の基礎知識が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。 目標④病院前医療概論が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。 目標⑤救急救命処置概論が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。							
授業計画・内容							
1回目	(目標①) 人体を構成する要素が説明できる。国家試験問題が解けるようになる。【人体の作りとその役割・体液】						
2回目	(目標①) 体表からみる人体の構造が説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【人体の位置、方向、運動に関する用語・体表からみた構造と名称・体表から見える解剖学的指標・体腔内臓器の体表からの位置関係】						
3回目	(目標①) 神経系の解剖について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【神経系の構成と役割・中枢神経系・末梢神経系・伝導路・自律神経系・脳循環・意識・反射】						
4回目	(目標①) 感覚系の解剖について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【感覚系の構成と役割・視覚・平衡感覚、聴覚器・嗅覚器・味覚器・皮膚感覚器】						
5回目	(目標①) 呼吸系の解剖について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【呼吸系の構成と役割・呼吸・気道・胸郭・肺・肺胞でのガス交換・体内での酸素の働き・呼吸の調整】						
6回目	(目標①) 循環系の解剖について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【循環系の構成と役割・心臓・脈管・循環の制御】						
7回目	(目標①) 消化系の解剖について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【消化器・口腔、咽頭・消化管・肝臓、胆道系・膵臓・腹膜、腹腔】						
8回目	(目標①) 泌尿系の解剖について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【泌尿系の構成・腎臓・尿路】						
9回目	(目標①) 生殖系の解剖について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【生殖系の構成と役割・男性生殖器・女性生殖器】						
10回目	(目標①) 内分泌系の解剖について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【内分泌・内分泌器官】						
11回目	(目標①) 血液・免疫系の解剖について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【血液・血球・血漿・骨髄の構成と機能・脾臓・止血と凝固・免疫】						
12回目	(目標①) 筋・骨格系、皮膚系の解剖について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【筋、骨格・筋肉・骨、関節・靭帯、腱・脊柱の構造・皮膚の構造・皮膚の役割・乳房】						
13回目	(目標①) 生命の維持について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【栄養と代謝・外呼吸・循環(酸素運搬と臓器血流)・組織酸素代謝・内部環境】						
14回目	(目標②) 疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【疾患の原因・発症と経過・回復に必要な要素・疾患の予防】						
15回目	(目標②) 炎症と感染、循環障害について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【炎症・感染症・虚血・うっ血・出血・血栓と塞栓・梗塞・浮腫】						
準備学習 時間外学習	1・2年次で学んだ専門科目を再度復習すること。暗記するのではなく理解する。振り返りや見直しを行う。また、時間外に自己学習をすることを心がける。また、教科書やノート、プリントを使った勉強だけでなく、救急救命士模擬試験や過去問を繰り返し解くことで問題の傾向や出題方法、勉強する内容を抽出する。 ●復習・振り返り ●時間外自己学習・見直し ●救急救命士国家試験模擬試験・過去問を解く・やり直し						
評価方法	救急救命士国家試験模擬試験を3回実施し、(再試験・再々試験含め5回)救急救命士国家試験合格基準を用いて判定試験を行う。 (模擬試験についてはJESCC統一模擬試験・JESA統一模擬試験・ELSTA模擬試験を使用する) ●出席率(67%)以上出席 ●救急救命士国家試験合格基準 上記にて単位認定及び成績評価判定を行う。						
受講生への メッセージ	救急救命士国家試験は合格基準に到達すれば合格となります。なので目標が提示されている状況なので努力し継続すれば達成できます。また、救急救命士国家試験模擬試験や過去問を繰り返し解くことで、問題の傾向や出題方法、自分の苦手な分野や項目が判断できると思います。さらに問題によって正答率が高い問題と低い問題に別れます。高い問題は受験者にとって解きやすい問題となるため、間違えないようにしなければなりません。低い正答率の問題はしっかりと勉強出来た人が解ける問題となります。確実に取れる問題を間違えないようにすることも大事です。3年間の集大成として救急救命士国家試験を合格できるように最後まで諦めずに一緒に頑張りましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
改訂第10版 救急救命士標準テキスト							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	総合救急医療 Comprehensive Emergency Medicine	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員 実務経験	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	150時間 (10単位)	開講区分 曜日・時限	後期 水・木・金
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命士国家試験を合格するためには、専門的な医学基礎知識の知識が不可欠となります。また、病院前医療体制や救急救命処置概論、救急病態生理、救急症候、疾病救急医学、外傷救急医学、急性中毒・環境障害の救急救命士として必要な総合的知識が必要となります。</p> <p>救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。</p> <p>本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p> <p>※実務者経験:</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>救急救命士国家試験に必要な知識を総合的に学び、救急救命士国家試験に必要な合格基準を突破できるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①人体の構造と機能が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p> <p>目標②疾患の成り立ちと回復の過程が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p> <p>目標③薬物と検査の基礎知識が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p> <p>目標④病院前医療概論が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p> <p>目標⑤救急救命処置概論が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p>							
<p>授業計画・内容</p>							
16回目	<p>(目標②) 代謝障害について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【糖質の代謝障害・脂質の代謝障害・蛋白質の代謝障害・ビタミンの異常・体液と電解質異常・酸塩基平衡異常・内分泌異常】</p>						
17回目	<p>(目標②) 退行性病変と進行性病変、腫瘍について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【退行性病変・進行性病変・腫瘍とは・良性腫瘍・悪性腫瘍】</p>						
18回目	<p>(目標②) 先天異常、損傷、死について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【内因性先天異常・外因性先天異常・損傷・創傷治癒・死の概念・死体現象・死にかかわる手続きと検査・死体の尊厳】</p>						
19回目	<p>(目標③) 医薬品の基礎、重要な医薬品について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【薬物総論・薬物の有害作用・救急救命処置に用いられる薬剤・使用頻度の高い薬・輸液、輸血製剤・保存と保守管理】</p>						
20回目	<p>(目標③) 医薬品の基礎、重要な医薬品について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【薬物総論・薬物の有害作用・救急救命処置に用いられる薬剤・使用頻度の高い薬・輸液、輸血製剤・保存と保守管理】</p>						
21回目	<p>(目標③) 検査について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【検査の目的・基準値、カットオフ値、パニック値・検査の種類・緊急検査】</p>						
22回目	<p>(目標④) 救急医療体制、災害医療体制について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【病院前医療・救急医療システム・救急医療情報・災害の概念・多数傷病者対応・トリアージ・大規模災害・特殊災害(CBRNE)】</p>						
23回目	<p>(目標④) 救急医療体制、災害医療体制について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【病院前医療・救急医療システム・救急医療情報・災害の概念・多数傷病者対応・トリアージ・大規模災害・特殊災害(CBRNE)】</p>						
24回目	<p>(目標④) 病院前医療体制について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【救命の連鎖・市民による一次救命処置・市民教育・メディカルコントロール】</p>						
25回目	<p>(目標④) 消防機関における救急活動の流れ、救急救命士の役割と責任について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【119番受信と通信体制・出動・現場活動・医療機関選定と搬送・通信体制・救急活動の記録・他の関係機関との連携・病院前救護において果たすべき役割・医療関係職種としての責任】</p>						
26回目	<p>(目標④) 救急救命士と傷病者の関係、救急救命士に関する法令について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【遭遇とコミュニケーションの種類・対象に応じたコミュニケーション・救急活動でのインフォームドコンセント・法令の基本・救急救命士法・医師法・保健師助産師看護師法・消防法・医療法・その他の法令】</p>						
27回目	<p>(目標④) 安全管理と事故対応について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【安全管理・リスクマネジメント・傷病者の事故・救急救命士等の事故・医療事故と医療過誤・救急活動における事故の報告と対応】</p>						
28回目	<p>(目標④) 感染対策について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【感染予防策と感染防御・救急活動での感染防御・洗浄と消毒・感染事故と事故後の対応】</p>						
29回目	<p>(目標④) ストレスに対するマネジメントについて説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【救急活動でのストレス・救急活動でのストレスへの対応】</p>						
30回目	<p>(目標⑤) 観察、現場活動の基本について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【観察の目的と意義・バイタルサイン・観察の方法・状況評価・初期評価・全身観察と重点観察・緊急度、重症度判断と医療機関選定・搬送と車内活動】</p>						
準備学習 時間外学習	<p>1・2年次で学んだ専門科目を再度復習すること。暗記するのではなく理解する。振り返りや見直しを行う。また、時間外に自己学習をすることを心がける。また、教科書やノート、プリントを使った勉強だけでなく、救急救命士模擬試験や過去問を繰り返し解くことで問題の傾向や出題方法、勉強する内容を抽出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●復習・振り返り ●時間外自己学習・見直し ●救急救命士国家試験模擬試験・過去問を解く・やり直し 						
評価方法	<p>救急救命士国家試験模擬試験を3回実施し、(再試験・再々試験含め5回)救急救命士国家試験合格基準を用いて判定試験を行う。 (模擬試験についてはJESC統一模擬試験・JESA統一模擬試験・ELSTA模擬試験を使用する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率(67%)以上出席 ●救急救命士国家試験合格基準 <p>上記にて単位認定及び成績評価判定を行う。</p>						
受講生への メッセージ	<p>救急救命士国家試験は合格基準に到達すれば合格となります。なので目標が提示されている状況なので努力し継続すれば達成できます。また、救急救命士国家試験模擬試験や過去問を繰り返し解くことで、問題の傾向や出題方法、自分の苦手な分野や項目が判断できると思います。さらに問題によって正答率が高い問題と低い問題に別れます。高い問題は受験者にとって解きやすい問題となるため、間違えないようにしなければなりません。低い正答率の問題はしっかりと勉強出来た人が解ける問題となります。確実に取れる問題を間違えないようにすることも大事です。3年間の集大成として救急救命士国家試験を合格できるように最後まで諦めずに一緒に頑張りましょう。</p>						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	総合救急医療 Comprehensive Emergency Medicine	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員 実務経験	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	150時間 (10単位)	開講区分 曜日・時限	後期 水・木・金
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命士国家試験を合格するためには、専門的な医学基礎知識の知識が不可欠となります。また、病院前医療体制や救急救命処置概論、救急病態生理、救急症候、疾病救急医学、外傷救急医学、急性中毒・環境障害の救急救命士として必要な総合的知識が必要となります。</p> <p>救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。</p> <p>本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p> <p>※実務者経験:</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>救急救命士国家試験に必要な知識を総合的に学び、救急救命士国家試験に必要な合格基準を突破できるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標③薬物と検査の基礎知識が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p> <p>目標④病院前医療概論が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p> <p>目標⑤救急救命処置概論が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p> <p>目標⑥救急病態生理学が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p> <p>目標⑦救急症候学が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p>							
授業計画・内容							
31回目	(目標⑤) 全身状態の観察について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【外見の観察・気道に関する観察・呼吸に関する観察・循環に関する観察・神経に関する観察】						
32回目	(目標⑤) 局所の観察について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【皮膚・頭部、顔面、頸部・胸部・腹部・鼠径部、会陰部・骨盤・四肢・手指、足趾、爪】						
33回目	(目標⑤) 緊急度・重症度判断、資器材による観察について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【緊急度と重症度・判断の基準・パルスオキシメータ・カプノメータ・聴診器・血圧計・心電図モニター・体温計・血糖測定器】						
34回目	(目標⑤) 緊急度・重症度判断、資器材による観察について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【緊急度と重症度・判断の基準・パルスオキシメータ・カプノメータ・聴診器・血圧計・心電図モニター・体温計・血糖測定器】						
35回目	(目標⑤) 救急救命士が行う処置について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【気道確保・気道異物除去・口腔内の吸引・声門上気道デバイスを用いた気道確保・気管挿管・気管吸引・酸素投与・人工呼吸・胸骨圧迫・除細動・静脈路確保と輸液、アドレナリン投与・自己注射用アドレナリンの投与ブドウ糖投与・体位管理・体温管理・止血・創傷処置・固定・産婦人科領域の処置】						
36回目	(目標⑤) 救急救命士が行う処置について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【気道確保・気道異物除去・口腔内の吸引・声門上気道デバイスを用いた気道確保・気管挿管・気管吸引・酸素投与・人工呼吸・胸骨圧迫・除細動・静脈路確保と輸液、アドレナリン投与・自己注射用アドレナリンの投与ブドウ糖投与・体位管理・体温管理・止血・創傷処置・固定・産婦人科領域の処置】						
37回目	(目標⑤) 救急蘇生法について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【成人の救急蘇生法・小児の救急蘇生法・乳児の救急蘇生法】						
38回目	(目標⑤) 在宅療養継続中の傷病者の処置、傷病者搬送について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【在宅療養とは・在宅療養への対応・搬送総論・搬送方法・搬送手順・ヘリコプターへの搬入と搬出・事故車両からの救出方法】						
39回目	(目標⑥) 呼吸不全について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・呼吸運動の障害・気道の障害・肺胞の障害・肺間質の障害】						
40回目	(目標⑥) 心不全について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・病態生理・症候・種類・慢性心不全の急性増悪・現場活動】						
41回目	(目標⑥) ショックについて説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・循環血液量減少性ショック・心原性ショック・心外閉塞・拘束性ショック・血液分布異常性ショック】						
42回目	(目標⑥) 重症脳障害について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・発症機序・一次性脳病変と二次性脳病変・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・特殊な意識障害】						
43回目	(目標⑥) 心肺停止について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・心肺停止に至る病態と原因・心電図分類・心肺蘇生中の循環・心拍再開後の病態】						
44回目	(目標⑦) 意識障害、頭痛について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【原因・随伴症候・判別を要する病態・現場活動・発症機序・分類・原因疾患・発症の状況・性状・随伴症状・緊急度・重症度の判別・現場活動】						
45回目	(目標⑦) 痙攣について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【定義・概念・病態・種類・原因疾患・随伴症候・判別を要する病態・緊急度・重症度の判断・現場活動】						
準備学習 時間外学習	<p>1・2年次で学んだ専門科目を再度復習すること。暗記するのではなく理解する。振り返りや見直しを行う。また、時間外に自己学習をすることを心がける。また、教科書やノート、プリントを使った勉強だけでなく、救急救命士模擬試験や過去問を繰り返し解くことで問題の傾向や出題方法、勉強する内容を抽出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●復習・振り返り ●時間外自己学習・見直し ●救急救命士国家試験模擬試験・過去問を解く・やり直し 						
評価方法	<p>救急救命士国家試験模擬試験を3回実施し、(再試験・再々試験含め5回)救急救命士国家試験合格基準を用いて判定試験を行う。 (模擬試験についてはJESC統一模擬試験・JESA統一模擬試験・ELSTA模擬試験を使用する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率(67%)以上出席 ●救急救命士国家試験合格基準 <p>上記にて単位認定及び成績評価判定を行う。</p>						
受講生への メッセージ	<p>救急救命士国家試験は合格基準に到達すれば合格となります。なので目標が提示されている状況なので努力し継続すれば達成できます。また、救急救命士国家試験模擬試験や過去問を繰り返し解くことで、問題の傾向や出題方法、自分の苦手な分野や項目が判断できると思います。さらに問題によって正答率が高い問題と低い問題に別れます。高い問題は受験者にとって解きやすい問題となるため、間違えないようにしなければなりません。低い正答率の問題はしっかりと勉強出来た人が解ける問題となります。確実に取れる問題を間違えないようにすることも大事です。3年間の集大成として救急救命士国家試験を合格できるように最後まで諦めずに一緒に頑張りましょう。</p>						
【使用教科書・教材・参考書】							
改訂第10版 救急救命士標準テキスト							

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	総合救急医療 Comprehensive Emergency Medicine	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	150時間 (10単位)	実務経験	後期
コース						開講区分	水・木・金
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
救急救命士国家試験を合格するためには、専門的な医学基礎知識の知識が不可欠となります。また、病院前医療体制や救急救命処置概論、救急病態生理、救急症候、疾病救急医学、外傷救急医学、急性中毒・環境障害の救急救命士として必要な総合的知識が必要となります。救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。 ※実務者経験:							
【到達目標】 救急救命士国家試験に必要な知識を総合的に学び、救急救命士国家試験に必要な合格基準を突破できるようになる。 <具体的な目標> 目標④病院前医療概論が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。 目標⑤救急救命処置概論が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。 目標⑥救急病態生理学が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。 目標⑦救急症候学が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。 目標⑧疾病救急医学が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。							
授業計画・内容							
46回目	(目標⑦) 運動麻痺、めまいについて説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【定義・概念・発症機序・分類・原因疾患・随伴症候・判別を要する病態・緊急度・重症度の判断・現場活動・定義・概念・発症機序・分類・原因疾患・随伴症候・緊急度・重症度の判断・現場活動】						
47回目	(目標⑦) 呼吸困難、喀血について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【定義・概念・分類・原因疾患・随伴症候・緊急度・重症度の判断・現場活動・定義・分類・喀血による影響・原因疾患・判別を要する病態・緊急度・重症度の判別現場活動】						
48回目	(目標⑦) 失神、胸痛について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【定義・概念・原因疾患・判別を要する病態・緊急度・重症度の判断・現場活動・定義・概念・発症機序・原因疾患・緊急度・重症度の判断・現場活動】						
49回目	(目標⑦) 動悸、腹痛について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【定義・概念・発症機序・原因疾患・随伴症候・緊急度・重症度の判断・現場活動・発症機序・原因疾患・部位・既往歴・随伴症候・緊急度・重症度の判断・現場活動】						
50回目	(目標⑦) 吐血・下血、腰痛、背部痛について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【定義・概念・原因疾患・病態・判別に必要な病態・緊急度・重症度の判断・現場活動・定義・概念・原因疾患・緊急度・重症度の判断・現場活動】						
51回目	(目標⑦) 体温上昇について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【定義・概念・発症機序・病態・発熱の分類と種類・原因疾患・緊急度・重症度の判断・現場活動】						
52回目	(目標⑧) 神経系疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・脳血管障害・中枢神経系の感染症・末梢神経疾患・その他の中枢神経疾患】						
53回目	(目標⑧) 神経系疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・脳血管障害・中枢神経系の感染症・末梢神経疾患・その他の中枢神経疾患】						
54回目	(目標⑧) 呼吸系疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・呼吸不全・上気道の疾患・下気道と肺胞の疾患・感染症・胸膜疾患・その他の呼吸系疾患】						
55回目	(目標⑧) 呼吸系疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・呼吸不全・上気道の疾患・下気道と肺胞の疾患・感染症・胸膜疾患・その他の呼吸系疾患】						
56回目	(目標⑧) 循環系疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・動脈硬化・うっ血性心不全・虚血性心疾患・心筋疾患・心膜疾患・不整脈・その他の心疾患・血管疾患・高血圧・心電図の解説】						
57回目	(目標⑧) 循環系疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・動脈硬化・うっ血性心不全・虚血性心疾患・心筋疾患・心膜疾患・不整脈・その他の心疾患・血管疾患・高血圧・心電図の解説】						
58回目	(目標⑧) 消化系疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・菌・口腔疾患・食道疾患・胃、十二指腸疾患・腸疾患・肝臓、胆道、膵臓の疾患】						
59回目	(目標⑧) 消化系疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・菌・口腔疾患・食道疾患・胃、十二指腸疾患・腸疾患・肝臓、胆道、膵臓の疾患】						
60回目	(目標⑧) 泌尿・生殖系疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・腎臓の疾患・尿路の疾患・女性生殖器の疾患・男性生殖器の疾患】						
準備学習 時間外学習	1・2年次で学んだ専門科目を再度復習すること。暗記するのではなく理解する。振り返りや見直しを行う。また、時間外に自己学習をすることを心がける。また、教科書やノート、プリントを使った勉強だけでなく、救急救命士模擬試験や過去問を繰り返し解くことで問題の傾向や出題方法、勉強する内容を抽出する。 ●復習・振り返り ●時間外自己学習・見直し ●救急救命士国家試験模擬試験・過去問を解く・やり直し						
評価方法	救急救命士国家試験模擬試験を3回実施し、(再試験・再々試験含め5回)救急救命士国家試験合格基準を用いて判定試験を行う。 (模擬試験についてはJESC統一模擬試験・JESA統一模擬試験・ELSTA模擬試験を使用する) ●出席率(67%)以上出席 ●救急救命士国家試験合格基準 上記にて単位認定及び成績評価判定を行う。						
受講生への メッセージ	救急救命士国家試験は合格基準に到達すれば合格となります。なので目標が提示されている状況なので努力し継続すれば達成できます。また、救急救命士国家試験模擬試験や過去問を繰り返し解くことで、問題の傾向や出題方法、自分の苦手な分野や項目が判断できると思います。さらに問題によって正答率が高い問題と低い問題に別れます。高い問題は受験者にとって解きやすい問題となるため、間違えないようにしなければなりません。低い正答率の問題はしっかりと勉強出来た人が解ける問題となります。確実に取れる問題を間違えないようにすることも大事です。3年間の集大成として救急救命士国家試験を合格できるように最後まで諦めずに一緒に頑張りましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
改訂第10版 救急救命士標準テキスト							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	総合救急医療 Comprehensive Emergency Medicine	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	150時間 (10単位)	実務経験	後期
コース						開講区分	曜日・時限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命士国家試験を合格するためには、専門的な医学基礎知識の知識が不可欠となります。また、病院前医療体制や救急救命処置概論、救急病態生理、救急症候、疾病救急医学、外傷救急医学、急性中毒・環境障害の救急救命士として必要な総合的知識が必要となります。</p> <p>救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。</p> <p>本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p> <p>※実務者経験:</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>救急救命士国家試験に必要な知識を総合的に学び、救急救命士国家試験に必要な合格基準を突破できるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標⑤救急救命処置概論が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p> <p>目標⑥救急病態生理学が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p> <p>目標⑦救急症候学が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p> <p>目標⑧疾病救急医学が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p> <p>目標⑨急性中毒学・環境障害が説明でき、救急救命士国家試験問題が解けるようになる。</p>							
授業計画・内容							
61回目	(目標⑤) 代謝・内分泌・栄養系疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・糖尿病の合併症・その他の代謝異常・内分泌疾患・栄養疾患】						
62回目	(目標⑥) 血液・免疫系、筋・骨格系疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・血液疾患・免疫疾患・総論・脊椎疾患・関節疾患・筋疾患】						
63回目	(目標⑦) 皮膚系、眼・耳・鼻の疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・皮膚、軟部組織の感染症・アレルギー性疾患・総論・眼の疾患・耳の疾患・鼻の疾患】						
64回目	(目標⑧) 感染症の疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・敗血症・結核・インフルエンザ・食中毒・輸入感染症・発疹性感染症・性感染症・その他の感染症】						
65回目	(目標⑨) 小児に特有な疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・観察と判断・主な疾患】						
66回目	(目標⑨) 高齢者に特有な疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・主な疾患】						
67回目	(目標⑨) 妊娠・分娩と救急疾患について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【正常妊娠・異常妊娠・正常分娩・異常分娩・観察と処置】						
68回目	(目標⑨) 精神障害について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【総論・統合失調症・気分障害・器質性精神障害・中毒性障害・その他の精神障害・向精神薬の主な副作用】						
69回目	(目標⑨) 中毒総論について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【中毒とは・中毒物質・病態生理・観察と処置・医療機関での診療・医療機関選定と搬送中の注意・中毒情報】						
70回目	(目標⑨) 中毒各論について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【医薬品中毒・農薬中毒・工業用品中毒・ガス中毒・アルコール中毒・自然毒中毒・家庭用品中毒・乱用薬物】						
71回目	(目標⑨) 中毒各論について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【医薬品中毒・農薬中毒・工業用品中毒・ガス中毒・アルコール中毒・自然毒中毒・家庭用品中毒・乱用薬物】						
72回目	(目標⑨) 異物、溺水について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【気道異物・消化管異物・鼻、耳、眼、性器の異物・病態生理・観察と処置】						
73回目	(目標⑨) 熱中症、偶発性低体温症について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【疫学・病態生理・観察・処置・搬送時の注意・発生機序と病態生理・観察・処置】						
74回目	(目標⑨) 放射線障害について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【放射線の概要・人体の影響・放射線への対応・観察と処置】						
75回目	(目標⑨) その他の環境障害について説明できる。国家試験問題が解けるようになる。 【高山病・減圧障害・酸素欠乏症・凍傷・紫外線による障害】						
準備学習 時間外学習	<p>1・2年次で学んだ専門科目を再度復習すること。暗記するのではなく理解する。振り返りや見直しを行う。また、時間外に自己学習をすることを心がける。また、教科書やノート、プリントを使った勉強だけでなく、救急救命士模擬試験や過去問を繰り返し解くことで問題の傾向や出題方法、勉強する内容を抽出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●復習・振り返り ●時間外自己学習・見直し ●救急救命士国家試験模擬試験・過去問を解く・やり直し 						
評価方法	<p>救急救命士国家試験模擬試験を3回実施し、(再試験・再々試験含め5回)救急救命士国家試験合格基準を用いて判定試験を行う。 (模擬試験についてはJESC統一模擬試験・JESA統一模擬試験・ELSTA模擬試験を使用する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率(67%)以上出席 ●救急救命士国家試験合格基準 <p>上記にて単位認定及び成績評価判定を行う。</p>						
受講生への メッセージ	<p>救急救命士国家試験は合格基準に到達すれば合格となります。なので目標が提示されている状況なので努力し継続すれば達成できます。また、救急救命士国家試験模擬試験や過去問を繰り返し解くことで、問題の傾向や出題方法、自分の苦手な分野や項目が判断できると思います。さらに問題によって正答率が高い問題と低い問題に別れます。高い問題は受験者にとって解きやすい問題となるため、間違えないようにしなければなりません。低い正答率の問題はしっかりと勉強出来た人が解ける問題となります。確実に取れる問題を間違えないようにすることも大事です。3年間の集大成として救急救命士国家試験を合格できるように最後まで諦めずに一緒に頑張りましょう。</p>						
【使用教科書・教材・参考書】							
改訂第10版 救急救命士標準テキスト							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	公務員講座(総合・面接)	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員	東 一也
	Public Servant Lecture (Advanced・Application)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 23単位	実務経験	なし
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	水、土 1.2限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

当科目は公務員試験の中で主要な暗記科目であり、また出題問題数も多い科目のため、苦手科目にはできません。2年次までに人文科学(地理・日本史・世界史)については、最終的に履修すべき範囲・内容の8割以上を、社会科学については政治分野を済ませていますが、これからの3年次では、人文科学の残り2割弱の範囲・内容と、社会科学の残りである経済分野と社会分野のほぼ全範囲を学ぶこととなりますが、この進み具合は例年よりも早いです。その分、今年度は問題演習の時間を多くとれますから、実践的な問題に触れながら、理解度を各自で把握しやすくなると思われます。授業進行については、これまでどおり指定テキストを使い、丁寧な板書(暗記の際の優先順位についてはカラー分けする)を行って、公務員受験者として必要な知識事項を示します。特に、社会科学については、例年苦手意識を抱く学生が多いので、関心が向くような時事的な事項も織り交ぜながら、わかりやすい授業環境を整えます。なお、思想、文芸分野につきましては、補習の時間で取り上げます。

※実務経験はありません。

【到達目標】

公務員試験に合格するためには、当然ですが6~7割以上の正答率が要求されます。人文科学は地理・日本史・世界史の3分野、社会科学は政治・経済・社会の3分野がありますが、それぞれこのうちの2分野は得意分野として、人文科学、社会科学の分野を大きな得点源にできる学生に育て上げます。

<具体的な目標>

目標①人文科学の地理分野については、白地図や統計資料を使った問題に対し、思考力をもって正解できる。

目標②人文科学の歴史分野については、主要な歴史的事実について、関係する人物や社会的背景、後の時代への影響等をきちんと説明できる。

目標③社会科学分野については、頻出の単元(例えば基本的人権)には、補習を含めて十分な時間をかけて教えることにより理解を深めさせ、本試験時に正解できる。

授業計画・内容

1回目	経済/日本の財政について、特に一般会計予算、財政投融资、国債の累積債務に関する知識を習得して、説明ができる。
2回目	経済/財政政策と金融政策について、特に増減税、公共事業、日本銀行の役割に関する知識を習得して、説明ができる。
3回目	世界史/産業革命について、関連する知識を習得して、説明ができる。
4回目	世界史/19世紀のヨーロッパについて学ぶことにより、世界が近代から現代へ移行する過渡期に関する知識を深めることができる。
5回目	地理/日本地理について、主な工業地域等、主に工業・産業に関する知識を習得して、説明ができる。
6回目	春季講座の内容の小テスト(1回目)を行うことで、春季で学んだ中国王朝史について到達度を把握し、改めて当該単元について理解を深めることができる。
7回目	(国際)経済/戦後の国際金融体制、貿易体制について、特にブレトンウッズ体制の確立と崩壊、GATTとWTOに関する知識を習得して、説明ができる。
8回目	経済/経済学に関する基本用語(公務員試験でよく出題される主な学説・人物や用語、経済理論)に関する知識を習得して、説明ができる。
9回目	日本史/昭和戦前史について、満州事変からアジア太平洋戦争に関する知識を習得して、説明ができる。
10回目	世界史/第一次世界大戦と国際協調について、帝国主義、3B・3C政策に関する知識を習得して、説明ができる。
11回目	世界史/第一次世界大戦と国際協調について、大戦後の世界の動きに関する知識を習得して、説明ができる。
12回目	春季講座の内容の小テスト(2回目)を行うことで、春季で学んだ明治・大正期について到達度を把握し、改めて当該単元について理解を深めることができる。
13回目	日本史/昭和戦後史について、GHQによる民主化政策、戦後復興に関する知識を習得して、説明ができる。
14回目	日本史/昭和戦後史について、主な戦後の内閣の政治実績に関する知識を習得して、説明ができる。
15回目	地理/人口、時差、地図の図法等の、いわゆる地理の小(マイナー)単元についての知識までも習得して、説明ができる。

準備学習
時間外学習

目標①2年時から伝えていたことですが、暗記中心という科目の特性に加え、学習(暗記)効果が上がるという面から、授業前にテキストの読み込みを行うなどの予習と、授業後の復習(覚え直し)を繰り返すことを望みます。
目標②得意分野を伸ばすことも大事ですが、公務員試験で全体の6~7割の正答率を得るためには、苦手分野の底上げもまた必要です。苦手科目についても、授業後の復習(覚え直し)を地道に続けることで、克服する意欲を持ってください。
目標③模擬試験が実施されるたびに、必ず解説にも目を通して、弱点克服に役立てることも求めます。

評価方法

基本的には、定期(期末)テストの結果を重視しますが、授業中の態度、出席率、小テスト(確認テスト)も加味して、総合的に評価します。
①定期(期末)テスト80% ②授業態度・出席率10% ③小テスト(確認テスト)10%

受講生への
メッセージ

ついに公務員試験受験の年となりました。みなさんの多くは、公務員(消防官)試験に合格しなければ、本校入学時に抱いていた夢(志望)は叶わないこととなります。受験の世界は、どこでも合格するかしないのかがはっきり分かれる厳しい世界です。だからこそ、今年の授業は、2年時以上に勤勉な姿勢で受講し、そして予習・復習に励みましょう。私が担当する人文科学と社会科学は、暗記科目ゆえに、努力次第で伸びる科目です。最後の最後まで、自分の可能性を信じて努力を続ける皆さんを応援します。

【使用教科書・教材・参考書】

『オープンセサミンシリーズ 公務員 国家公務員・地方初級 日本史・世界史・地理・思想』東京アカデミー
『同シリーズ 政治・経済・社会』東京アカデミー編

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	公務員講座(総合・面接)	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員	東 一也
	Public Servant Lecture (Advanced・Application)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 23単位	実務経験	なし
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

当科目は公務員試験の中で主要な暗記科目であり、また出題問題数も多い科目のため、苦手科目にはできません。2年次までに人文科学(地理・日本史・世界史)については、最終的に履修すべき範囲・内容の8割以上を、社会科学については政治分野を済ませていますが、これからの3年次では、人文科学の残り2割弱の範囲・内容と、社会科学の残りである経済分野と社会分野のほぼ全範囲を学ぶこととなりますが、この進み具合は例年よりも早いです。その分、今年度は問題演習の時間を多くとれますから、実践的な問題に触れながら、理解度を各自で把握しやすくなると思われます。授業進行については、これまでどおり指定テキストを使い、丁寧な板書(暗記の際の優先順位についてはカラー分けする)を行って、公務員受験者として必要な知識事項を示します。特に、社会科学については、例年苦手意識を抱く学生が多いので、関心が向くような時事的な事項も織り交ぜながら、わかりやすい授業環境を整えます。なお、思想、文芸分野につきましては、補習の時間で取り上げます。
※実務経験はありません。

【到達目標】

公務員試験に合格するためには、当然ですが6~7割以上の正答率が要求されます。人文科学は地理・日本史・世界史の3分野、社会科学は政治・経済・社会の3分野がありますが、それぞれこのうちの2分野は得意分野として、人文科学、社会科学の分野を大きな得点源にできる学生に育て上げます。

<具体的な目標>

目標①人文科学の地理分野については、白地図や統計資料を使った問題に対し、思考力をもって正解できる。

目標②人文科学の歴史分野については、主要な歴史的事実について、関係する人物や社会的背景、後の時代への影響等をきちんと説明できる。

目標③社会科学分野については、頻出の単元(例えば基本的人権)には、補習を含めて十分な時間をかけて教えることにより理解を深めさせ、本試験時に正解できる。

授業計画・内容

16回目	社会/社会保障制度、少子高齢社会について、社会保障制度の4つの柱、少子化対策等に関する知識を習得して、説明ができる。
17回目	社会/現代における社会問題(労働問題、環境問題、経済格差、人権、治安)に関する知識を習得して、説明ができる。
18回目	小テスト(3回目)を行うことで、今時点(1~11回)での到達度を把握し、改めてこれまでの履修範囲について理解を深めることができる。
19回目	世界史/第二次世界大戦について、特にドイツの再軍備とヒトラー政権、ファシズムの台頭に関する知識を習得して、説明ができる。
20回目	世界史/戦後冷戦史について、鉄のカーテン、ドイツの分割統治、雪解け、デタント、核軍縮、マルタ会談に関する知識を習得して、説明ができる。
21回目	世界史/戦後史について、中華人民共和国の成立、ベトナム戦争、第三世界、地域統合等に関する知識を習得して、説明ができる。
22回目	時事問題対策/日本国内の政治、経済、社会面の時事に関する知識を習得して、説明ができる。
23回目	時事問題対策/国際社会面の時事に関する知識を習得して、説明ができる。
24回目	小テスト(4回目)を行うことで、今時点(13~21回)での到達度を把握し、改めてこれまでの履修範囲について理解を深めることができる。
25回目	地理/統計資料について、主に農林水産業に関する数値データ等の知識を習得して、時事を絡めた統計問題に対して対応ができる。
26回目	地理/統計資料について、主に鉱工業に関する数値データ等の知識を習得して、時事を絡めた統計問題に対して対応ができる。
27回目	【問題演習】日本史/古代(旧石器時代~平安時代)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
28回目	【問題演習】日本史/中世(鎌倉時代)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
29回目	【問題演習】世界史/古代(四大文明、古代ギリシア、古代ローマ)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
30回目	【問題演習】世界史/中世(十字軍、宗教改革等)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。

準備学習
時間外学習

目標①2年時から伝えていたことですが、暗記中心という科目の特性に加え、学習(暗記)効果が上がるという面から、授業前にテキストの読み込みを行うなどの予習と、授業後の復習(覚え直し)を繰り返すことを望みます。
目標②得意分野を伸ばすことも大事ですが、公務員試験で全体の6~7割の正答率を得るためには、苦手分野の底上げもまた必要です。苦手科目についても、授業後の復習(覚え直し)を地道に続けることで、克服する意欲を持ってください。
目標③模擬試験が実施されるたびに、必ず解説にも目を通して、弱点克服に役立てることも求めます。

評価方法

基本的には、定期(期末)テストの結果を重視しますが、授業中の態度、出席率、小テスト(確認テスト)も加味して、総合的に評価します。
①定期(期末)テスト80% ②授業態度・出席率10% ③小テスト(確認テスト)10%

受講生への
メッセージ

ついに公務員試験受験の年となりました。みなさんの多くは、公務員(消防官)試験に合格しなければ、本校入学時に抱いていた夢(志望)は叶わないこととなります。受験の世界は、どこでも合格するかしないのかがはっきり分かれる厳しい世界です。だからこそ、今年の授業は、2年時以上に勤勉な姿勢で受講し、そして予習・復習に励みましょう。私が担当する人文科学と社会科学は、暗記科目ゆえに、努力次第で伸びる科目です。最後の最後まで、自分の可能性を信じて努力を続ける皆さんを応援します。

【使用教科書・教材・参考書】

『オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員・地方初級 日本史・世界史・地理・思想』東京アカデミー
『同シリーズ 政治・経済・社会』東京アカデミー編

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	公務員講座(総合・面接)	必修 選択	必修 選択	年次	3年次	担当教員	東 一也
	Public Servant Lecture (Advanced・Application)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 23単位	実務経験	なし
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

当科目は公務員試験の中で主要な暗記科目であり、また出題問題数も多い科目のため、苦手科目にはできません。2年次までに人文科学(地理・日本史・世界史)については、最終的に履修すべき範囲・内容の8割以上を、社会科学については政治分野を済ませていますが、これからの3年次では、人文科学の残り2割弱の範囲・内容と、社会科学の残りである経済分野と社会分野のほぼ全範囲を学ぶこととなりますが、この進み具合は例年よりも早いです。その分、今年度は問題演習の時間を多くとれますから、実践的な問題に触れながら、理解度を各自で把握しやすくなると思われます。授業進行については、これまでどおり指定テキストを使い、丁寧な板書(暗記の際の優先順位についてはカラー分けする)を行って、公務員受験者として必要な知識事項を示します。特に、社会科学については、例年苦手意識を抱く学生が多いので、関心が向くような時事的な事項も織り交ぜながら、わかりやすい授業環境を整えます。なお、思想、文芸分野につきましては、補習の時間で取り上げます。
※実務経験はありません。

【到達目標】

公務員試験に合格するためには、当然ですが6~7割以上の正答率が要求されます。人文科学は地理・日本史・世界史の3分野、社会科学は政治・経済・社会の3分野がありますが、それぞれこのうちの2分野は得意分野として、人文科学、社会科学の分野を大きな得点源にできる学生に育て上げます。

<具体的な目標>

目標①人文科学の地理分野については、白地図や統計資料を使った問題に対し、思考力をもって正解できる。

目標②人文科学の歴史分野については、主要な歴史的事実について、関係する人物や社会的背景、後の時代への影響等をきちんと説明できる。

目標③社会科学分野については、頻出の単元(例えば基本的人権)には、補習を含めて十分な時間をかけて教えることにより理解を深めさせ、本試験時に正解できる。

授業計画・内容

31回目	【問題演習】地理/地形(大地形、侵食、堆積、火山、海岸等)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
32回目	【問題演習】地理/世界の気候(各気候帯の特色、農林業との関連等)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
33回目	【問題演習】政治/民主政治(法の支配政治思想、各国の政治制度等)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力身にを付ける。
34回目	【問題演習】政治/日本国憲法(特色、重要な条文内容等)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力身にを付ける。
35回目	【問題演習】日本史/中世(室町時代~安土・桃山時代)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
36回目	【問題演習】日本史/近世(江戸時代初期)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
37回目	【問題演習】世界史/近代(主に絶対主義)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
38回目	【問題演習】世界史/近代(主に市民革命)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
39回目	【問題演習】地理/世界の産業(主に農業、鉱物資源)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
40回目	【問題演習】地理/世界の産業(主に工業)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
41回目	【問題演習】政治/基本的人権の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力身にを付ける。
42回目	【問題演習】政治/立法権の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力身にを付ける。
43回目	【問題演習】日本史/近世(江戸三大改革等の政策)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
44回目	【問題演習】日本史/近世(江戸末期・滅亡)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
45回目	【問題演習】世界史/中国王朝史の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。

準備学習
時間外学習

目標①2年時から伝えていたことですが、暗記中心という科目の特性に加え、学習(暗記)効果が上がるという面から、授業前にテキストの読み込みを行うなどの予習と、授業後の復習(覚え直し)を繰り返すことを望みます。
目標②得意分野を伸ばすことも大事ですが、公務員試験で全体の6~7割の正答率を得るためには、苦手分野の底上げもまた必要です。苦手科目についても、授業後の復習(覚え直し)を地道に続けることで、克服する意欲を持ってください。
目標③模擬試験が実施されるたびに、必ず解説にも目を通して、弱点克服に役立てることも求めます。

評価方法

基本的には、定期(期末)テストの結果を重視しますが、授業中の態度、出席率、小テスト(確認テスト)も加味して、総合的に評価します。
①定期(期末)テスト80% ②授業態度・出席率10% ③小テスト(確認テスト)10%

受講生への
メッセージ

ついに公務員試験受験の年となりました。みなさんの多くは、公務員(消防官)試験に合格しなければ、本校入学時に抱いていた夢(志望)は叶わないこととなります。受験の世界は、どこでも合格するかしないのかがはっきり分かれる厳しい世界です。だからこそ、今年の授業は、2年時以上に勤勉な姿勢で受講し、そして予習・復習に励みましょう。私が担当する人文科学と社会科学は、暗記科目ゆえに、努力次第で伸びる科目です。最後の最後まで、自分の可能性を信じて努力を続ける皆さんを応援します。

【使用教科書・教材・参考書】

『オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員・地方初級 日本史・世界史・地理・思想』東京アカデミー
『同シリーズ 政治・経済・社会』東京アカデミー編

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	公務員講座(総合・面接)	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員	東 一也
	Public Servant Lecture (Advanced・Application)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 23単位	実務経験	なし
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

当科目は公務員試験の中で主要な暗記科目であり、また出題問題数も多い科目のため、苦手科目にはできません。2年次までに人文科学(地理・日本史・世界史)については、最終的に履修すべき範囲・内容の8割以上を、社会科学については政治分野を済ませていますが、これからの3年次では、人文科学の残り2割弱の範囲・内容と、社会科学の残りである経済分野と社会分野のほぼ全範囲を学ぶこととなりますが、この進み具合は例年よりも早いです。その分、今年度は問題演習の時間を多くとれますから、実践的な問題に触れながら、理解度を各自で把握しやすくなると思われます。授業進行については、これまでどおり指定テキストを使い、丁寧な板書(暗記の際の優先順位についてはカラー分けする)を行って、公務員受験者として必要な知識事項を示します。特に、社会科学については、例年苦手意識を抱く学生が多いので、関心が向くような時事的な事項も織り交ぜながら、わかりやすい授業環境を整えます。なお、思想、文芸分野につきましては、補習の時間で取り上げます。

※実務経験はありません。

【到達目標】

公務員試験に合格するためには、当然ですが6~7割以上の正答率が要求されます。人文科学は地理・日本史・世界史の3分野、社会科学は政治・経済・社会の3分野がありますが、それぞれこのうちの2分野は得意分野として、人文科学、社会科学の分野を大きな得点源にできる学生に育て上げます。

<具体的な目標>

目標①人文科学の地理分野については、白地図や統計資料を使った問題に対し、思考力をもって正解できる。

目標②人文科学の歴史分野については、主要な歴史的事実について、関係する人物や社会的背景、後の時代への影響等をきちんと説明できる。

目標③社会科学分野については、頻出の単元(例えば基本的人権)には、補習を含めて十分な時間をかけて教えることにより理解を深めさせ、本試験時に正解できる。

授業計画・内容

46回目	【問題演習】世界史／中国王朝史の続き、および周辺アジア諸国の歴史の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
47回目	【問題演習】地理／地誌(世界総合、アジア諸国等)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
48回目	【問題演習】地理／地誌(アフリカ、ヨーロッパ、北米、南米等)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
49回目	【問題演習】政治／行政権、司法権の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力身にを付ける。
50回目	【問題演習】政治／地方自治の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力身にを付ける。
51回目	【問題演習】日本史／近現代(主に明治から大正時代)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
52回目	【問題演習】日本史／近現代(主に昭和時代)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
53回目	【問題演習】世界史／現代(主に第一次世界大戦と第二次世界大戦)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力を身に付ける。
54回目	【問題演習】政治／国際社会(主に国際連合とその専門機関等)の問題演習を行うことで、当履修内容について得点力身にを付ける。
55回目	(前期)実力試験(単位認定)を行う。

準備学習
時間外学習

目標①2年時から伝えていたことですが、暗記中心という科目の特性に加え、学習(暗記)効果が上がるという面から、授業前にテキストの読み込みを行うなどの予習と、授業後の復習(覚え直し)を繰り返し行うことを望みます。
目標②得意分野を伸ばすことも大事ですが、公務員試験で全体の6~7割の正答率を得るためには、苦手分野の底上げもまた必要です。苦手科目についても、授業後の復習(覚え直し)を地道に続けることで、克服する意欲を持ってください。
目標③模擬試験が実施されるたびに、必ず解説にも目を通して、弱点克服に役立てることも求めます。

評価方法

基本的には、定期(期末)テストの結果を重視しますが、授業中の態度、出席率、小テスト(確認テスト)も加味して、総合的に評価します。
①定期(期末)テスト80% ②授業態度・出席率10% ③小テスト(確認テスト)10%

受講生への
メッセージ

ついに公務員試験受験の年となりました。みなさんの多くは、公務員(消防官)試験に合格しなければ、本校入学時に抱いていた夢(志望)は叶わないこととなります。受験の世界は、どこでも合格するかしないのかがはっきり分かれる厳しい世界です。だからこそ、今年の授業は、2年時以上に勤勉な姿勢で受講し、そして予習・復習に励みましょう。私が担当する人文科学と社会科学は、暗記科目ゆえに、努力次第で伸びる科目です。最後の最後まで、自分の可能性を信じて努力を続ける皆さんを応援します。

【使用教科書・教材・参考書】

『オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員・地方初級 日本史・世界史・地理・思想』東京アカデミー

『同シリーズ 政治・経済・社会』東京アカデミー編

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	公務員講座(総合・面接) Public Servant Lecture (Advanced・Application)	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員	馬場 留美
	コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 23単位	実務経験	なし
						開講区分	前期
						曜日・時限	水、土 3.4限

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
公務員試験において、数的処理は重要なウエイトを占めます。1. 2年次で学習したことを踏まえ、練習問題を繰り返すことで応用力がつけます。

【到達目標】
本番の公務員試験で数的処理の問題が解けるようになる。
<具体的な目標>
目標①数的推理の問題が解ける
目標②判断推理の問題が解ける
目標③空間把握の問題が解ける
目標④資料解釈の問題が解ける

授業計画・内容

56回目	目標① 比と割合ができる
57回目	目標③ 立体の投影図ができる
58回目	目標③ サイコロの問題が解ける
59回目	目標① 過不足算ができる
60回目	目標③ 平面計量ができる
61回目	目標② 対応関係ができる
62回目	目標② 順列・位置ができる
63回目	目標① 速さの比ができる
64回目	目標① 条件付き確率ができる
65回目	目標① 公倍数・公約数ができる
66回目	目標② リーグ戦・道順ができる
67回目	目標④ 資料解釈ができる
68回目	目標② 証言、時計のずれができる
69回目	目標③ 立体の切断ができる
70回目	目標② 位置関係ができる

準備学習
時間外学習

復習は不可欠です。復習用のプリントを配布しますので各自活用して下さい。

評価方法

期末テスト(50%) 中間テスト(50%)

受講生への
メッセージ

授業では、教科書に載っていない解法も伝授します。まじめに授業に臨み、復習を怠らなければ本番試験で高得点が取れます。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:「一般知能」東京アカデミー編 七賢出版

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	公務員講座(総合・面接)	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員	馬場 留美
	Public Servant Lecture (Advanced・Application)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 23単位	実務経験	なし
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
公務員試験において、数的処理は重要なウエイトを占めます。1. 2年次で学習したことを踏まえ、練習問題を繰り返すことで応用力がつかます。

【到達目標】
本番の公務員試験で数的処理の問題が解けるようになる。
<具体的な目標>
目標①数的推理の問題が解ける
目標②判断推理の問題が解ける
目標③空間把握の問題が解ける
目標④資料解釈の問題が解ける

授業計画・内容

71回目	目標③ 歯車、軌跡ができる
72回目	目標① 通過算・ニュートン算ができる
73回目	目標② 暗号、集合ができる
74回目	目標④ 増加率のグラフができる
75回目	目標① 確率、割合ができる
76回目	目標② 家系図、ジャンケン確率ができる
77回目	目標① 平均、表面積と体積ができる
78回目	目標① 濃度、増減ができる
79回目	目標③ 立体の経路ができる
80回目	目標② 順序、対応ができる
81回目	目標① N進法ができる
82回目	目標① 関数とグラフができる
83回目	目標② 証言、部屋割ができる
84回目	目標① 記数法ができる
85回目	目標④ 資料解釈ができる

準備学習
時間外学習

復習は不可欠です。復習用のプリントを配布しますので各自活用して下さい。

評価方法

期末テスト(50%) 中間テスト(50%)

受講生への
メッセージ

授業では、教科書に載っていない解法も伝授します。まじめに授業に臨み、復習を怠らなければ本番試験で高得点が取れます。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:「一般知能」東京アカデミー編 七賢出版

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	公務員講座(総合・面接) Public Servant Lecture (Advanced・Application)	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員 実務経験	馬場 留美 なし
	コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 23単位	開講区分 曜日・時限	前期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
公務員試験において、数的処理は重要なウエイトを占めます。1. 2年次で学習したことを踏まえ、練習問題を繰り返すことで応用力がつけます。

【到達目標】
本番の公務員試験で数的処理の問題が解けるようになる。
<具体的な目標>
目標①数的推理の問題が解ける
目標②判断推理の問題が解ける
目標③空間把握の問題が解ける
目標④資料解釈の問題が解ける

授業計画・内容	
86回目	目標②判断推理の総合問題を解く
87回目	目標②判断推理の総合問題を解く
88回目	目標③空間把握の総合問題を解く
89回目	目標④資料解釈の総合問題を解く
90回目	目標①数的推理の総合問題を解く
91回目	目標①数的推理の総合問題を解く
92回目	目標②判断推理の総合問題を解く
93回目	目標②判断推理の総合問題を解く
94回目	目標③空間把握の総合問題を解く
95回目	目標①数的推理の総合問題を解く
96回目	目標①数的推理の総合問題を解く
97回目	目標①数的推理の総合問題を解く
98回目	目標②判断推理の総合問題を解く
99回目	目標②判断推理の総合問題を解く
100回目	目標③空間把握の総合問題を解く
準備学習 時間外学習	復習は不可欠です。復習用のプリントを配布しますので各自活用して下さい。
評価方法	期末テスト(50%) 中間テスト(50%)
受講生への メッセージ	授業では、教科書に載っていない解法も伝授します。まじめに授業に臨み、復習を怠らなければ本番試験で高得点が取れます。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:「一般知能」東京アカデミー編 七賢出版	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	公務員講座(総合・面接)	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員	岩崎 靖
	Public Servant Lecture (Advanced・Application)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 23単位	実務経験	なし
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
2年次までの知識をもとに公務員試験の問題を演習することにより、自然科学分野の問題が解ける、より深い知識を身につけることができる。

【到達目標】
昨年までの知識をもとに演習を行うことで公務員初級・東京消防庁Ⅱ類・東京消防庁Ⅲ類の問題が解けるようになる。
<具体的な目標>
目標①化学の問題が解ける
目標②物理の問題が解ける
目標③生物の問題が解ける
目標④地学の問題が解ける

授業計画・内容	
111回目	目標① 化学 物質の構成をより深く理解し、知識を身につけることができる。
112回目	目標① 化学 非金属をより深く理解し、知識を身につけることができる。
113回目	目標① 化学 金属をより深く理解し、知識を身につけることができる。
114回目	目標① 化学 酸・塩基、酸化・還元をより深く理解し、知識を身につけることができる。
115回目	目標① 化学 化学反応と量をより深く理解し、知識を身につけることができる。
116回目	目標② 物理 速度と距離をより深く理解し、知識を身につけることができる。
117回目	目標② 物理 力をより深く理解し、知識を身につけることができる。
118回目	目標② 物理 力(エネルギー)をより深く理解し、知識を身につけることができる。
119回目	目標② 物理 波動をより深く理解し、知識を身につけることができる。
120回目	目標② 物理 電気をより深く理解し、知識を身につけることができる。
121回目	目標③ 生物 生命の連続をより深く理解し、知識を身につけることができる。
122回目	目標③ 生物 同化・異化をより深く理解し、知識を身につけることができる。
123回目	目標③ 生物 体内環境をより深く理解し、知識を身につけることができる。①
124回目	目標③ 生物 体内環境をより深く理解し、知識を身につけることができる。②
125回目	目標③ 生物 生物の集団をより深く理解し、知識を身につけることができる。
準備学習 時間外学習	事前に伝えられた範囲を、参考書などで学習して来ること。講義中で間違えた問題を解き直すこと。週に4~5時間の学習が必要になる。
評価方法	期末テスト(70%)、学習意欲(30%)
受講生への メッセージ	昨年まで身につけた知識をアウトプットすることで、さらに理解を深めていきましょう。昨年の作成したノードを持参して講義に参加して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:「数学・理科」東京アカデミー編 七賢出版	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	公務員講座(総合・面接)	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員	岩崎 靖
	Public Servant Lecture (Advanced・Application)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 23単位	実務経験	なし
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
2年次までの知識をもとに公務員試験の問題を演習することにより、自然科学分野の問題が解ける、より深い知識を身につけることができる。

【到達目標】
昨年までの知識をもとに演習を行うことで公務員初級・東京消防庁Ⅱ類・東京消防庁Ⅲ類の問題が解けるようになる。
<具体的な目標>
目標①化学の問題が解ける
目標②物理の問題が解ける
目標③生物の問題が解ける
目標④地学の問題が解ける

授業計画・内容	
126回目	目標④ 地学 固体地球をより深く理解し、知識を身につけることができる。①
127回目	目標④ 地学 固体地球をより深く理解し、知識を身につけることができる。②
128回目	目標④ 地学 天体をより深く理解し、知識を身につけることができる。①
129回目	目標④ 地学 天体をより深く理解し、知識を身につけることができる。②
130回目	目標④ 地学 気象をより深く理解し、知識を身につけることができる。①
131回目	目標④ 地学 気象をより深く理解し、知識を身につけることができる。②
132回目	過去問演習 総合
133回目	過去問演習 総合
134回目	過去問演習 総合
135回目	過去問演習 総合
136回目	過去問演習 総合
137回目	過去問演習 総合
138回目	過去問演習 総合
139回目	過去問演習 総合
140回目	まとめテスト
準備学習 時間外学習	事前に伝えられた範囲を、参考書などで学習して来ること。講義中で間違えた問題を解き直すこと。週に4~5時間の学習が必要になる。
評価方法	期末テスト(70%)、学習意欲(30%)
受講生への メッセージ	昨年まで身につけた知識をアウトプットすることで、さらに理解を深めていきましょう。昨年の作成したノードを持参して講義に参加して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書:「数学・理科」東京アカデミー編 七賢出版	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	公務員講座(総合・面接)	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員	灘辺 正信
	Public Servant Lecture (Advanced・Application)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 23単位	実務経験	○
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
消防士になるためには、1次試験(教養試験)突破をし、2次試験(面接試験)に合格する必要がある。2次試験は人物を重視した面接試験であるが、何度もいろいろな先生と練習をする必要がある。

【到達目標】
目標の消防の情報収集をしながら、自己分析をし、何か強みなのかなど基礎を固めた上で面接練習に臨み、公務員2次試験(面接試験)で最終合格を勝ち取る。
<具体的な目標>
目標①講話や情報収集又は説明会を通して、公務員の現状を知ることができる
目標②自己分析をし、自分の強みを知ることができる
目標③自己分析を元に受け答えができる
目標④模擬面接会や集団討論などいろいろなことを実施し、最終的に2次試験に合格できる

授業計画・内容	
141回目	就職について(キャリアセンター)の講話、履歴書の書き方、サクセスナビ説明
142回目	目標①消防士になるためには(救急救員)の講話 公務員試験情報収集の仕方などがわかる
143回目	目標②自己分析ができ、自己分析シートに書くことができる
144回目	目標①福岡県警早期採用説明会で直接話を聞くことにより、試験日程、募集人数などがわかる
145回目	目標②自己分析ができ、長所短所が書くことができる
146回目	目標①自衛隊早期採用説明会で直接話を聞くことにより、試験日程、募集人数などがわかる
147回目	目標②履歴書を完成し、自分の強みがわかる
148回目	目標③履歴書を元に、いろいろな質問でも受け答えができる
149回目	目標③履歴書を元に、少し圧迫ぎみな質問でも受け答えができる
150回目	目標③集団面接 2チームに分け、受け答えができる
151回目	目標①消防試験に合格するため(救急救員)の講話やどのようなことをしておかないといけないかがわかる
152回目	目標④集団討論1回目 題を与え、2チームに分け、その題について討論をし、フィードバックする
153回目	目標④集団討論2回目 題を与え、3チームに分け、その題について討論をし、フィードバックする
154回目	目標④ブレ模擬面接会 来週の本番に向け、一人一人面接を受けることができる
155回目	目標④模擬面接会(キャリアセンター)本番さながら、一人一人面接受け、受け答えができる
準備学習 時間外学習	自己分析は、きちんと自分自身を振り返り、面接ノートを作成するのをおすすめします。そのノートを元に面接練習を繰り返し、その度ごとにノートを書きかえることで自分だけのノートが出来上がります。それから、目標とする消防の情報収集が不可欠になります。時間を見つけては、消防のホームページや消防年報を見て、面接で言うことを整理した方が、よりスムーズに本番の面接に臨むことができます。
評価方法	消防試験最終合格に目標を立て、面接練習(集団面接・個別面接)や集団討論などの演習を交えながら、総合的に評価する。 ●提出物(20%) ●面接練習(20%) ●模擬面接会(60%) 割合で成績評価を行う。
受講生への メッセージ	面接練習は、いろいろな先生にしてもらうのがベストです。一人で乗り越えるのではなく、たくさんの先生の力を借りながら、アドバイスをもらいながら、繰り返し繰り返し面接練習をして下さい。努力あるのみです。努力した人は、必ず最終合格が勝ち取ることができます。頑張ってください。
【使用教科書・教材・参考書】	
教材: 自己分析シート、直近3年間の復元シート(消防ごと)1次試験用・2次試験用	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	公務員講座(総合・面接)	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員	森田 道稔
	Public Servant Lecture (Advanced・Application)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 23単位	実務経験	
コース						開講区分	前期
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>1 SPI3 ① 言語問題(同意語・反意語、二語の関係、語句、空欄補充、用法、文章整序、長文読解)の授業を実施する。 ②非言語問題(モノの値段と個数、定価・原価・利益、割合と値段、濃度算、速度算、集合、場合の数、確率、各種推論)の授業を実施する。</p> <p>2 SCOA 数理(四則計算)、論理(推論)、言語(漢字の読み)、常識(社会、理科)の授業を実施する。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>SPI3は「知能検査」の要素が大きく、SCOAと比較すると難易度が高くなり、時間との勝負となります。授業で集中して問題を解き、徐々にスピードを上げ、かつ正確に解けるようにしていく。 SCOA 「学力検査」の傾向が大きくSCOAで高得点をとるためには、中学・高校での基礎知識が大切となります。授業で問題を解き、基礎知識を身につけていきます。 (具体的目標)</p> <p>1 SPI3 ① 言語問題(同意語・反意語、二語の関係、語句、空欄補充、用法、文章整序、長文読解)の内容が説明できるとともに確実に正解が出せる。 ②非言語問題(モノの値段と個数、定価・原価・利益、割合と値段、濃度算、速度算、集合、場合の数、確率、各種推論)の計算が出来るとともに確実に正解が出せる。</p> <p>2 SCOA 数理(四則計算)、論理(推論)、言語(漢字の読み)、常識(社会、理科)の計算や問題が出来るとともに内容が説明できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
156回目	SPI3① 言語問題(同義語、二語の関係) 非言語問題(四則計算、モノの値段と個数)の出題傾向・解法を理解させ、言語問題、非言語問題の説明ができる。
157回目	SPI3② 言語問題(反意語、二語の関係) 非言語問題(四則計算、定価・原価・利益)の出題傾向・解法を理解させ、言語問題、非言語問題の説明ができる。
158回目	SPI3③ 言語問題(語句、二語の関係) 非言語問題(四則計算、割合と値段)の出題傾向・解法を理解させ、言語問題、非言語問題の説明ができる。
159回目	SPI3④ 言語問題(空欄補充、用法、二語の関係) 非言語問題(四則計算、濃度算)の出題傾向・解法を理解させ、言語問題、非言語問題の説明ができる。
160回目	SPI3⑤ 言語問題(文章序列、二語の関係) 非言語問題(四則計算、速度算1)の出題傾向・解法を理解させ、言語問題、非言語問題の説明ができる。
161回目	SPI3⑥ 言語問題(長文読解、二語の関係) 非言語問題(四則計算、速度算2)の出題傾向・解法を理解させ、言語問題、非言語問題の説明ができる。
162回目	SPI3⑦ 言語問題(総合編1) 非言語問題(四則計算、集合)の出題傾向・解法を理解させ、言語問題、非言語問題の説明ができる。
163回目	SPI3⑧ 言語問題(総合編2) 非言語問題(四則計算、場合の数)の出題傾向・解法を理解させ、言語問題、非言語問題の説明ができる。
164回目	SPI3⑨ 言語問題(総合編3) 非言語問題(四則計算、確率)の出題傾向・解法を理解させ、言語問題、非言語問題の説明ができる。
165回目	SPI3⑩ 言語問題(総合編4) 非言語問題(四則計算、推論:順位関係)の出題傾向・解法を理解させ、言語問題、非言語問題の説明ができる。
166回目	SPI3⑪ 言語問題(総合編5) 非言語問題(四則計算、推論:勝敗関係)の出題傾向・解法を理解させ、言語問題、非言語問題の説明ができる。
167回目	SPI3⑫ 言語問題(総合編6) 非言語問題(四則計算、推論:位置関係)の出題傾向・解法を理解させ、言語問題、非言語問題の説明ができる。
168回目	SPI3⑬ 言語問題(総合編7) 非言語問題(四則計算、推論:対応関係)の出題傾向・解法を理解させ、言語問題、非言語問題の説明ができる。
169回目	SPI3⑭ 言語問題、非言語問題(模擬問題1)
170回目	SPI3⑭ 言語問題、非言語問題(模擬問題2)
準備学習 時間外学習	復習中心の学習を行って下さい。 では各回の内容のポイントを解説し、それに対応する問題を解くことで、理解力が身につきます。次の授業では復習テストを実施しますので、苦手な問題や間違えた問題、うる覚えの問題の復習をして下さい。 授業
評価方法	前期試験(100%)での評価となります。
受講生への メッセージ	SPI3 「知能検査」の要素が大きく、SCOAと比較すると難易度が高くなり、時間との勝負となります。スピードと正確性を養いましょう。 SCOA 「学力検査」の傾向が大きくSCOAで高得点をとるためには、中学・高校での基礎知識が大切となります。しっかりと問題を解き、基礎知識を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	公務員講座(総合・面接) Public Servant Lecture (Advanced・Application)	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員 実務経験	森田 道稔
コース		授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 23単位	開講区分 曜日・時限	前期

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

1 SPI3
 ①言語問題(同意語・反意語、二語の関係、語句、空欄補充、用法、文章整序、長文読解)の授業を実施する。
 ②非言語問題(モノの値段と個数、定価・原価・利益、割合と値段、濃度算、速度算、集合、場合の数、確率、各種推論)の授業を実施する。

2 SCOA
 数理(四則計算)、論理(推論)、言語(漢字の読み)、常識(社会、理科)の授業を実施する。

【到達目標】

SPI3は「知能検査」の要素が大きく、SCOAと比較すると難易度が高くなり、時間との勝負となります。授業で集中して問題を解き、徐々にスピードを上げ、かつ正確に解けるようにしていく。 SCOA
 は「学力検査」の傾向が大きくSCOAで高得点をとるためには、中学・高校での基礎知識が大切となります。授業で問題を解き、基礎知識を身につけていきます。
 (具体的目標)

1 SPI3 ①
 言語問題(同意語・反意語、二語の関係、語句、空欄補充、用法、文章整序、長文読解)の内容が説明できるとともに確実に正解が出せる。
 ②非言語問題(モノの値段と個数、定価・原価・利益、割合と値段、濃度算、速度算、集合、場合の数、確率、各種推論)の計算が出来るとともに確実に正解が出せる。

2 SCOA
 数理(四則計算)、論理(推論)、言語(漢字の読み)、常識(社会、理科)の計算や問題が出来るとともに内容が説明できるようになる。

授業計画・内容	
171回目	SCOA① 数理(四則計算)、論理(推論)の出題傾向・解法を理解させ説明ができる。
172回目	SCOA② 言語(漢字の読み)、常識(社会、理科)の出題傾向・解法を理解させ説明ができる。
173回目	SCOA③ SCOA(模擬問題1)
174回目	SCOA④ SCOA(模擬問題2)
175回目	前期試験
準備学習 時間外学習	復習中心の学習を行って下さい。 業では各回の内容のポイントを解説し、それに対応する問題を解くことで、理解力が身につきます。次の授業では復習テストを実施しますので、苦手な問題や間違った問題、うる覚えの問題の復習をして下さい。 授
評価方法	前期試験(100%)での評価となります。
受講生への メッセージ	SPI3 「知能検査」の要素が大きく、SCOAと比較すると難易度が高くなり、時間との勝負となります。スピードと正確性を養いましょう。 SCOA 「学力検査」の傾向が大きくSCOAで高得点をとるためには、中学・高校での基礎知識が大切となります。しっかりと問題を解き、基礎知識を身につけましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	総合基礎 Comprehensive Basics	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 (23単位)	開講区分 曜日・時限	前/後期 水・木・金
コース							
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命士国家試験を合格するためには、専門的な医学基礎知識の知識が不可欠となります。また、病院前医療体制や救急救命処置概論、救急病態生理、救急症候、疾病救急医学、外傷救急医学、急性中毒・環境障害の救急救命士として必要な総合的知識が必要となります。</p> <p>救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。</p> <p>本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p> <p>※実務者経験:</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>人体を構成する要素や人体の各器官の構造と、その機能について系統的に理解できるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①人体の構造、機能、部位を理解し説明できるようになる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	(目標①)人体を構成する要素について説明できる。						
2回目	(目標①)人体を構成する要素について説明できる。						
3回目	(目標①)体表からみる人体の構造						
4回目	(目標①)体表からみる人体の構造						
5回目	(目標①)体表からみる人体の構造						
6回目	人体構成・体表確認試験						
7回目	(目標①)呼吸系について説明ができる。						
8回目	(目標①)呼吸系について説明ができる。						
9回目	(目標①)呼吸系について説明ができる。						
10回目	(目標①)呼吸系について説明ができる。						
11回目	呼吸系確認試験						
12回目	(目標①)循環系について説明ができる。						
13回目	(目標①)循環系について説明ができる。						
14回目	(目標①)循環系について説明ができる。						
15回目	(目標①)循環系について説明ができる。						
準備学習 時間外学習	<p>(目標①)準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。</p> <p>また、1年次で学んだ専門科目を再度復習すること。暗記するのではなく理解する。振り返りや見直しを行う。時間外に自己学習をすることを心がける。また、教科書やノート、プリントを使った勉強だけでなく、救急救命士模擬試験や過去問を繰り返し解くことで問題の傾向や出題方法、勉強する内容を抽出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 復習・振り返り ● 時間外自己学習・見直し ● 救急救命士国家試験模擬試験・過去問を解く・やり直し 						
評価方法	随時、確認試験を行い理解度を図る。						
受講生への メッセージ	解剖学では難しい漢字を使用し、内容や範囲が広いいため、理解をするまでに非常に時間を必要とする。医療従事者として共通する知識で、この分野を理解しておけば救急救命士として人命に携わることができない。自分の目標を叶えるために挫折せずに、少しずつでも構わないので、予習・復習をするようにしてください。						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	総合基礎 Comprehensive Basics	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員 実務経験	専任教員
	コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 (23単位)	開講区分 曜日・時限	前/後期 水・木・金
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命士国家試験を合格するためには、専門的な医学基礎知識の知識が不可欠となります。また、病院前医療体制や救急救命処置概論、救急病態生理、救急症候、疾病救急医学、外傷救急医学、急性中毒・環境障害の救急救命士として必要な総合的知識が必要となります。救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。</p> <p>本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p> <p>※実務者経験:</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>人体を構成する要素や人体の各器官の構造と、その機能について系統的に理解できるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①人体の構造、機能、部位を理解し説明できるようになる。</p>							
授業計画・内容							
16回目	循環系確認試験						
17回目	(目標①)消化系について説明ができる。						
18回目	(目標①)消化系について説明ができる。						
19回目	(目標①)消化系について説明ができる。						
20回目	(目標①)消化系について説明ができる。						
21回目	消化系確認試験						
22回目	(目標①)泌尿系について説明ができる。						
23回目	(目標①)生殖系について説明ができる。						
24回目	泌尿・生殖器系確認試験						
25回目	(目標①)内分泌系について説明ができる。						
26回目	(目標①)内分泌系について説明ができる。						
27回目	(目標①)内分泌系について説明ができる。						
28回目	(目標①)内分泌系について説明ができる。						
29回目	内分泌系確認試験						
30回目	(目標①)血液・免疫系について説明ができる。						
準備学習 時間外学習	<p>(目標①)準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。</p> <p>また、1年次で学んだ専門科目を再度復習すること。暗記するのではなく理解する。振り返りや見直しを行う。時間外に自己学習をすることを心がける。また、教科書やノート、プリントを使った勉強だけでなく、救急救命士模擬試験や過去問を繰り返し解くことで問題の傾向や出題方法、勉強する内容を抽出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●復習・振り返り ●時間外自己学習・見直し ●救急救命士国家試験模擬試験・過去問を解く・やり直し 						
評価方法	随時、確認試験を行い理解度を図る。						
受講生への メッセージ	解剖学では難しい漢字を使用し、内容や範囲が広いので、理解をするまでに非常に時間を必要とする。医療従事者として共通する知識で、この分野を理解しておかなければ救急救命士として人命に携わることができない。自分の目標を叶えるために挫折せずに、少しずつでも構わないので、予習・復習をするようにしてください。						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	総合基礎 Comprehensive Basics	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員 実務経験	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 (23単位)	開講区分 曜日・時限	前/後期 水・木・金
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命士国家試験を合格するためには、専門的な医学基礎知識の知識が不可欠となります。また、病院前医療体制や救急救命処置概論、救急病態生理、救急症候、疾病救急医学、外傷救急医学、急性中毒・環境障害の救急救命士として必要な総合的知識が必要となります。救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。</p> <p>本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p> <p>※実務者経験:</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>人体を構成する要素や人体の各器官の構造と、その機能について系統的に理解できるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①人体の構造、機能、部位を理解し説明できるようになる。</p> <p>目標②人体の構造における神経系の構造と機能が説明できるようになる。</p>							
授業計画・内容							
31回目	(目標①)血液・免疫系について説明ができる。						
32回目	(目標①)血液・免疫系について説明ができる。						
33回目	(目標①)血液・免疫系について説明ができる。						
34回目	血液・免疫系確認試験						
35回目	(目標①)筋・骨格系について説明ができる。						
36回目	(目標①)筋・骨格系について説明ができる。						
37回目	筋・骨格系確認試験						
38回目	(目標①)皮膚系について説明ができる。						
39回目	(目標①)皮膚系について説明ができる。						
40回目	皮膚系確認試験						
41回目	(目標①)生命の維持について説明ができる。						
42回目	(目標①)生命の維持について説明ができる。						
43回目	生命の維持確認試験						
44回目	(目標②)神経について説明ができる。(神経系の構成、神経系の役割)						
45回目	(目標②)神経について説明ができる。(大脳、間脳、小脳)						
準備学習 時間外学習	<p>(目標①②)準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。</p> <p>また、1年次で学んだ専門科目を再度復習すること。暗記するのではなく理解する。振り返りや見直しを行う。時間外に自己学習をすることを心がける。また、教科書やノート、プリントを使った勉強だけでなく、救急救命士模擬試験や過去問を繰り返し解くことで問題の傾向や出題方法、勉強する内容を抽出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 復習・振り返り ● 時間外自己学習・見直し ● 救急救命士国家試験模擬試験・過去問を解く・やり直し 						
評価方法	随時、確認試験を行い理解度を図る。						
受講生への メッセージ	解剖学では難しい漢字を使用し、内容や範囲が広いいため、理解をするまでに非常に時間を必要とする。医療従事者として共通する知識で、この分野を理解しておかなければ救急救命士として人命に携わることができない。自分の目標を叶えるために挫折せずに、少しずつでも構わないので、予習・復習をするようにしてください。						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	総合基礎 Comprehensive Basics	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 (23単位)	開講区分 曜日・時限	前/後期 水・木・金
コース							
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命士国家試験を合格するためには、専門的な医学基礎知識の知識が不可欠となります。また、病院前医療体制や救急救命処置概論、救急病態生理、救急症候、疾病救急医学、外傷救急医学、急性中毒・環境障害の救急救命士として必要な総合的知識が必要となります。</p> <p>救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。</p> <p>本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p> <p>※実務者経験:</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>人体を構成する要素や人体の各器官の構造と、その機能について系統的に理解できるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①人体の構造、機能、部位を理解し説明できるようになる。</p> <p>目標②人体の構造における神経系の構造と機能が説明できるようになる。</p>							
授業計画・内容							
46回目	(目標②)神経について説明ができる。(脳幹、脊髄、脳室、脳脊髄液)						
47回目	(目標②)神経について説明ができる。(脳神経)						
48回目	(目標②)神経について説明ができる。(脳神経、脊髄神経【デルマトーム】)						
49回目	(目標②)神経について説明ができる。(運動の伝導路【錐体路・錐体外路 知覚の伝導路【脊髄視床路・後索】)						
50回目	(目標②)神経について説明ができる。(自律神経【交感神経・副交感神経】)						
51回目	(目標②)神経について説明ができる。(脳循環【内頸動脈系・椎骨脳底動脈系・ウイリス動脈輪】)						
52回目	(目標②)神経について説明ができる。(脳循環【代謝・頭蓋内圧・脳血流】)						
53回目	(目標②)神経について説明ができる。(意識【意識の意味・意識の中核】)						
54回目	(目標②)神経について説明ができる。(反射【角膜反射・咽頭反射・膝蓋腱反射】)						
55回目	神経系確認試験						
56回目	(目標①②)各種振り返り・復習						
57回目	(目標①②)各種振り返り・復習						
58回目	(目標①②)各種振り返り・復習						
59回目	(目標①②)各種振り返り・復習						
60回目	まとめ試験						
準備学習 時間外学習	<p>(目標①②)準備学習として、使用教科書である救急救命士標準テキストとからだの地図帳の熟読が必要です。</p> <p>また、1年次で学んだ専門科目を再度復習すること。暗記するのではなく理解する。振り返りや見直しを行う。時間外に自己学習をすることを心がける。また、教科書やノート、プリントを使った勉強だけでなく、救急救命士模擬試験や過去問を繰り返し解くことで問題の傾向や出題方法、勉強する内容を抽出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 復習・振り返り ● 時間外自己学習・見直し ● 救急救命士国家試験模擬試験・過去問を解く・やり直し 						
評価方法	随時、確認試験を行い理解度を図る。						
受講生への メッセージ	解剖学では難しい漢字を使用し、内容や範囲が広いので、理解をするまでに非常に時間を必要とする。医療従事者として共通する知識で、この分野を理解しておかなければ救急救命士として人命に携わることができない。自分の目標を叶えるために挫折せずに、少しずつでも構わないので、予習・復習をするようにしてください。						
【使用教科書・教材・参考書】							
改訂第10版 救急救命士標準テキスト							

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	総合基礎 Comprehensive Basics	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員 実務経験	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 (23単位)	開講区分 曜日・時限	前/後期 水・木・金
コース							
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>「救急救命処置」とは「その症状が著しく悪化する恐れがあり、又はその生命が危険な状態にある傷病者が病院又は診療所に搬送されるまでの間に、当該傷病者に対して行われる気道の確保、心拍の回復その他の処置であって、当該傷病者の症状の著しい悪化を防止し、又はその生命の危険を回避するために必要なものという」と定義されている。救急救命士は「救急救命処置」を反復継続して行うことを業としている。国家資格を受けた医療職であり医事法制の全体の枠組みの中で他の医療職との業務の整合性を保ちながらその業の範囲が定められている。その定められた範囲で行う「救急救命処置活動」や傷病者の適切な観察と迅速な緊急度・重症度の判断は救急救命士の必須のスキルとして「整合性がとれる」ように繰り返し改善・向上しながら「効果」「効率」「魅力」を高めるインストラクショナルデザインの実践を行い本授業終了時には各々の説明ができるようになる。</p> <p>救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。</p> <p>本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p> <p>※実務者経験:</p>							
【到達目標】							
<p>病態・疾病によって全身や局所に認める特徴的な症状について学び、救急現場において傷病者の適切は観察と緊急度・重症度判別ができるようになる。</p> <p><具体的目標></p> <p>①観察について説明できる。 ②現場活動の基本について説明できる。 ③全身状態の観察について説明できる。 ④局所の観察について説明できる。</p>							
授業計画・内容							
61回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
62回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
63回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
64回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
65回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
66回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
67回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
68回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
69回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
70回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
71回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
72回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
73回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
74回目	46回救急救命士国家試験問題 解説						
75回目	(目標①)観察について説明できる。 観察の目的と意義・バイタルサインの正常値・観察の方法 問診、視診、聴診、触診						
準備学習 時間外学習	(目標①)観察の目的と意義について理解を深める事で傷病者の状況や病気に気付く事ができるので復習が必要です。 (目標②)救急救命士の活動内容について予習が必要です。 救急救命士の専門性である「病院前救護活動」での適切な観察や重症度・緊急度判断の学びを深め、適切な迅速な病院搬送ができるため復習が必要です。 (目標③)目標②を達成させるために全身観察の重点をしっかりと押さえるために復習が必要です。 (目標④)目標③を達成するために全身観察について復習・予習が必要です。目標③を踏まえ局所観察について理解を深めるため復習が必要です						
評価方法	確認試験・筆記試験を行う。 ●出席率 ●確認テスト 上記を実施する。						
受講生への メッセージ	魅力:救急救命士として基礎的処置を習得することは救命率の向上に繋がります。 救急救命士は専門性で難しいイメージがあると思いますが授業の中で少しずつ過去の国家試験問題を解き学んでいきたいと思っています。						
【使用教科書・教材・参考書】							
改訂第10版 救急救命士標準テキスト							

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	総合基礎 Comprehensive Basics	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員 実務経験	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 (23単位)	開講区分 曜日・時限	前/後期 水・木・金
コース							
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>「救急救命処置」とは「その症状が著しく悪化する恐れがあり、又はその生命が危険な状態にある傷病者が病院又は診療所に搬送されるまでの間に、当該傷病者に対して行われる気道の確保、心拍の回復その他の処置であって、当該傷病者の症状の著しい悪化を防止し、又はその生命の危険を回避するために必要なものを行う」と定義されている。救急救命士は「救急救命処置」を反復継続して行うことを業としている。国家資格を受けた医療職であり医事法制の全体の枠組みの中で他の医療職との業務の整合性を保ちながらその業の範囲が定められている。その定められた範囲で行う「救急救命処置活動」や傷病者の適切な観察と迅速な緊急度・重症度の判断は救急救命士の必須のスキルとして「整合性がとれる」ように繰り返し改善・向上しながら「効果」「効率」「魅力」を高めるインストラクショナルデザインの実践を行い本授業修了時には各々の説明ができるようになる。</p> <p>救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。</p> <p>本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p> <p>※実務者経験:</p>							
【到達目標】							
<p>病態・疾病によって全身や局所に認める特徴的な症状について学び、救急現場において傷病者の適切は観察と緊急度・重症度判別ができるようになる。</p> <p><具体的目標></p> <p>①観察について説明できる。 ②現場活動の基本について説明できる。 ③全身状態の観察について説明できる。 ④局所の観察について説明できる。</p>							
授業計画・内容							
76回目	(目標②)現場活動の基本について説明できる。	状況評価・初期評価・全身観察と重点観察・緊急度、重症度、医療機関選定・搬送、車内活動					
77回目	(目標②)現場活動の基本について説明できる。	全身観察と重点観察・緊急度、重症度、医療機関選定・搬送、車内活動					
78回目	目標①② 確認試験						
79回目	(目標③)全身状態の観察について説明できる。	外見の観察体位、顔貌、顔色、表情、嘔吐、咯血、吐血、四肢の変形、外出血					
80回目	(目標③)全身状態の観察について説明できる。	外見の観察皮膚、失禁、痙攣、栄養会話、態度、歩行、行動					
81回目	(目標③)全身状態の観察について説明できる。	気道に関する観察気道開通、気道閉塞呼吸の有無、性状・循環に関する観察脈拍の有無、性状、様式、血圧					
82回目	(目標③)全身状態の観察について説明できる。	神経に関する観察JCS、GCS、特殊型、神経学的所見異常CPSS、KPSS					
83回目	目標③ 確認試験						
84回目	(目標④)局所の観察について説明できる。	皮膚の観察色調、温度、乾燥、発汗、出血斑、発疹、浮腫					
85回目	(目標④)局所の観察について説明できる。	頭部・顔面・頸部顔面左右差、瞳孔、眼位、眼球・眼瞼結膜、呼気臭、項部硬直、外頸静脈怒張、気管偏位					
86回目	(目標④)局所の観察について説明できる。	頭部・顔面・頸部皮下気腫、腫脹、変形、髄液漏、視覚、聴覚胸郭運動、呼吸音、心音					
87回目	(目標④)局所の観察について説明できる。	腹部腹部膨隆、腹膜刺激徴候、腸蠕動音、腹壁静脈怒張、腹部腫瘤腹部動脈拍動					
88回目	(目標④)局所の観察について説明できる。	鼠頭部・会陰部・骨盤・四肢運動障害、知覚障害、浮腫、腫脹、変形、短縮、動脈拍動関節可動域					
89回目	(目標④)局所の観察について説明できる。	手指、足趾、爪変形、腫脹、色調、潰瘍、爪床圧迫テスト・各種アルゴリズム・緊急度と重症度・判別の基準					
90回目	目標④ 確認試験						
準備学習 時間外学習	<p>(目標①)観察の目的と意義について理解を深める事で傷病者の状況や病気に気付く事ができるので復習が必要です。</p> <p>(目標②)救急救命士の活動内容について予習が必要です。</p> <p>救急救命士の専門性である「病院前救護活動」での適切な観察や重症度・緊急度判断の学びを深め、適切な迅速な病院搬送ができるため復習が必要です。</p> <p>(目標③)目標②を達成させるために全身観察の重点をしっかりと押さえるために復習が必要です。</p> <p>(目標④)目標③を達成するために全身観察について復習・予習が必要です。目標③を踏まえ局所観察について理解を深めるため復習が必要です</p>						
評価方法	<p>確認試験・筆記試験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率 ●確認テスト <p>上記を実施する。</p>						
受講生への メッセージ	<p>魅力:救急救命士として基礎的処置を習得することは救命率の向上に繋がります。</p> <p>救急救命士は専門性で難しいイメージがあると思いますが授業の中で少しずつ過去の国家試験問題を解き学んでいきたいと思っています。</p>						
【使用教科書・教材・参考書】							
改訂第10版 救急救命士標準テキスト							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	総合基礎 Comprehensive Basics	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員 実務経験	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 (23単位)	開講区分 曜日・時限	前/後期 水・木・金
コース							
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命処置概論は救急救命士と活動する上で基礎となる資機材・外傷処置・一時救命処置・在宅医療を網羅し適切かつ迅速に実施しなければなりません。救急救命処置を実施するに当たり気管挿管や一時救命処置を実施し院内でどのような止血法など行っているかなど病院内での活動も学び本授業終了時には各々の説明ができるようになる。</p> <p>救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。</p> <p>本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p> <p>※実務者経験:</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>病院前救護活動における救急救命士の基礎となる資機材や外傷処置を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①資機材による観察、目的について説明できる。</p> <p>目標②外傷処置に対する観察、目的について説明できる。</p> <p>目標③1次救命処置の目的について説明できる。</p> <p>目標④在宅医療の目的について説明できる。</p>							
授業計画・内容							
91回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。①観察の目的と意義・酸素投与方法とその意義・酸素投与時の注意点・SPO2測定とその意義						
92回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。①観察の目的と意義・酸素投与方法とその意義・酸素投与時の注意点・SPO2測定とその意義						
93回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。②観察の目的と意義・血圧測定とその意義・血圧測定の注意点・聴診器の使い方とその意義						
94回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。②観察の目的と意義・血圧測定とその意義・血圧測定の注意点・聴診器の使い方とその意義						
95回目	観察・血圧・聴診認試験						
96回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。③・気管内挿管とは・気管内挿管の適応・気管内挿管の手順・気管内挿管の合併症						
97回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。③・気管内挿管とは・気管内挿管の適応・気管内挿管の手順・気管内挿管の合併症						
98回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。③・気管内挿管とは・気管内挿管の適応・気管内挿管の手順・気管内挿管の合併症						
99回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。③・気管内挿管とは・気管内挿管の適応・気管内挿管の手順・気管内挿管の合併症						
100回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。④・閉鎖式エアウェイの気道確保器具について・ラリゲルマスク・アイジェル・ラリゲルチューブ・コンビチューブ						
101回目	【到達目標】資機材による観察、目的について説明できる。④・閉鎖式エアウェイの気道確保器具について・ラリゲルマスク・アイジェル・ラリゲルチューブ・コンビチューブ						
102回目	気管挿管・閉鎖式エアウェイの気道確保器具について・ラリゲルマスク・アイジェル・ラリゲルチューブ・コンビチューブ確認試験						
103回目	【到達目標】外傷処置に対する観察、目的について説明できる。①・止血方の目的と適応・止血点止血法・SBチューブ・永久止血法・内視鏡による止血法						
104回目	【到達目標】外傷処置に対する観察、目的について説明できる。①・止血方の目的と適応・止血点止血法・SBチューブ・永久止血法・内視鏡による止血法						
105回目	【到達目標】外傷処置に対する観察、目的について説明できる。②・固定処置の目的とその意義・ネックカラー、バックボード・包帯、三角巾・シーネ・陰圧ギブス						
準備学習 時間外学習	(目標①)救急救命士としての資機材による観察、目的について復習が必要です。 (目標②)救急救命士として外傷処置に対する観察、目的について予習が必要です。 (目標③)救急救命士として1次救命処置の目的について復習が必要です。 (目標④)救急救命士として在宅医療の目的について復習が必要です。						
評価方法	確認試験・筆記試験を行う。 ●出席率 ●確認テスト 上記を実施する。						
受講生への メッセージ	魅力:救急救命士として基礎的処置を習得することは救命率の向上に繋がります。 救急救命士は専門的で難しいイメージがあると思いますが授業の中で少しずつ過去の国家試験問題を解き学んでいきたいと思っています。						
【使用教科書・教材・参考書】							
改訂第10版 救急救命士標準テキスト							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	総合基礎 Comprehensive Basics	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員 実務経験	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 (23単位)	開講区分 曜日・時限	前/後期 水・木・金
コース							
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命処置概論は救急救命士と活動する上で基礎となる資機材・外傷処置・一時救命処置・在宅医療を網羅し適切かつ迅速に実施しなければなりません。救急救命処置を実施するに当たり気管挿管や一時救命処置を実施し院内でどのような止血法などを行っているかなど病院内での活動も学び本授業修了時には各々の説明ができるようになる。</p> <p>救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。</p> <p>本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p> <p>※実務者経験:</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>病院前救護活動における救急救命士の基礎となる資機材や外傷処置を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①資機材による観察、目的について説明できる。</p> <p>目標②外傷処置に対する観察、目的について説明できる。</p> <p>目標③1次救命処置の目的について説明できる。</p> <p>目標④在宅医療の目的について説明できる。</p>							
授業計画・内容							
106回目	【到達目標】外傷処置に対する観察、目的について説明できる。②・固定処置の目的とその意義・ネックラー、バックボード・包帯、三角巾・シーネ・陰圧ギブス						
107回目	止血・固定処置確認試験						
108回目	【到達目標】1次救命処置の目的について説明できる。・1次救命処置の目的とその意義・除細動器とその意義・除細動器使用時の合併症						
109回目	【到達目標】1次救命処置の目的について説明できる。・1次救命処置の目的とその意義・除細動器とその意義・除細動器使用時の合併症						
110回目	【到達目標】1次救命処置の目的について説明できる。・1次救命処置の目的とその意義・除細動器とその意義・除細動器使用時の合併症						
111回目	【到達目標】1次救命処置の目的について説明できる。・1次救命処置の目的とその意義・除細動器とその意義・除細動器使用時の合併症						
112回目	1次救命処置確認試験						
113回目	【到達目標】在宅医療の目的について説明できる。・在宅療養とは・在宅療法の種類・酸素療法、自己注射、経管栄養、気管切開、自己導尿など						
114回目	【到達目標】在宅医療の目的について説明できる。・在宅療養とは・在宅療法の種類・酸素療法、自己注射、経管栄養、気管切開、自己導尿など						
115回目	在宅療養・在宅療法確認試験						
116回目	(目標①②)各種振り返り・復習						
117回目	(目標①②)各種振り返り・復習						
118回目	(目標①②)各種振り返り・復習						
119回目	(目標①②)各種振り返り・復習						
120回目	まとめ試験						
準備学習 時間外学習	(目標①)救急救命士としての資機材による観察、目的について復習が必要です。 (目標②)救急救命士として外傷処置に対する観察、目的について予習が必要です。 (目標③)救急救命士として1次救命処置の目的について復習が必要です。 (目標④)救急救命士として在宅医療の目的について復習が必要です。						
評価方法	確認試験・筆記試験を行う。 ●出席率 ●確認テスト 上記を実施する。						
受講生への メッセージ	魅力:救急救命士として基礎的処置を習得することは救命率の向上に繋がります。 救急救命士は専門的で難しいイメージがあると思いますが授業の中で少しずつ過去の国家試験問題を解き学んでいきたいと思っています。						
【使用教科書・教材・参考書】							
改訂第10版 救急救命士標準テキスト							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	総合基礎 Comprehensive Basics	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 (23単位)	実務経験	前/後期
コース						開講区分	曜日・時限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命士の専門職である「救急救命処置」の中でも「包括的指示」であるBLS(Basic Life Support)は自己研鑽が必須であり、「救命の連鎖」として一般市民への指導や普及活動を行う事で傷病者の予後に大きく左右する。「心停止の予防」や「心停止の早期認識」に関して迅速で的確な判断が必要とされる。そのため救急病態生理学を学び病態に関する知識を深める事が重要である。本授業修了時には各々の説明ができるようになる。救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。</p> <p>本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>呼吸不全・循環不全(心不全・ショック)・心肺停止の症候・病態生理学を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①呼吸不全について説明できる</p> <p>目標②心不全について説明できる</p> <p>目標③ショックについて説明できる</p> <p>目標④心肺停止について説明できる</p>							
授業計画・内容							
121回目	(目標④)心肺停止について説明できる ・定義と概念・疫学・ウツタイン様式						
122回目	目標④)心肺停止について説明できる ・心肺停止に至る病態と原因(不整脈、低心拍出量、呼吸不全、その他)						
123回目	目標④)心肺停止について説明できる ・生体酸素状況(不整脈、低心拍出量、呼吸不全、その他)						
124回目	(目標④)心肺停止について説明できる ・主な原因疾患(5H5T)・心電図分類						
125回目	(目標④)心肺停止について説明できる ・心肺蘇生中の生理学的動態・心拍再開後(ROSC)の生理学的動態						
126回目	(目標④)心肺停止について説明できる ・心肺停止についてまとめ・振り返り						
127回目	目標④ 確認試験						
128回目	(目標①)呼吸不全について説明できる ・定義と概念・基本的病態						
129回目	(目標①)呼吸不全について説明できる ・閉塞性、拘束性、混合性換気障害						
130回目	(目標①)呼吸不全について説明できる 低酸素血症、高二酸化炭素血症・緊急度、重症度判別						
131回目	(目標①)呼吸不全について説明できる ・呼吸運動障害(発生機序・病態・対応)・気道の障害(発生機序・病態・対応)						
132回目	(目標①)呼吸不全について説明できる ・肺胞の障害(発生機序・病態・対応)・肺間質の障害(発生機序・病態・対応)						
133回目	(目標①)呼吸不全について説明できる ・呼吸不全についてのまとめ・振り返り						
134回目	(目標②)心不全について説明できる ・定義と概念・原因疾患・病態生理学(心機能曲線、神経・内分泌反応、循環の変化)						
135回目	(目標③)ショックについて説明できる ・循環血液量減少性ショック・心原性ショック						
準備学習 時間外学習	<p>目標①呼吸不全について臨床医学呼吸器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、呼吸・血液生理学、運動学について予習が必要です。</p> <p>目標②心不全について臨床医学循環器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、循環・血液生理学、運動学について予習が必要です。</p> <p>目標③ショックについて目標①②の復習が必要です。</p> <p>目標④心肺停止について臨床医学循環器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、循環・血液生理学、運動学について予習が必要です。</p>						
評価方法	<p>確認試験・筆記試験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率 ●確認テスト <p>上記を実施する。</p>						
受講生への メッセージ	<p>魅力:一般市民へ指導の立場でもある救急救命士は実際に活動内容を体験でき本授業の概要の理解が深まります。さらに自己研鑽する事で「包括的指示」の中でも迅速に的確に判断・処置することができ今後の現場活動に活かされます。</p>						
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>改訂第10版 救急救命士標準テキスト</p>							

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	総合基礎 Comprehensive Basics	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員	専任教員										
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 (23単位)	実務経験	前/後期										
コース						開講区分	水・木・金										
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命士の専門職である「救急救命処置」の中でも「包括的指示」であるBLS(Basic Life Support)は自己研鑽が必須であり、「救命の連鎖」として一般市民への指導や普及活動を行う事で傷病者の予後に大きく左右する。「心停止の予防」や「救急救命士の専門職である「救急救命処置」の中でも「包括的指示」であるBLS(Basic Life Support)は自己研鑽が必須であり、「救命の連鎖」として一般市民への指導や普及活動を行う事で傷病者の予後に大きく左右する。「心停止の予防」や「心停止の早期認識」に関して迅速的確な判断が必要とされる。そのため救急病態生理学を学び病態に関する知識を深める事が重要である。本授業修了時には各々の説明ができるようになる。さらに、救急病態生理学Ⅰで習得した内容からさらに各症候・病態生理を深める事で救命の連鎖である「二次救命処置と自己心拍再開後の集中治療」について説明できるようになる。救急救命士は一次救命処置(BLS)と平行して「救急救命処置」の「特定行為」である薬剤投与や気道確保器具などを利用した二次救命処置を行う事でより多くの傷病者の救命率の向上と予後の改善に繋がります。救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p>																	
<p>【到達目標】</p> <p>呼吸不全・循環不全(心不全・ショック)・心肺停止の症候・病態生理を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。 神経系に関わる疾患の症候・病態生理を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <table border="0"> <tr> <td>目標①呼吸不全について説明できる</td> <td>目標⑥意識障害について説明できる</td> </tr> <tr> <td>目標②心不全について説明できる</td> <td>目標⑦頭痛について説明できる</td> </tr> <tr> <td>目標③ショックについて説明できる</td> <td>目標⑧痙攣について説明できる</td> </tr> <tr> <td>目標④心肺停止について説明できる</td> <td>目標⑨運動麻痺について説明できる</td> </tr> <tr> <td>目標⑤重症脳障害について説明できる</td> <td></td> </tr> </table>								目標①呼吸不全について説明できる	目標⑥意識障害について説明できる	目標②心不全について説明できる	目標⑦頭痛について説明できる	目標③ショックについて説明できる	目標⑧痙攣について説明できる	目標④心肺停止について説明できる	目標⑨運動麻痺について説明できる	目標⑤重症脳障害について説明できる	
目標①呼吸不全について説明できる	目標⑥意識障害について説明できる																
目標②心不全について説明できる	目標⑦頭痛について説明できる																
目標③ショックについて説明できる	目標⑧痙攣について説明できる																
目標④心肺停止について説明できる	目標⑨運動麻痺について説明できる																
目標⑤重症脳障害について説明できる																	
授業計画・内容																	
136回目	(目標③)ショックについて説明できる ・心外閉塞・拘束性ショック・血液分布異常性ショック																
137回目	(目標③)ショックについて説明できる ・ショックについてのまとめ・振り返り																
138回目	(目標③)ショックについて説明できる ・定義と概念・ショックの判断と判別・種類と分類・緊急度、重症度判別・病態																
139回目	目標①③ 確認試験																
140回目	(目標②)心不全について説明できる ・心不全についてのまとめ・振り返り																
141回目	(目標②)心不全について説明できる ・慢性心不全の急性増悪・現場活動																
142回目	(目標②)心不全について説明できる ・症候(低心拍出量、肺うっ血、体循環うっ血、循環系)・種類(急性・慢性・左心・右心・うっ血)																
143回目	(目標⑤)重症脳障害について説明できる ・概念・発生機序																
144回目	(目標⑤)重症脳障害について説明できる ・一次性脳病変、二次性脳病変																
145回目	(目標⑤)重症脳障害について説明できる ・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア																
146回目	(目標⑤)重症脳障害について説明できる ・特殊な意識障害																
147回目	(目標⑤)重症脳障害について説明できる ・脳障害まとめ・脳障害振り返り																
148回目	目標②⑤ 確認試験																
149回目	(目標⑥)意識障害について説明できる ・原因1. 一次性脳病変2. 二次性脳病変・随伴症状																
150回目	(目標⑥)意識障害について説明できる ・随伴症状 1. バイタル異常2. 一般症候3. 神経所見																
準備学習 時間外学習	<p>目標①呼吸不全について臨床医学呼吸器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、呼吸・血液生理学、運動学について予習が必要です。 目標②心不全について臨床医学循環器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、循環・血液生理学、運動学について予習が必要です。 目標③ショックについて目標①②の復習が必要です。 目標④心肺停止について臨床医学循環器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、循環・血液生理学、運動学について予習が必要です。 前提: この授業を受けるには、臨床医学脳神経疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、脳神経・血液生理学、運動学について予習が必要です。 (目標①～⑥)各症候の振り返りと復習が必要です 最終的にAHA-BLSプロバイダー受講するので事前学習が必要です。</p>																
評価方法	<p>確認試験・筆記試験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率 ●確認テスト <p>上記を実施する。</p>																
受講生への メッセージ	<p>魅力: 一般市民へ指導の立場でもある救急救命士は実際に活動内容を体験でき本授業の概要の理解が深まります。さらに自己研鑽する事で「包括的指示」の中でも迅速に的確に判断・処置することができ今後の現場活動に活かされます。</p>																
【使用教科書・教材・参考書】																	
改訂第10版 救急救命士標準テキスト																	

2024年度 授業概要

学 科 : 救急救命公務員科

科目名 (英)	総合基礎 Comprehensive Basics	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員 実務経験	専任教員
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 (23単位)	開講区分 曜日・時限	前/後期 水・木・金
コース							
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命士の専門職である「救急救命処置」の中でも「包括的指示」であるBLS(Basic Life Support)は自己研鑽が必須であり、「救命の連鎖」として一般市民への指導や普及活動を行う事で傷病者の予後に大きく左右する。「心停止の予防」や「救急救命士の専門職である「救急救命処置」の中でも「包括的指示」であるBLS(Basic Life Support)は自己研鑽が必須であり、「救命の連鎖」として一般市民への指導や普及活動を行う事で傷病者の予後に大きく左右する。「心停止の予防」や「心停止の早期認識」に関して迅速的確な判断が必要とされる。そのため救急病態生理学を学び病態に関する知識を深める事が重要である。本授業終了時には各々の説明ができるようになる。さらに、救急病態生理学Ⅰで習得した内容からさらに各症候・病態生理を深める事で救命の連鎖である「二次救命処置と自己心拍再開後の集中治療」について説明できるようになる。救急救命士は一次救命処置(BLS)と平行して「救急救命処置」の「特定行為」である薬剤投与や気道確保器具などを利用した二次救命処置を行う事でより多くの傷病者の救命率の向上と予後の改善に繋がります。救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>呼吸不全・循環不全(心不全・ショック)・心肺停止の症候・病態生理を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。 神経系に関わる疾患の症候・病態生理を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <p>目標①呼吸不全について説明できる 目標②心不全について説明できる 目標③ショックについて説明できる 目標④心肺停止について説明できる 目標⑤重症脳障害について説明できる</p> <p>目標⑥意識障害について説明できる 目標⑦頭痛について説明できる 目標⑧痙攣について説明できる 目標⑨運動麻痺について説明できる</p>							
授業計画・内容							
151回目	(目標⑥)意識障害について説明できる ・判別を要する病態						
152回目	(目標⑥)意識障害について説明できる ・緊急度、重症度判別・現場活動						
153回目	(目標⑦)頭痛について説明できる ・発症機序・分類1. 一次性頭痛2. 二次性頭痛						
154回目	(目標⑦)頭痛について説明できる ・原因疾患						
155回目	(目標⑦)頭痛について説明できる ・発症の状況・性状						
156回目	(目標⑦)頭痛について説明できる ・随伴症状・緊急度重症度の判断・現場活動						
157回目	目標⑥⑦ 確認試験						
158回目	(目標⑧)痙攣について説明できる ・定義、概念・病態						
159回目	(目標⑧)痙攣について説明できる 種類1. 局所性2. 全身性						
160回目	(目標⑧)痙攣について説明できる ・原因疾患・随伴症状						
161回目	(目標⑧)痙攣について説明できる ・判別を要する病態・緊急度、重症度の判断・現場活動						
162回目	(目標⑨)運動麻痺について説明できる ・定義、概念・発症機序						
163回目	(目標⑨)運動麻痺について説明できる ・分類1. 単麻痺 2. 片麻痺3. 対麻痺4. 四肢麻痺 5. 交叉性片麻痺						
164回目	(目標⑨)運動麻痺について説明できる ・原因疾患・随伴症状						
165回目	(目標⑨)運動麻痺について説明できる ・判別を要する病態・緊急度、重症度の判断・現場活動						
準備学習 時間外学習	<p>目標①呼吸不全について臨床医学呼吸器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、呼吸・血液生理学、運動学について予習が必要です。 目標②心不全について臨床医学循環器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、循環・血液生理学、運動学について予習が必要です。 目標③ショックについて目標①②の復習が必要です。 目標④心肺停止について臨床医学循環器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、循環・血液生理学、運動学について予習が必要です。 前提:この授業を受けるには、臨床医学脳神経疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、脳神経・血液生理学、運動学について予習が必要です。 (目標①～⑥)各症候の振り返りと復習が必要です 最終的にAHA-BLSプロバイダー受講するので事前学習が必要です。</p>						
評価方法	<p>確認試験・筆記試験を行う。 ●出席率 ●確認テスト 上記を実施する。</p>						
受講生への メッセージ	<p>魅力:一般市民へ指導の立場でもある救急救命士は実際に活動内容を体験でき本授業の概要の理解が深まります。さらに自己研鑽する事で「包括的指示」の中でも迅速に的確に判断・処置することができ今後の現場活動に活かされます。</p>						
【使用教科書・教材・参考書】							
改訂第10版 救急救命士標準テキスト							

2024年度 授業概要

学 科：救急救命公務員科

科目名 (英)	総合基礎 Comprehensive Basics	必修 選択	選択	年次	3年次	担当教員 実務経験	専任教員										
	コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	345 (23単位)	開講区分 曜日・時限	前/後期 水・木・金										
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>救急救命士の専門職である「救急救命処置」の中でも「包括的指示」であるBLS(Basic Life Support)は自己研鑽が必須であり、「救命の連鎖」として一般市民への指導や普及活動を行う事で傷病者の予後に大きく左右する。「心停止の予防」や「救急救命士の専門職である「救急救命処置」の中でも「包括的指示」であるBLS(Basic Life Support)は自己研鑽が必須であり、「救命の連鎖」として一般市民への指導や普及活動を行う事で傷病者の予後に大きく左右する。「心停止の予防」や「心停止の早期認識」に関して迅速で的確な判断が必要とされる。そのため救急病態生理学を学び病態に関する知識を深める事が重要である。本授業修了時には各々の説明ができるようになる。さらに、救急病態生理学Ⅰで習得した内容からさらに各症候・病態生理を深める事で救命の連鎖である「二次救命処置と自己心拍再開後の集中治療」について説明できるようになる。救急救命士は一次救命処置(BLS)と平行して「救急救命処置」の「特定行為」である薬剤投与や気道確保器具などを利用した二次救命処置を行う事でより多くの傷病者の救命率の向上と予後の改善に繋がります。救急救命士標準テキストによる講義や救急救命士国家試験模擬試験及び過去問等で知識や解く力を身につけ、グループ学習を通じてインプット・アウトプットを行うことでより正確な知識を身につけます。本講義終了後、救急救命士国家試験に必要な知識や読解力、解く力を身につけ、合格基準に到達できるようになる。</p>																	
<p>【到達目標】</p> <p>呼吸不全・循環不全(心不全・ショック)・心肺停止の症候・病態生理を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。神経系に関わる疾患の症候・病態生理を学び、救急現場において適切な観察・評価・救急処置ができるようになる。</p> <p><具体的な目標></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">目標①呼吸不全について説明できる</td> <td style="width: 50%;">目標⑥意識障害について説明できる</td> </tr> <tr> <td>目標②心不全について説明できる</td> <td>目標⑦頭痛について説明できる</td> </tr> <tr> <td>目標③ショックについて説明できる</td> <td>目標⑧痙攣について説明できる</td> </tr> <tr> <td>目標④心肺停止について説明できる</td> <td>目標⑨運動麻痺について説明できる</td> </tr> <tr> <td>目標⑤重症脳障害について説明できる</td> <td></td> </tr> </table>								目標①呼吸不全について説明できる	目標⑥意識障害について説明できる	目標②心不全について説明できる	目標⑦頭痛について説明できる	目標③ショックについて説明できる	目標⑧痙攣について説明できる	目標④心肺停止について説明できる	目標⑨運動麻痺について説明できる	目標⑤重症脳障害について説明できる	
目標①呼吸不全について説明できる	目標⑥意識障害について説明できる																
目標②心不全について説明できる	目標⑦頭痛について説明できる																
目標③ショックについて説明できる	目標⑧痙攣について説明できる																
目標④心肺停止について説明できる	目標⑨運動麻痺について説明できる																
目標⑤重症脳障害について説明できる																	
授業計画・内容																	
166回目	目標⑧⑨ 確認試験																
167回目	各種振り返り・復習																
168回目	各種振り返り・復習																
169回目	各種振り返り・復習																
170回目	各種振り返り・復習																
171回目	各種振り返り・復習																
172回目	各種振り返り・復習																
173回目	まとめ試験																
準備学習 時間外学習	<p>目標①呼吸不全について臨床医学呼吸器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、呼吸・血液生理学、運動学について予習が必要です。</p> <p>目標②心不全について臨床医学循環器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、循環・血液生理学、運動学について予習が必要です。</p> <p>目標③ショックについて目標①②の復習が必要です。</p> <p>目標④心肺停止について臨床医学循環器疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、循環・血液生理学、運動学について予習が必要です。</p> <p>前提:この授業を受けるには、臨床医学脳神経疾患の理解が不可欠です。さらに解剖学、脳神経・血液生理学、運動学について予習が必要です。</p> <p>(目標①～⑥)各症候の振り返りと復習が必要です</p> <p>最終的にAHA-BLSプロバイダー受講するので事前学習が必要です。</p>																
評価方法	<p>確認試験・筆記試験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出席率 ●確認テスト <p>上記を実施する。</p>																
受講生への メッセージ	<p>魅力:一般市民へ指導の立場でもある救急救命士は実際に活動内容を体験でき本授業の概要の理解が深まります。さらに自己研鑽する事で「包括的指示」の中でも迅速に的確に判断・処置することができ今後の現場活動に活かされます。</p>																
【使用教科書・教材・参考書】																	
改訂第10版 救急救命士標準テキスト																	